

こ ばり い せき
後 張 遺 跡 III

— C 地 点 の 調 査 —

2 0 0 5

埼玉県児玉町遺跡調査会



後張遺跡C地点とその周辺（1995年頃）



1. 後張遺跡C地点全景



2. 河道跡



1. 河道跡内土壙



2. 第195号住居跡出土パレス壺

序

埼玉県の北部に位置する人口2万人余りの児玉町は、豊かな自然環境と緑に恵まれたまことに風光明媚なところで、歴史的にも源平合戦で活躍した児玉党や江戸時代の盲目の国学者塙保己一を輩出した町として広く知られるところです。

このような自然と歴史と文化のかおり高い当町も、近年は産業構造の急速な変化に伴い大小様々な開発が増え、日々その景観を変えつつあります。それとともに、我々の歴史や文化の発展の礎である埋蔵文化財や民俗文化財など失われていく文化財も多く、それらを保護し継承しながら後世に伝えていくことは、現代を生きる我々の重要な責務の一つと言えます。

後張遺跡は、昭和51年に関越自動車道建設に先立って埼玉県教育委員会が初めて発掘調査を実施し、児玉地方を代表する古墳時代の大集落跡であることが明らかにされています。今回報告するC地点は、その北側隣接地にあたり、古墳時代の多くの住居跡を検出するとともに多量の遺物が出土し、本遺跡の具体的な性格や当地方の古墳時代の形成と発展の様相を考えるうえで、大変貴重な資料を得ることができました。

本書が、学術的な研究資料としてはもとより、文化財の保護や啓発・普及のために、多くの方々によって広くご活用いただければ幸甚に存じます。

最後に、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行まで、深いご理解とご協力を賜りました関係各位に、心から感謝申し上げます。

平成17年11月10日

児玉町遺跡調査会
会長 雉岡 茂

例 言

1. 本書は、埼玉県児玉郡児玉町大字下浅見字後張155番地外に所在する後張遺跡（C地点）の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の報告書は、関越自動車道建設に先立って発掘調査されたA・B地点の成果が、すでに埼玉県埋蔵文化財調査事業団によってⅠ・Ⅱとして刊行されている。そのため本書は、本遺跡の3冊目の報告書となるため、Ⅲとした。
3. 調査地点は、関越自動車道建設に先立って調査された地点がすでにA・B地点とされていることから、それに従ってC地点と呼称した。なお、C地点の調査面積は約3800㎡である。
4. 発掘調査は、株式会社いづか産業の倉庫建設に伴う事前の記録保存を目的とし、1985年2月20日から7月31日までの期間に実施した。
5. 発掘調査は、株式会社いづか産業の依頼を受けて、児玉町後張第二次遺跡調査会（現児玉町遺跡調査会）が行い、その調査担当には鈴木徳雄と恋河内昭彦の両名があった。
6. 発掘調査から整理・報告書刊行までの経費は、すべて株式会社いづか産業が負担した。
7. 本書第8図中に記載したXY座標値は、測量法の改正に伴って世界測地系の新座標に変換した数値で、括弧内の数値は発掘調査当時の日本測地系による旧座標値である。また、巻末抄録中の北緯東経の数値も、世界測地系の新座標の数値に変換したものである。
8. 平面図に示した方位はすべて座標北であり、断面図の左上に示した数字は標高（m）である。
9. 遺構番号は、調査時には便宜的にすべてC-1号から付けたが、A・B地点の遺構番号と重複する煩雑さをさけるため、A・B地点の続き番号に変更して正式番号とした。なお、新旧遺構番号の対比は別表のとおりである。
10. 本書の執筆・編集は、整理参加者の協力を得て恋河内が行った。
11. 現地発掘調査及び本書作成にあたって、下記の方々や機関より御助言・御協力を賜った。すでに故人になられた方もいるが、ここに記して感謝の意を表したい。

赤熊浩一、荒川正夫、伊丹 徹、出縄康行、井上尚明、岩崎卓也、岩瀬 譲、梅沢太夫夫、太田博之、大塚初重、岡本幸男、柿沼幹夫、金子彰男、加部二生、久保哲三、小出輝雄、小林 修、駒宮史朗、坂本和俊、笹森紀巴子、笹森健一、篠崎 潔、鈴木秀雄、外尾常人、田口一郎、立石盛詞、田村 誠、富田和夫、鳥羽政之、中沢良一、長滝歳康、中村倉司、西口正純、長谷川勇、長谷川福治、板野和信、平田重之、深沢敦仁、福田 聖、増田逸朗、増田一裕、松本 完、的野義行、丸山 修、水島治平、宮本直樹、矢内 勲、山川守男、山崎 武、若荻 徹、埼玉県教育局文化財保護課、埼玉県埋蔵文化財調査事業団、本庄市立歴史民俗資料館、早稲田大学本庄考古資料館。

12. 本書作成のための整理作業には、担当者のほか下記の者が参加した。
石井美徳、磯崎勝人、板谷 康、稲本恵子、鈴木浩二、鈴木善浩、田口直美、田口照代、林 和代、林 浩樹、藤原裕也、本間桂吉、増田久江、山崎やす子、横山 泉、吉田 茂、

新旧遺構番号対比表

旧 番 号	新 番 号
C-1号住居跡	第192号住居跡
C-2号住居跡	第193号住居跡
C-3号住居跡	第194号住居跡
C-4号住居跡	第195号住居跡
C-5号住居跡	第196号住居跡
C-6号住居跡	第197号住居跡
C-7号住居跡	第198号住居跡
C-8号住居跡	第199号住居跡
C-9号住居跡	第200号住居跡
C-10号住居跡	第201号住居跡
C-11号住居跡	第202号住居跡
C-12号住居跡	第203号住居跡
C-13号住居跡	第204号住居跡
C-14号住居跡	第205号住居跡
C-15号住居跡	第206号住居跡
C-16号住居跡	第207号住居跡
C-17号住居跡	第208号住居跡
C-18号住居跡	第209号住居跡
C-19号住居跡	第210号住居跡
C-20号住居跡	第211号住居跡
C-21号住居跡	第212号住居跡
C-22号住居跡	第213号住居跡
C-23号住居跡	第214号住居跡

旧 番 号	新 番 号
C-24号住居跡	第215号住居跡
C-25号住居跡	第216号住居跡
C-26号住居跡	第217号住居跡
C-1号土壇	第38号土壇
C-2号土壇	第39号土壇
C-3号土壇	第40号土壇
C-4号土壇	第41号土壇
C-5号土壇	第42号土壇
C-6号土壇	第43号土壇
C-7号土壇	第44号土壇
C-8号土壇	第45号土壇
C-9号土壇	第46号土壇
C-10号土壇	第47号土壇
C-11号土壇	第48号土壇
C-1号井戸跡	第4号井戸跡
C-2号井戸跡	第5号井戸跡
C-3号井戸跡	第6号井戸跡
C-4号井戸跡	第7号井戸跡
C-5号井戸跡	第8号井戸跡
C-6号井戸跡	第9号井戸跡
C-7号井戸跡	第10号井戸跡
北側大溝	C-2号溝跡群
南側大溝	河道跡

出土遺物観察表凡例

A-法 量	(各部位とも最大値を測定。カッコ内は推定)
B-成形手法	(粘土細積み上げと手握ねに大別し、前者は判別できるものは巻き上げと輪積みに細別)
C-調整手法	(ヨコナデは単に方向を示し、ロクロ使用は回転ナデと表記)
D-胎 土	(その土器の特徴的なものを記載)
E-焼 成	(観察者の主観的基準により良好と不良に大別)
F-色 調	(橙褐色・茶褐色・黒褐色を基準に、土器の最も多い部分を占める色調を記載)
G-備 考	(観察項目以外で特徴的な事を記載)
H-出土層位	(床面から5cm以内を床直上、それ以上及び二次的な投げ込みは覆土中と記載)
I-残 存 度	(完形を1とし、それに対する残存部分の割合を分数で記載)

目 次

巻頭図版

序

例 言

I. 発掘調査に至る経緯	1
II. 遺跡の地理的・歴史的環境	3
1. 地理的環境	3
2. 歴史的環境	5
III. 発掘調査の経過	13
IV. 遺跡の概要	15
1. 後張遺跡の概要	15
2. C地点の概要	17
V. 検出された遺構と遺物	19
1. 竪穴式住居跡	19
2. 土 城	121
3. 井 戸 跡	127
4. 溝 跡	133
5. 河 道 跡	138
6. 縄 文 土 器	165
参考文献	166

写真図版

報告書抄録

児玉町後張第二次遺跡調査会組織（当時）

会 長	石井 栄一	児玉町教育委員会教育長	
理 事	田島 三郎	児玉町文化財保護審議委員長	
〃	清水 守雄	児玉町文化財保護審議委員	
〃	菅谷 浩之	〃	
〃	根岸 繁次	〃	
〃	小賀野順一	下浅見区長	
〃	飯塚 和夫	株式会社いづか産業代表取締役	
〃	石坂 正一	児玉町役場開発課長	
〃	大塚 勲	児玉町教育委員会社会教育課長補佐	
〃	中林 重	児玉町教育委員会社会教育課長	(1985年4月より)
監 事	作美亥三郎	児玉町監査委員	
〃	古川 利泉	児玉町文化財保護審議委員	
幹 事	岩上 高男	児玉町教育委員会社会教育係長	
〃	金子 幸弘	児玉町教育委員会社会教育課主事	
〃	本間 良子	〃	
〃	鈴木 徳雄	〃	
〃	恋河内昭彦	〃	(1985年4月より)

発掘調査参加者

新井サト子、新井リン、石原秀彦、市川淳子、猪野佳一、磐上しず江、岩崎キクノ、岩崎ケイ、岩崎リン、梅沢トモ子、生形千代子、江原明美、江原 英、大関 武、大谷繁徳、大屋道則、小賀野フジ、奥原ヤス子、尾崎美砂、尾内俊彦、久保ヒサ江、倉林照子、小林ツル子、酒井 隆、坂田喜和子、沢本和子、沢本スミ江、清水和江、志村 勇、菅沼毎平、杉山セツ子、関根喜久枝、関根トヨ、関根ユキエ、武政サト、戸沢ミチ子、富崎豊和、中 よし江、中野 浄、永尾順一、野本キク江、蓮 梅子、冬木トシ、松村菊治、峰村 篤、宮内秀明、山口ユキ、山田松枝、

I. 発掘調査に至る経緯

昭和59年4月7日、関越自動車道本庄・児玉インターチェンジ料金の西側隣接地3800㎡に倉庫建設を予定している株式会社いづか産業より、同建設用地内における「埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについて」の照会文書が、児玉町教育委員会教育長あてに提出された。

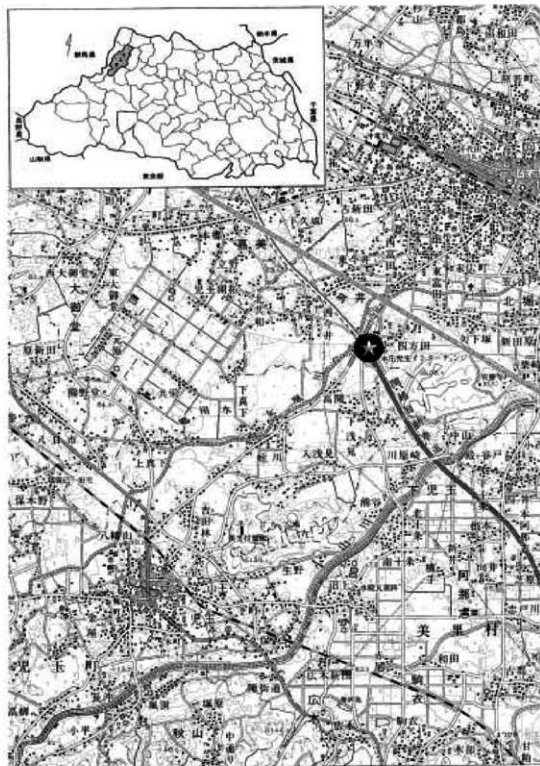
これを受けて町教委では早速担当職員が現地を確認し、建設用地を「埼玉県遺跡地図」と照合したところ、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外ではあるが、埼玉県教育委員会が関越自動車道建設に先立って発掘調査した古墳時代の大集落である後張遺跡の隣接地にあたることから、建設用地にはそれに関連する遺構が存在する可能性が極めて高いと考えられた。しかし、町内の民間開発では開発規模が比較的大きく、またその対処については急激に増加しつつあるインターチェンジ周辺の民間開発に対する今後の文化財保護に多大の影響が憂慮されることから、4月10日付け児教社第2号の照会文書を添付して県教育局文化財保護課の意見を聞くことにした。

そして「とりえず周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であるため、まず試掘調査により遺跡の有無を明確にすることが必要である」という県文化財保護課の指導を受けて、原因者と町教委の立ち会いのもと、5月11日に建設用地の一部を試掘調査した。その結果、古墳時代の住居跡等の遺構が確認され、遺構の所在が明確になったため町教委は原因者に対し「遺跡は現状保存するのが望ましいが、計画上やむを得ず現状変更する場合は事前に町教委と協議し、記録保存のための発掘調査を実施するように」回答した。

しかし、原因者から「すでに工事計画が進行しており、現時点で現状保存することは困難であるため発掘調査を実施してほしい」との連絡をうけたため、町教委ではその取り扱いを検討したが、今年度はすでに公共事業に伴う発掘調査で手一杯であり、早急に対処できないため、県文化財保護課と町教委で協議をした結果、建設用地全域の試掘調査を行い、遺構の無い場所に倉庫を建設するよう計画変更の協力を要請することにした。ところが、県文化財保護課・町教委・原因者の三者立ち会いのもとで建設用地全域の試掘調査を実施したところ、遺構がほぼ用地全域に分布していることが確認されたため、計画変更も不可能となり、ついに建設用地全域の発掘調査を実施する方向で協議を進めていくことになった。

その後、町教委と原因者との間で調査機関や日程等の調査計画の細かな調整を何回か行い、町教委の事業のめどがたってきたのみで、年が明けた昭和60年1月23日に原因者より町教委に「発掘調査依頼書」が提出された。町教委では発掘調査を実施するにあたりその調査機関として後張第二次遺跡調査会を組織し、2月20日の同調査会役員会において同調査会会長と株式会社いづか産業代表取締役との間で埋蔵文化財発掘調査事業に関する委託契約が締結された。かくして、株式会社いづか産業から文化財保護法第57条の2第1項の規定による「埋蔵文化財発掘届」が、調査会から同法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査通知」が文化庁長官あてに提出され、発掘調査が開始されることとなった。

なお、文化庁からは昭和60年4月2日付委保第5の365号により発掘調査に対する指示通知があった。



第1圖 後張遺跡位置図

Ⅱ. 遺跡の地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

埼玉県北西部の児玉郡児玉町は、南東から北西方向約7km・南西から北東方向約14kmの南西から北東に長い形を呈し、そのほぼ中央を横断する断層線（八王子―高崎構造線）によって、南西側の山地と北東側の平野地域に大きく二分される。

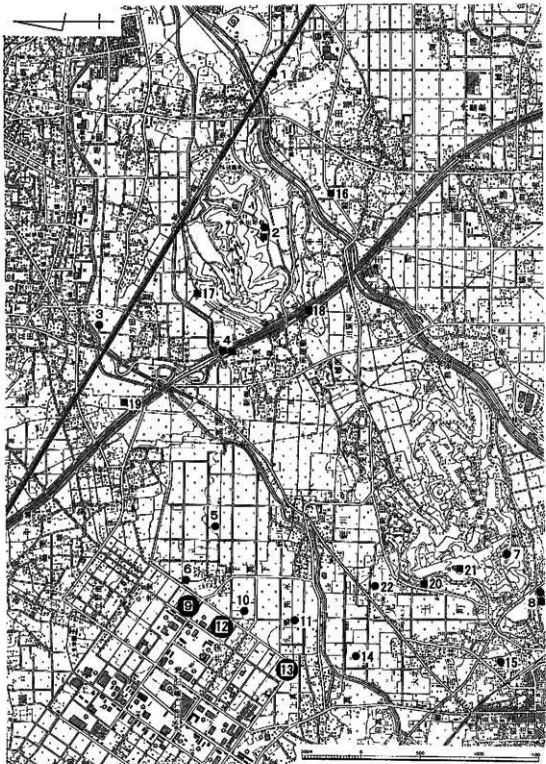
南西側半分を占める山地は、埼玉県の地質では最も古い古期地層群に属す広義の秩父山地であるが、細かくは秩父盆地と荒川によって区分される上武山地と呼ばれている。この上武山地は、地形的には緩傾斜面で開析が進んでおり、地質的には三波川結晶片岩の分布が特徴とされている（堀口1980）。標高は、神山593m・不動山549m・陣見山531mと500m級の山々が連なっているが、山地の北端に位置することもあり、秩父山地を構成する山々の中では比較的低い方である。

北東側の平野地域は、丘陵部と台地及び低地からなっている。丘陵は、山地から半島状に細長く北東方向にいくつも伸びており、標高は100m前後を測る。小山川（旧身馴川）を境にして、西側を児玉丘陵、東側を松久丘陵と呼んでおり、低地内にも河川の開析によりこれらから分断された大久保山・鷲山・生野山が残丘として列状に存在している。これらの丘陵は、第三期層を基盤とした新期地層群に属し、その最上面には洪積世に堆積した浅間山起源とされる北関東の上部ローム層（河西1981）が1m位の厚さで被覆している。

台地は、平野の大部分を占め、本庄台地と呼ばれている。低地との比高差があまりない平坦な地形を呈し、標高は50m～100mで、北東方向に緩やかに傾斜している。この台地は神流川によって洪積世に形成された緩傾斜扇状地で、礫層の上にローム層が薄く被覆する最新期地層群に属すとされているが、地層は場所によって一様ではなく、複雑な様相を呈している。台地北端部は、ほぼ国道17号線に沿って利根川の浸食による河岸段丘が発達しており、そこには多くの湧水が見られる。

低地は、上武山地に源を発して台地上を流れる金鑽川・赤根川・女堀川・小山川等の中小河川の開析作用によって形成されたもので、女堀川沖積低地と呼ばれている。河川に沿って南西から北東方向に帯状に広がり、沖積土が50cm～1m堆積している。この女堀川沖積低地内には、開析作用により島状に残された微高地や堆積作用により形成された帯状の自然堤防が存在するが、大久保山・生野山の残丘を挟んで南東側に隣接する美里町の小山川・志戸川流域に比べて規模が小さく、また低地自体も狭い。

本遺跡は、このような地形的・地質的条件をもつ当地域の中で、平野地域の女堀川沖積低地内にある標高68mの自然堤防上に立地している。この女堀川沖積低地は古くより旧児玉郡の農業生産の中心的基盤をなし、現在も減反とはいえその大部分を水田が占めている。水田面積は、児玉町だけで約450haあり、当町の中でも最大の穀倉地帯を形成している。しかし、現在見られるような当地域の耕地の安定化はごく最近なされたもので、それ以前は一度渇水すると流血事件にも及ぶ激しい水争いが行われてきた地域である。



第2図 周辺の縄文・弥生時代主要遺跡 (●—縄文、■—弥生)

当地域は、前述のように典型的な扇状地地形であるため、その地質的構造より水の多くは浸透して地下水となり、扇状地先端部の河岸段丘断面で湧水として表出する。そのため台地上面の表流水は非常に少なく、従ってそれらを集める赤根川や女堀川の自然河川の水量では、渇水時には上流域の灌漑だけで枯渇し、余水が下流までいかないことが多かったようである。

このように女堀川沖積低地では、その中を流れている自然河川だけでは水量が不足するため、古くから九郷用水を掘削して神流川の水を引き、これによって大部分の水田を灌漑している。つまり言い換えれば、現在見られるような女堀川沖積低地の全域に及ぶ水田開発は、この九郷用水の掘削によって初めて可能になったと言える。しかし、神流川自体も水量が少ないために、この九郷用水は常に安定した用水供給ができたわけではなく、当地域の大きな水争いも、主にこの九郷用水の水をめぐって起こっている（長谷川他1989）。

女堀川沖積低地の水田経営における水不足の問題が解消し、地域住民の長年の悲願が達成されたのは、昭和43年3月に下久保ダムが完成し、それによって農業用水の安定供給が確保されるようになってからであり（長谷川1981）、それは本当にごく最近の現代のことなのである。

2. 歴史的環境

女堀川沖積低地及びその周辺には、低地北西側の本庄台地縁辺、低地内の自然堤防上や微高地上、低地南東側の大久保山・鷺山・生野山の列状に並ぶ残丘上やその斜面下の台地上を中心として、各時代に渡り多くの遺跡が存在する。また、それらに囲まれた水田地帯には、連続する一町四方の条里形地割り（児玉条里遺跡・金屋条里遺跡）がほぼ全域に認められ、古くより当地域の生産基盤の中心であったことが窺える。

女堀川沖積低地内への集落の進出は、現在までの調査成果では縄文時代の中期後半に遡る。該期には本庄台地の縁辺部に将監塚遺跡・古井戸遺跡・新宮遺跡の三つの大規模な環状集落が近接して形成されるが、加曾利E3期になると中下田遺跡や西富田前田遺跡に見られるような数軒の住居からなる小規模な集落が低地内に出現する。この時代の女堀川沖積低地は、低木が所々に生い茂る原野のような景観を呈していたと考えられるが、最下層の水田層下にも中期後半の土器片や石器が散在的に検出され、また該期の倒木痕なども比較的多く見られることから、周辺集落の生活領域として低地内でも積極的に活動していたことが窺われる。後・晩期になると、中期に比べて遺跡数は減少し、その分布密度はかなり希薄な状況となるが、女池遺跡や藤塚遺跡のように旧河道や湧水点に接した場所に立地する傾向が窺える。

弥生時代の遺跡は、当低地内及びその周辺での検出例は今のところ非常に少ない。前期～中期の遺跡は、低地内の今井条里遺跡で中期中葉頃の土壌が3基、低地周辺の北側本庄台地上の夏目西遺跡で中期中葉頃の土壌が1基、東側大久保山残丘上の大久保山遺跡で同じく中期中葉頃の土壌群が検出されているだけである。当地方の該期集落は、小山川・志戸川流域に位置する村後遺跡のように、中期中頃になって低地内への本格的な進出が一部に見られるが、それらの低地開発を契機としてその後長期間にわたって継続的に営まれるような集落はなく、比較的単発的な進出傾向が窺える。



第3図 周辺の古墳時代主要遺跡 (■—前期、●—中期、▲—後期)

後期では、ほとんどの集落が谷に面した丘陵上に立地しており、近くの小支谷の湧水を利用した小規模な谷田を水稻耕作の基盤にしていたものと推測される。後期後半～末には当低地に隣接した近くの生野山や大久保山の残丘上と残丘斜面下の台地上にも生野山遺跡(吉ヶ谷式)・大久保山遺跡(吉ヶ谷式)・塚山遺跡(二軒屋式)・飯玉東遺跡(樽式)・山根遺跡(樽式)などの集落が形成されるが、これらの集落も比較的単一時期に近い小規模な集落が主体であることから、眼下あるいは前面に広がる当低地の本格的な開発を目的としたものではなく、後背部の小支谷の谷田や丘陵上や台地上での畑作を対象としていたものであろう。

女掘川沖積低地の本格的な開発は、古墳時代の前期になってからで、この時代以降になると当地域の遺跡数は爆発的に増加する。これは当地域だけでなく、隣接する志戸川流域でも同様の現象が見られ、開発がやや遅れる神流川右岸流域を除いた児玉地方の様相として注目される。これらの前期遺跡は、これまでの弥生時代後期の遺跡と違って、低地内への集落の進出が顕著で、特に女掘川中流域では、本遺跡の大規模集落を中心として、周辺に小規模集落が展開するような様相が窺える。これらの遺跡では、吉ヶ谷式や樽式など弥生時代後期の在地土器の系統を引く「在地系土器」に加えて、東海西部・畿内・北陸・南関東地方などの土器を模倣したいわゆる「外来系土器」が当初より作られ、やがて在地系の土器群を占拠してそれとってかわるが、低地部と丘陵部の遺跡ではその様相にやや差異が見られる。つまり、低地部の遺跡では外来系土器を主体とする遺跡が当初より展開するが、弥生時代の生活基盤を継承する丘陵部の遺跡では在地系土器の影響が根強く残る傾向が窺える。このような当地域の弥生時代後期から古墳時代前期への急速な変化は、隣接する群馬県の低地部の様相と同じく、その背景に他地域の集団が当地方へ入植したのではないかと考えられているが、当地域の土器の錯綜した系統関係から見て、その様相は単純ではなく、かなり複雑なようである。この前期の低地開発を基盤に、その後も中・後期を通じて遺跡数は増加し、ほぼ低地全域に集落が展開するとともに、弥生時代には本格的な開発の対象になっていなかった低地西側から北側に広がる広大な本庄台地にも集落が積極的に進出するようになる。また、弥生時代の生活基盤の一つであった生野山・鷺山・大久保山の残丘上は、前期になると一部小規模な集落が進出するとともに、その多くに方形周溝墓(群)が造営され、地域集団の墓域として意識されるようになる。そして、当地域の首長墓である前期の鷺山古墳(前方後方墳)・北堀前山1号墳(前方後円墳?)、中期の北堀前山2号墳(方墳?)・物見塚古墳(造出付円墳)・金鑽神社古墳(円墳)・生野山將軍塚古墳(円墳)・公卿塚古墳(円墳)、後期の生野山鈍子塚古墳(前方後円墳)・生野山16号墳(前方後円墳)なども、継続してこの残丘上に造営されている。その後、生野山と大久保山(塚山)には、小規模な円墳が多数作られて群集墳化し、いずれも数百基からなる大古墳群を形成する。

7世紀中頃～後半になると、下田遺跡や東牧西分遺跡など低地内に立地する集落も一部に見られるが、当地域の低地内のほとんどの集落は廃絶され、西側の本庄台地縁辺部や東側残丘斜面下の低台地上に移動する。この低地を取り囲むように再編成された集落群は、東側の残丘周辺の集落が10世紀以降も継続して営まれるものが多いのに対して、西側の本庄台地縁辺部の集落群は9世紀後半になると衰退しはじめ、9世紀後半から10世紀にかけて、小規模な集落が低地内の自然堤防や微高地上に再び出現するようになる。



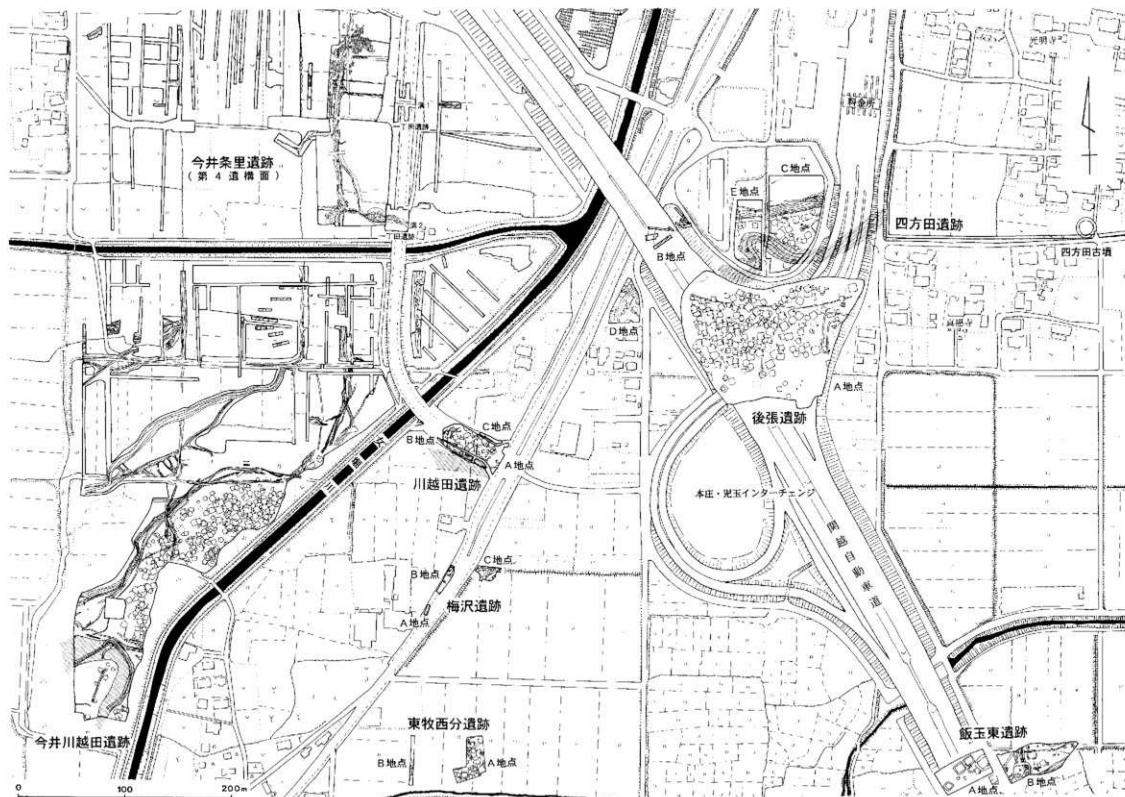
第4図 周辺の白鳳・奈良・平安時代主要遺跡 (●—白鳳・奈良、■—平安)

周辺の主要遺跡一覧表

番号	遺跡名	備考・参考文献	番号	遺跡名	備考・参考文献
1	古川端遺跡	柿沼・小久保1978、	42	宮ヶ谷戸遺跡	1983年に美里町教育委員会が調査。
2	大久保山遺跡	荒川他1980・1983・1995、小澤1996、	43	樋之口遺跡	菅谷・笹森1976、
		浅野1999、荒川1988・1999・2000・2001、見2001、	44	地神・塔頭遺跡	澁瀬1997、
3	西富田前田遺跡	増田1989、	45	後張遺跡	増田・立石他1982・1983、
4	飯玉東遺跡	駒宮・増田他1979、恋河内1995、	46	川越田遺跡	富田・赤熊1985、恋河内1993、
5	藤塚遺跡	徳山他1995・1996、	47	梅沢遺跡	富田・赤熊1985、恋河内1995、
6	将監塚東遺跡	鈴木他1997、増田1995、	48	東牧西分遺跡	恋河内1995、
7	上生野山遺跡	大熊2002、	49	今井川越田遺跡	磯崎1995、伴瀬1996、澁瀬1997、
8	児玉清水遺跡	1995年に児玉町遺跡調査会が調査。	50	浅見境北遺跡	恋河内1996、
9	将監塚遺跡	石塚1986、井上1986、	51	浅見境遺跡	1986年に児玉町遺跡調査会が調査。
		赤熊1988、長谷川他1994、	52	東田遺跡	恋河内1996、
10	平塚遺跡	徳山他1994、	53	新屋敷遺跡	1989年に児玉町教育委員会が調査。
11	中下田遺跡	鈴木他1991、	54	城の内遺跡	鈴木・西口1980、恋河内1997、
12	古井戸遺跡	宮井1989、井上1986、赤熊1988、	55	日延遺跡	恋河内1997・1999、
13	新宮遺跡	恋河内1995、	56	柿島遺跡	徳山他1995、
14	石橋遺跡	恋河内1995、	57	諏訪遺跡	柿沼・小久保1979、
15	女池遺跡	恋河内2001・2004、	58	往来北遺跡	佐藤1989、増田1990、
16	村後遺跡	細田他1984、	59	前田甲遺跡	増田1990、丸山1991、
17	山根遺跡	増田1990、	60	堀向遺跡	増田1992・1995、
18	塚本山遺跡	増田・小久保1977、	61	左口遺跡	徳山他1995、
19	今井条里遺跡	岩田1998、	62	共和小学校校庭遺跡	恋河内1989、大熊・板井2000、
20	吉田林朝山遺跡	1991年に児玉町遺跡調査会が調査。	63	向田遺跡	細田他1984、
21	生野山遺跡	埼玉県1982、	64	辻堂遺跡	恋河内1996、
22	南街道遺跡	恋河内1996、	65	古井戸南遺跡	井上1986、
23	日の森遺跡	菅谷他1978、	66	塚島遺跡	鈴木他1991、
24	東谷遺跡	柿沼・小久保1978、	67	上真下東遺跡	1986年に町教委が確認調査。
25	権現塚遺跡	細田他1984、	68	辻ノ内遺跡	鈴木他1991、
26	笠ヶ谷戸遺跡	本庄市1986、	69	宮田遺跡	恋河内1996、
27	久下東遺跡	増田1985、太田2005、	70	御林下遺跡	駒宮1977、利根川1998、
28	久下前遺跡	松本・町田2002、	71	高槻田遺跡	恋河内1995、
29	七色塚遺跡	増田1987、	72	金佐奈遺跡	徳山他1997・1998、
30	浅見山I遺跡	本庄市1986、松本・町田2002、	73	田端屋敷遺跡	徳山・大熊1998・1999、
31	下田遺跡	柿沼・小久保1979、増田1987、	74	元富遺跡	増田1987、
32	雌濠遺跡	本庄市1986、	75	観音塚遺跡	増田1987、松本2004、
33	南大通り線内遺跡	増田1987・1989・1991、	76	南ノ前遺跡	恋河内1999、
34	夏日遺跡	本庄市1976、長谷川他1984・1985、	77	鳥森遺跡	美里町1986、
35	西富田本郷遺跡	本庄市1976、	78	天神耕地・中畑遺跡	1996年に児玉町教育委員会が調査。
36	社具路遺跡	長谷川他1986・1987、増田1996、	79	北廓遺跡	富田・赤熊1985、
37	九反田遺跡	増田1989、松本2004、	80	向田A遺跡	恋河内1998、
38	四方田遺跡	増田1989、太田2005、	81	久城前遺跡	駒宮・宮崎1978、
39	根田遺跡	恋河内1990、	82	今井遺跡群	佐藤1989、増田1990、
40	雷電下遺跡	駒宮・増田他1979、	83	熊野太神南遺跡	富田・赤熊1985、相久2004、
41	鷺山南遺跡	恋河内1990・1999、			富田・赤熊1985、
		1983年に児玉町教育委員会が調査。			

番号	遺跡名	備考・参考文献	番号	遺跡名	備考・参考文献
84	八幡太神南遺跡	富田・赤熊1985、	F	堂山古墳	美里町1986、
85	立野南遺跡	富田・赤熊1985、	G	四方田古墳	増田1989、
86	蛭川坊田遺跡	1990年に見玉町遺跡調査会が調査、	H	鷺山古墳	増田・坂本他1986、恋河内2001、
87	阿知越遺跡	鈴木他1983・1984、	I	金鑽神社古墳	増田・坂本他1986、
88	坊田遺跡	1987年調査、	J	熊谷後1号墳	美里町1986、
89	南共和遺跡	恋河内1995、	K	生野山16号墳	田口他1975、菅谷1984、
90	樋越遺跡	恋河内1995、	L	生野山將軍塚古墳	柳田1964、
91	真下境東遺跡	鈴木他1989、	M	生野山鏡子塚古墳	田口他1975、菅谷1984、
92	西富田・西方田塚型遺跡	利根川1998、	N	物見塚古墳	大熊2002、
93	東本庄遺跡	松本・町田2004、	O	西五十子古墳群	本庄市1986、
A	日の森1・2号墳	菅谷他1978、	P	東富田古墳群	本庄市1986、
B	北堀前山2号墳	柿沼・小久保1978、松本・町田2002、	Q	塚本山古墳群	増田・小久保1977、
C	北堀前山1号墳	本庄市1986、			鈴木他1988・2002、
D	東谷古墳	本庄市1976、	R	生野山古墳群	菅谷・駒宮1973、
E	公卿塚古墳	増田・坂本他1986、太田・佐藤1991	S	有勝寺北裏埴輪塚跡	本庄市1976、荒川他1980、太田2003、





第5図 後張遺跡と周辺の遺跡（瀬瀬1997の第2図をもとに作成）

Ⅲ. 発掘調査の経過

後張遺跡のC地点の発掘調査は、昭和60年2月20日から7月31日までの約5ヶ月を要して実施したもので、調査面積は約3800㎡である。

発掘調査は、重機による表土剥ぎから始めたが、表土の搬出先が遠く、現場への搬入路である関越自動車道の側道も狭いことから、大型ダンプによる搬出作業は予想以上に手間取り、また長い春雨も手伝って、表土の搬出作業が完了したのは、気候も春めいてきた4月上旬であった。

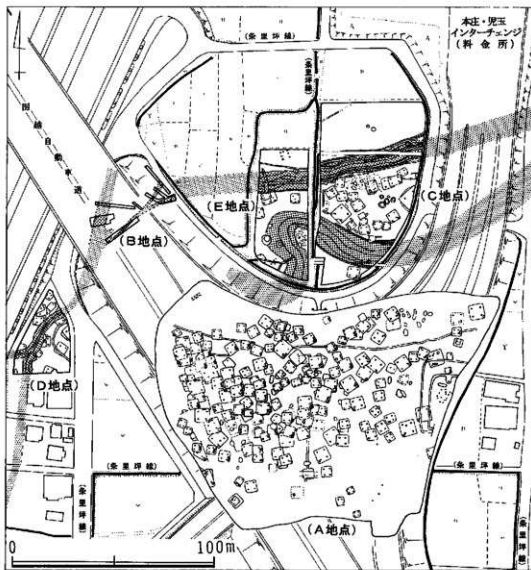
表土剥ぎは、遺構の密集が予想されていた調査区の南側から北側に向かって行い、同時に、検出された遺構のプラン確認と調査区周辺の排水溝作りを順次行っていた。表土剥ぎ及びプラン確認の結果、遺構は調査区の中央部から南側に多く分布し、中央部の溝（C-2号溝跡群）より北側にはあまり存在しないことから、本調査区が後張遺跡の北端であることが明らかになった。そして、排土置き場や調査区内にある現水路の取り扱いの問題もあって、調査はまず遺構の少ない調査区北側より実施することにした。

調査区北側には、溝跡1条・土壇1基・井戸跡1基・倒木痕2があるだけで、3月上旬にはこれらの調査を終了した。予定では、続いて調査区中央部から南に向かって調査を進行することになっていたが、調査区中央部が表土搬出作業の遅延により、まだ遺構のプランが確認できない状況であったため、とりあえず予定とは逆に、調査区南側から中央部に向かって調査を行うことになった。

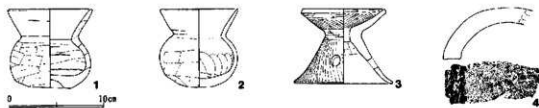
遺構の調査は、確認面でのプラン確認や切り合い関係の把握が比較的容易であったことから、スムーズに進むものと思われていたが、いざ掘ってみると、深さが10cm以上のものは湧水が激しく、すぐ水が溜まってしまふ状態であった。そのため、住居跡・溝跡・井戸跡などは、排水作業に多くの時間を労し、3月から4月の間は、晴天でも絶えず水中ポンプを回しながらの調査となった。

5月に入ると、C-2号溝跡群を完掘したことから、湧水がそちらに集中し、地下水位がやや下がったため、住居跡は柱穴が水没する程度となり、調査の進行に明るい兆しが見えてきた。中旬には、湧水が激しいため一時中断していた第192・193号住居跡もようやく完掘することができ、天候も幸いして、他の遺構の調査も軌道にのって順調に進行した。

調査もプラン確認の遅れた調査区中央部東側（第210～217号住居跡・第7～10号井戸跡）と河道跡の西側半分を残すだけとなった6月中旬、調査区周辺の麦も刈り取られ、いたるところで田植えの準備が始まった。本調査区に隣接する水路に水が入り、周辺の田も冠水すると、それらの水が調査区内に大量に浸透し、調査区の周囲に設けた排水溝のみきれない状態となってしまった。そして、6月の下旬からとうとう梅雨に入り、調査区全域が水没するという最悪の事態が続く、調査に多大な支障を与えた。水中ポンプ4台を使った排水作業も効果がなく、調査はまったくのお手上げ状態となってしまった。このような状況により、調査予定期間の6月末まで調査を終了させることが不可能となったため、原因者に了解を得て、調査期間を1ヶ月延長することになった。その後、消防用ポンプの導入によって、短時間で排水が可能になり、残っていた第217号住居跡・井戸跡・河道跡の調査も進み、梅雨の明けた7月下旬には現地での全調査を終了することができた。



第6図 後張遺跡A～E地点全体図



第7図 後張遺跡D地点試掘調査出土遺物

Ⅳ. 遺 跡 の 概 要

1. 後張遺跡の概要

本遺跡は、埼玉県児玉郡児玉町大字下浅見字後張り・下モ田から大字高岡字地藏堂・押払にかけて位置し、女堀川中流域右岸の北東方向に帯状に延びる標高68～69mの自然堤防上に立地する古墳時代の大規模集落である。

発掘調査は、関越自動車道建設に伴い埼玉県教育委員会が1975年から1976年にかけて事前に調査したA・B地点(増田・立石他1982・1983)と、今回のC地点及びその後児玉町遺跡調査会によって調査されたD地点(担当:鈴木徳雄・平田重之)とE地点(担当:鈴木徳雄・小宮山克己)の計5地点で実施されており、5地点の発掘調査面積は、A地点16000㎡・B地点約300㎡・C地点3800㎡・D地点約1000㎡・E地点1500㎡で、5地点を合わせた総面積は約22600㎡になる。

本遺跡の範囲は、A地点で南側の一部が、B・C・E地点で北側の一部が明らかになっており、南北方向の距離はA・C地点間で約200mを測る。東西方向は、さらに調査区外に遺構の分布が広がっているため不明であるが、A地点西側約40mのD地点でも多数の重複する中期～後期の住居跡やB地点と同じ大溝と考えられる溝跡も確認されており、本遺跡と至近距離にある西側の児玉町川越田・梅沢遺跡(富田・赤熊1985、恋河内1993・1995)や東側約100mの本庄市四方田遺跡(増田1989、太田2005)と連続する可能性もある。これらの遺跡は、本遺跡と同じ自然堤防上に立地し、本遺跡と同一時期や連続する時期の住居跡が多数検出されている。これはおそらく集落の中心が、時間的経過によって自然堤防上を移動・拡散した結果、自然堤防のほぼ全域に住居跡等の遺構が累積的に分布した結果と考えられ、遺構の分布が連続する同一遺跡の可能性もあるのではないかとと思われる。これらの3遺跡を同一の遺跡と考えると、遺跡の東西方向の距離は約700mを測り、遺跡の規模は約100000㎡にも及ぶことになる。

本遺跡のA・B・Cの3地点から検出された遺構は、住居跡217軒・土壇22基・井戸跡10基・溝跡12条・屋敷跡で、このほかA地点で焼土跡、C地点でピット群や河道跡、A・C両地点で倒木痕なども検出されている。

住居跡は、A～C地点で古墳時代の住居跡214軒(前期35軒・中期73軒・後期88軒・不明18軒)、平安時代の住居跡3軒の合わせて217軒が調査されているが、D・E地点でも多くの住居跡が検出されている。おそらく、本遺跡や近接する川越田・梅沢遺跡等の遺構密度から見ても、本遺跡の立地する自然堤防上にはこの2～3倍の400～600軒近い住居跡が存在したと思われる。

A～C地点で検出された古墳時代の住居跡は、前期35軒(A地点24軒・C地点11軒)・中期73軒(A地点59軒・C地点14軒)・後期88軒(A地点88軒・C地点0軒)・不明18軒であり、時期により盛衰が見られるものの、ほぼ継続的に集落が営まれていた様相が伺える。

前期の住居跡は、A・C両地点に見られるが、その分布はA地点の調査区西端側とA地点の調査区南側～北東側、C地点河道跡北側の3つの地点に分かれている。また西側の川越田遺跡からも前

期の住居跡10軒と、近年低地遺跡でよく検出される周溝を伴う住居跡か方形周溝墓の可能性が考えられる第7号溝跡が検出されており、本遺跡の該期集落と密接な関係を持っていたものと推測される。これらの住居跡は、本遺跡のA・C地点や川越田遺跡でも同時期同士の重複が見られ、出土土器の様相からもある程度継続して営まれていたものと考えられる。

中期の住居跡は、A地点のほぼ全域とC地点の中央部から南側にかけて広範囲に分布しているが、その大半は中期前半のもので、中期後半段階には住居数が極端に減少し、A地点で9軒程度見られるだけになる。本遺跡における該期集落の最大の特徴は、中期前半の早い段階で炉とカマドをもつ住居跡がすでに併存していることであり、中期後半以降はほとんどカマドを持つ住居跡だけになる。おそらく現在までの資料では、当地域でもカマドの出現が一番早い集落であろうと思われる。これらのカマドの位置は、後の時代の住居跡と同じく住居の東側に付設されるものが大半であるが、唯一A地点の第73号住居跡だけは南側に付設されている。また、炉をもつ住居跡では、C地点の第216号住居跡のように10m近い大形住居や、第199号住居跡のような3m程度の小形住居があり、一般的な住居跡に対して規模のうえでかなり格差をもつものが認められる。

後期の住居跡は、A地点の北西側に密集した状態で激しく重複して分布している。これらの住居跡は、大半が6世紀前半のもので、6世紀中頃には急速に衰退し、そして廃絶されているが、これは集落の中心が西側の川越田遺跡や今井川越田遺跡の方へ移動したためと思われる。これらの住居跡のカマドは、住居の東側が最も多く、続いて北側と西側であるが、中期と同じく唯一南側に付設された住居跡が一軒ある（A地点第78号住居跡）。

平安時代の住居跡は、A地点北東端で2軒と、B地点で1軒検出されているが、非常に小規模で散在的な分布である。住居の形態やカマドの位置もあまり明確ではないが、いずれも10世紀代の近時した時期のものである。また、この他にもB地点で近時した時期の土壇墓（第42号土壇）が、単独で検出されている。

中世の遺構は、B地点の調査区中央付近で複数の井戸跡が検出されており、明確ではないがその近くの第215号住居跡周辺に見られる多数の中世のピットは、おそらく建物跡の痕跡と推測される。A地点の東側で検出されている館跡とされた二重の細い溝による約40m四方の区画溝も、区画の内部に建物と井戸を伴う該期の屋敷跡ではないかと推測される。おそらく本遺跡は、中世には水田等の耕作地ではなく、小規模な高地等を伴う複数の屋敷からなる居住地として利用されていたものと思われる。

この他、本遺跡の現地表面には、児玉条里あるいは女堀条里と呼ばれる一町四方の連続する条里形地割りが広範囲にわたって認められる。これらの条里形地割りは、一般的に古代の条里制に関わるもので、古代から現在までその区画の痕跡を累積的に継続しながら維持してきたものと考えられがちである。しかしながら、本遺跡ではC地点のC-2号溝跡群のように、条里形地割り内にありながら、その地割り方向と一致しない古代の溝が検出されており、また中世には耕作地ではなく居住地として利用されているなど、現地表面で確認される条里形地割りの形成とその遍歴が一様でないことが窺えることは注目されよう。

2. C地点の概要

今回調査したC地点は、A地点の北側隣接地にあたり、発掘調査面積は約3800㎡である。現地表は水田として利用されており、標高68mの起伏や傾斜をほとんど感じさせない平らな地形である。

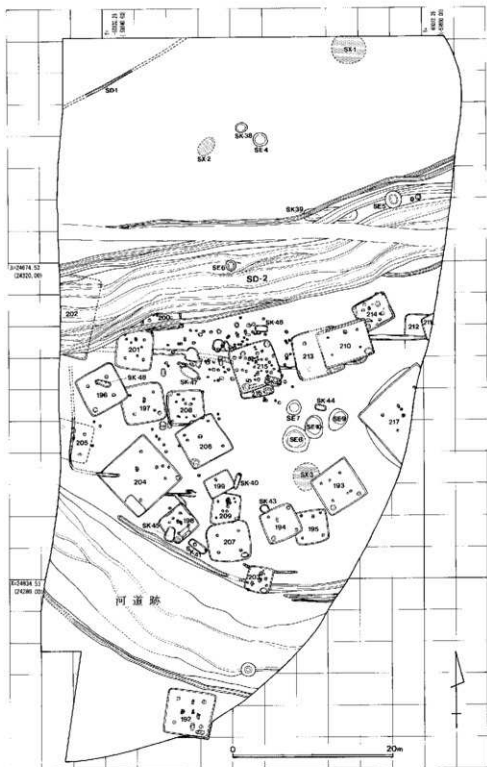
C地点より検出された遺構は、住居跡26軒・土壇12基（河道跡内土壇を含む）・井戸跡7基・溝跡5条で、このほか縄文時代後期頃の倒木痕が3基（SX-1～3）検出されている。これらの遺構は、古墳時代から中世に渡るものがほとんどで、A地点に隣接する調査区南側から中央部に多く密集しており、C-2号溝跡群より北側にはほとんど存在しない。

住居跡は、すべて古墳時代のものである。時期は、前期11軒・中期15軒で、後期のものは検出されていない。前期の住居跡は、調査区中央部に集中して見られ、第207号と第209号住居跡、第211号と第212号住居跡の2例の同時期同士の重複が見られる。規模は、5.92m×6.06mで最大の第213号住居跡から3.68m×4.02mで最少の第216号住居跡までであるが、4～5mのものが一般的で極端に大きいものや小さいものは見られない。主軸方位は、北から北西の間にとるが、古いものが新しいものに比べて、やや北の方に強く向いている傾向が見られる。出土遺物は、土器が主体であるが、第208・第214号住居跡では多量の焼土と土器の投げ込みが認められる。また、焼失住居の第195号住居跡からは、尾張地方に采譜をもつパレススタイル壺が出土している。中期の住居跡は、調査区南側から中央部にかけて見られる。同時期同士の重複は、第196・197号住居跡の1例だけで、他はすべて重複しないが、比較的密集している。規模は、5～6mのものが一般的であるが、一辺約10mを測る第217号住居跡や約3mの第203号住居跡など、他の住居跡に傑出して大きいものや小さいものが見られる。主軸方位は、その多くが北西方向をとっているが、3例ほど北東方向にとるものがある。出土遺物は、土器のほか石製模造品や鉄製品が比較的多く見られるのが特徴的である。該期の住居跡はカマドを持つものはなくすべてが有し、土器の様相からも和泉期前半に属するものである。

土壇は、古墳時代の前期1基（河道跡内土壇）・中期3基（第38・39・45号）・後期2基（第43・48号）、平安時代中期1基（第40号）、不明5基である。形態・規模・長軸方位に類似したものも見られるが、その性格が解るものは非常に少ない。この内、河道跡内土壇は河道と関係する祭祀にかかわると考えられるもので、第40号土壇は墓と考えられる。

井戸跡は、古墳時代の中期と考えられるものが1基（第4号）ある他は、すべて中世以降のものである。いずれもすでに崩れており、石組や木枠の痕跡は認められなかった。出土遺物は、少量の土器片と砥石が見られるが、第8号と第9号井戸跡からは、曲物等の木製品が出土している。

溝跡は、5条検出されているが、中央部の第204号住居跡や第215号住居跡を切っている小溝は、近世以降と推測されるものである。北側のC-1号溝跡は、前期後半に掘削され、比較的短時間に埋没したようである。C-2号溝跡群は、奈良時代～平安時代の長期に渡るもので、数度の掘り返しによって、複数の溝跡が重複しているような形態を呈している。この溝跡は、水田を灌漑する水路と考えられるが、周囲の条里形地割りとは流路の方向が一致しておらず、条里制との関係が注目されるものである。河道跡は、古墳時代に埋没したもので、覆土中からは多量の土器が出土している。



第8図 後張遺跡C地点全測図

V. 検出された遺構と遺物

1. 竪穴式住居跡

第192号住居跡（第9・10図、図版4～6）

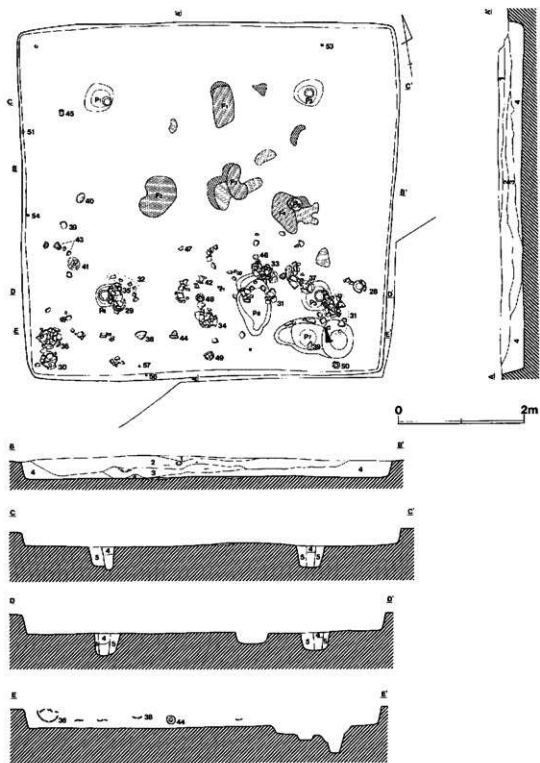
本住居跡は、河道跡南側の調査区南端に位置する。住居跡の保存状態は良好で、比較的容易に確認することができた。本住居跡は、住居の南東コーナーを明らかにすべく、調査区ぎりぎりまで拡張したため、関越側道の側溝や調査区の周囲に設置した排水溝より水が絶えず住居内に浸透し、常に水没する状況であった。

平面形は、東壁がやや北東方向に開いているが、比較的整然とした方形を呈し、規模は、南北方向5.64m・東西方向5.84mを測る壁高は24cm～35cmある。主軸方位はN-10°-Eをとる。

床面は、あまり凹凸がなくほぼ平坦につくられており、壁に近い周辺にくらべて中央部はやや堅緻である。床面上には、支柱穴P-1～4に囲まれた中央部を中心に、床面に密着して焼土と炭化



第9図 第192号住居跡黒色土層中遺物出土状態



第10图 第192号住居跡

第192号住居跡土層説明

第1層：淡褐色土層（A軽石・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（白色粒子・鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒色土層（鉄斑を多量に、白色粒子・マンガン塊・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：灰褐色土層（ローム粒子・鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性、しまりともない。）

第5層：暗黄灰褐色土層（灰褐色土を主体に、ローム粒子を比較的多量に含む。粘性に富みしまりを有する。）

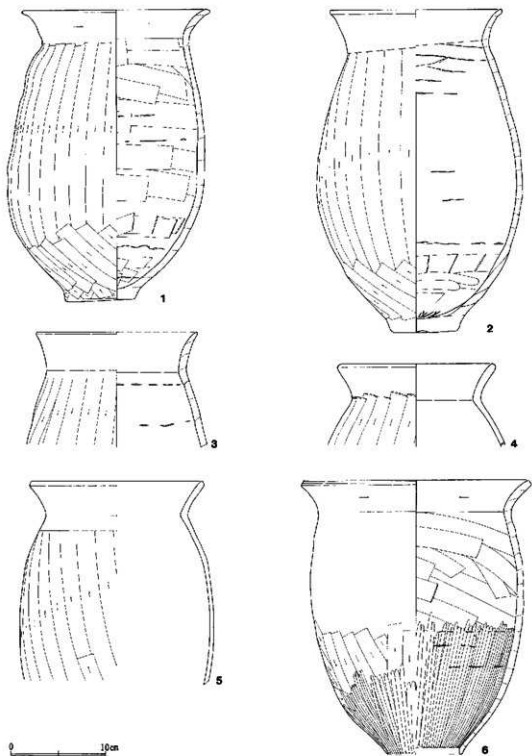
粒子が散在的に見られたが、住居の焼失を思わせるような炭化材は検出されなかった。

炉は、住居中央部の北側で4箇所（F-1～4）検出されている。いずれも掘り込みや付帯施設を伴わず、単に床面が焼けているだけの地床炉であるが、非常に良く焼けて硬化している。平面形は、いずれも不整形を呈している。これらのうち、特にF-1は他の炉に比べて一番良く焼けており、位置的にも主炉と考えられるものである。

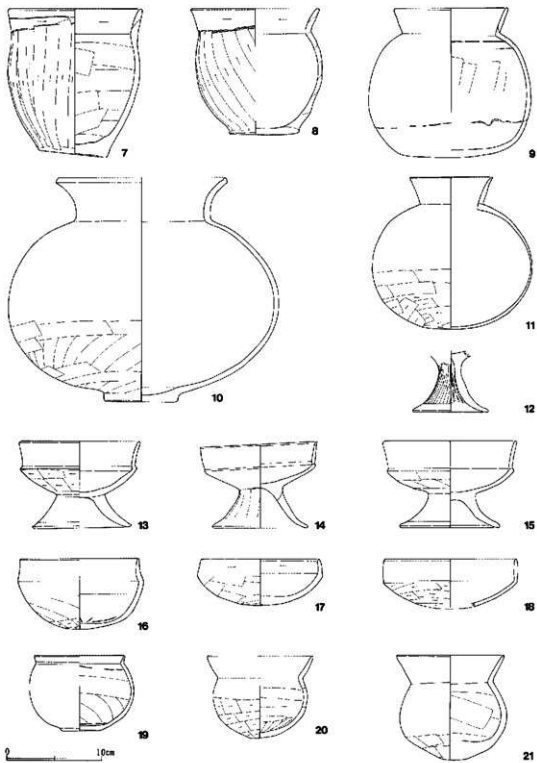
ピットは、7箇所検出されている。P-1～4が支柱穴であり、いずれも柱痕が残っていた。柱痕の太さは15cm～18cmで、深さはそれぞれ35cm・36cm・35cm・28cmであり、すべてその下半分が埋まっておらず、空洞をなしていた。P-5は、支柱穴P-2・P-3のほぼ中間にあり、深さは15cmある。F-4を切っているが、住居に伴うものである。P-6は100cm×54cmの不整形を呈しており、深さは18cmある。底面は広く平坦をなす。P-7は貯蔵穴と考えられるもので、126cm×60cmの不整形を呈し、東に向かって三段に深くなっており、深さは42cmある。貯蔵穴内の中央部より、高坏の口縁部破片が出土している。

出土遺物は、多量の土器と共に石製品や鉄器及び獣骨片が検出されている（第14～16図）。土器は、住居南側半分に集中しており、北側からはほとんど検出されていない。石製品は、石製模造品の剣形模造品（52）・有孔円盤（53）と管玉（54）がそれぞれ北壁際と西壁際の第4層覆土中より、紡錘車（51）が西壁の壁面に貼り付いた状態で出土している。鉄器（55・56・57）は、いずれも南壁際の覆土（第4層）中より出土している。獣骨片は、南壁際中央やや東寄りの床面上より出土している。長さ15cm位の草食動物の下顎骨と推測されるものであったが、本住居跡の水没により流失したため、詳細は不明である。

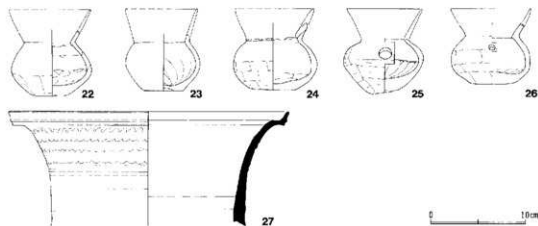
本住居跡の覆土は、4層（柱穴掘り方埋土の第5層は除く）に分かれ、その埋没状態は一見自然堆積のように見えるが、第2・第3層の黒色土は、その下の第4層と明確な不連続層を形成しており、この黒色土からの出土土器も、本住居跡に伴う和泉式土器とは明らかに時期の違う鬼高式土器を主体としている（第11～13図）。当初は本住居跡が廃絶され、住居跡内に第4層が堆積して窪地化したところに、土器を一括投棄したものであろうと安易に考えていた。しかし、第196号住居跡と第48号土壇との切り合い関係から、本住居跡の黒色土より出土した鬼高式土器の時期には、和泉式土器を伴う住居は完全に埋没していること、住居廃絶後の最初の堆積土である第4層と黒色土の間に時間的経過を示す自然堆積層（間層）が認められないこと、黒色土内での和泉式土器の混入が顕著であること等より、単に住居跡の埋没過程中に投棄されたものとは考えられない。この鬼高式土器を主体的に包含する黒色土は、土壇や住居跡のような明確なプランを呈さないが、おそらく住居埋没後、人為的に掘り返して投棄された可能性が高いのではないかと考えられる。



第11图 第192号住居跡黑色土層中出土遺物(1)



第12图 第192号住居跡黑色土層中出土遺物(2)

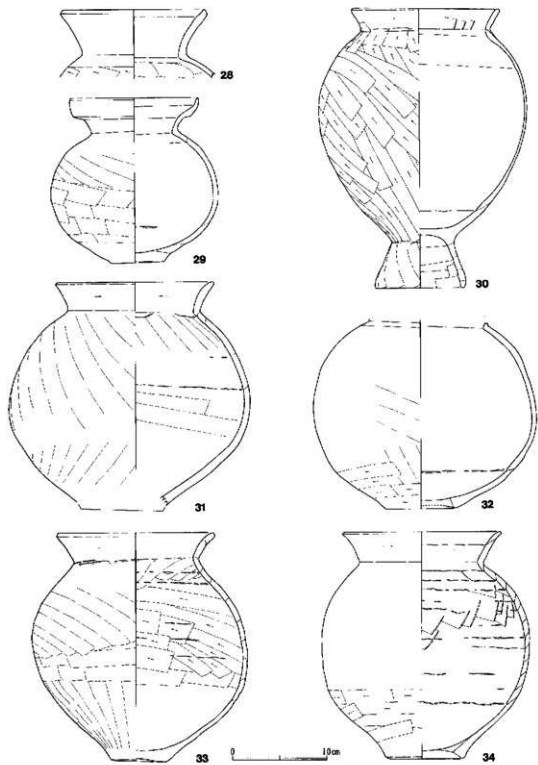


第13図 第192号住居跡黒色土層中出土遺物(3)

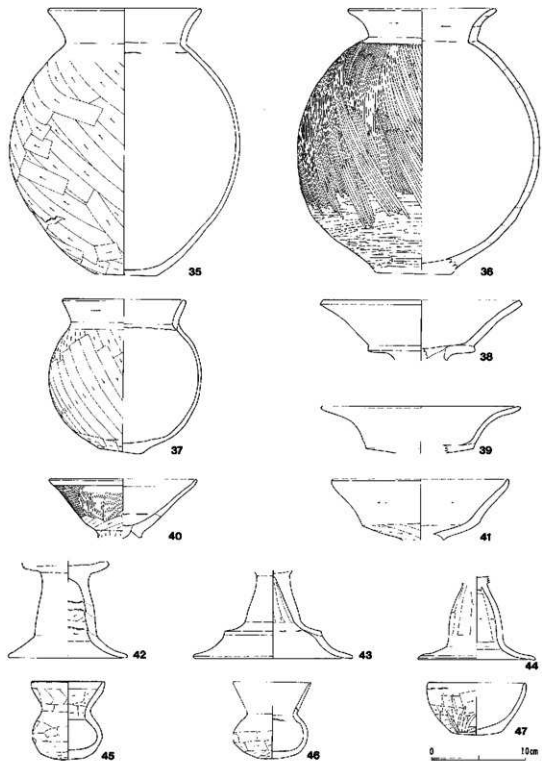
第192号住居跡黒色土層中出土遺物観察表

1	甕	A, 口縁部径19.8, 底部径7.4, 器高30.8. B, 粘土紐巻き上げ. C, 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ、内面鈍ナデ. D, 小石, 赤色粒. E, 不良. F, 内外一暗褐色, 肉一淡橙褐色. H, 黒色土中. I, ほぼ完形.
2	甕	A, 口縁部径(18.1), 底部径(7.0), 器高34.2. B, 粘土紐巻き上げ. C, 口縁部内外ヨコナデ. 胴部外面ケズリ、内面ナデ. D, 小石, 赤色粒. E, 良好. F, 外上半・内一暗褐色, 外下半一橙褐色. G, 胴部外面下半は二次焼成を受けて荒れている. H, 黒色土中. I, 3/4.
3	甕	A, 口縁部径(17.0). B, 粘土紐積み上げ. C, 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ、内面ナデ. D, 片岩粒, 小石. E, 不良. F, 外一橙褐色, 内一淡茶褐色, 肉一淡灰色. H, 黒色土中. I, 1/4.
4	甕	A, 口縁部径(16.6). B, 粘土紐積み上げ. C, 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ、内面ナデ. D, 白色粒, 角閃石, 赤色粒. E, 良好. F, 内外一橙褐色. H, 黒色土中. I, 1/4.
5	甕	A, 口縁部径18.4. B, 粘土紐積み上げ. C, 口縁部内外ヨコナデ. 胴部外面ケズリ、内面ナデ. D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒. E, 良好. F, 内外一橙褐色. H, 黒色土中. I, 2/3.
6	大形甕	A, 口縁部径24.2, 器高29.0. B, 粘土紐巻き上げ. C, 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ナデの後ケズリ一部ミガキ, 内面鈍ナデの後ミガキ. D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒. E, 良好. F, 外一淡褐色, 内肉一橙褐色. G, 外面に黒斑あり. H, 黒色土中. I, ほぼ完形.
7	小形甕	A, 口縁部径(14.2), 底部径7.1, 器高15.7. B, 粘土紐積み上げ. C, 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ、内面鈍ナデ. D, 白色粒, 角閃石, 赤色粒. E, 不良. F, 内外一淡橙褐色, 肉一淡褐色. H, 黒色土中. I, 1/2.
8	小形甕	A, 口縁部径13.6, 底部径7.4, 器高13.4. B, 粘土紐積み上げ. C, 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ、内面ナデ. D, 白色粒, 角閃石, 赤色粒. E, 良好. F, 外一暗橙褐色, 内一黒褐色. H, 黒色土中. I, 3/4.
9	壺	A, 口縁部径(12.0), 器高15.8. B, 粘土紐積み上げ. C, 口縁部内外面ナデ, 胴部外面ケズリの後ナデ, 内面鈍ナデ. D, 白色粒, 角閃石, 赤色粒. E, 良好. F, 内外一黄橙褐色. G, 外面に黒斑あり. H, 黒色土中. I, 3/4.
10	壺	A, 口縁部径(18.0), 底部径7.7, 器高23.8. B, 粘土紐積み上げ. C, 口縁部内外面上半ナデ, 下半ケズリ後ナデ, 内面ナデ. D, 角閃石, 赤色粒. E, 良好. F, 内外一淡茶褐色. G, 外面に黒斑あり. H, 黒色土中. I, 3/4.

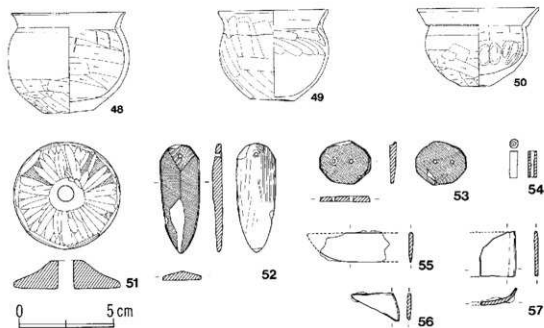
11	壺	A、口縁部径8.8、器高16.1。B、粘土組織み上げ。C、口縁～胴部外面上半ナデ、下半ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。G、外面に2箇所黒斑あり。H、黒色土中。I、3/4。
12	高 坏	A、残存高6.5。B、粘土組織み上げ。C、脚端部内外面ナデ、外面ミガキ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色、内一淡褐色。H、黒色土中。I、脚部のみ。
13	高 坏	A、口縁部径12.9、器高9.2。B、坏部と脚部は貼り付け。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ、脚部内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡橙褐色。H、黒色土中。I、完形。
14	高 坏	A、口縁部径(12.4)、器高9.1。B、粘土組織み上げ。C、口縁部・坏部内外面ヨコナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。H、黒色土中。I、2/3。
15	高 坏	A、残存高6.3。B、坏部と脚部は貼り付け。C、坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚部内外面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、黒色土中。I、口縁部欠失。
16	坏	A、口縁部径12.6、器高7.5。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面内ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一淡茶褐色。H、黒色土中。I、3/4。
17	坏	A、口縁部径12.4、器高4.9。B、不明。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、黒色土中。I、3/4。
18	坏	A、口縁部13.9。B、不明。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D、白色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、黒色土中。I、1/2。
19	鉢	A、口縁部径(9.6)、底部径4.3、器高8.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面内ナデ。D、白色粒。E、良好。F、外一淡褐色、内一暗橙褐色。H、黒色土中。I、3/4。
20	鉢	A、口縁部径(11.2)、器高8.7。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、黒色土中。I、1/2。
21	小形丸底壺	A、口縁部径(11.4)、器高11.1。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部内外面ナデ、外面下半ケズリ。D、白色粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、黒色土中。I、3/4。
22	小形丸底壺	A、底部径3.0。B、粘土組織み上げ。C、胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡橙褐色。H、黒色土中。I、3/4。
23	小形丸底壺	A、底部径4.2。B、粘土組織み上げ。C、胴部外面ケズリ後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、片岩粒、赤色粒。E、不良。F、外一淡橙褐色、内一淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、黒色土中。I、3/4。
24	小形丸底壺	A、底部径4.8。B、粘土組織み上げ。C、胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一橙褐色、内一淡褐色。H、黒色土中。I、3/4。
25	甗	A、底部径2.5。B、粘土組織み上げ。C、胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色。G、穿孔は焼成前。H、黒色土中。I、2/3。
26	甗	A、底部径4.8。B、粘土組織み上げ。C、胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。G、胴部外面に黒斑あり。H、黒色土中。I、3/4。
27	須恵器大 甗	A、口縁部径(29.6)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面回転ナデ。D、白色粒。E、良好。F、内外一淡灰色。G、沈線の上に櫛掻波状文の痕跡が認められる。H、黒色土中。I、1/3。



第14图 第192号住居跡出土遺物(4)



第15图 第192号住居跡出土遺物(5)



第16図 第192号住居跡出土遺物(6)

第192号住居跡出土遺物観察表

28	壺	A, 口縁径15.5, B, 粘土紐貼り付け, C, 口縁部内外面ナデ, 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, D, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 内外—淡橙褐色, H, 床直, I, 口縁部のみ。
29	壺	A, 口縁部(13.6), 底部径5.6, 器高17.4, B, 粘土紐積み上げ, C, 口縁部内外面ナデ, 胴部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, D, 白色粒, 赤色粒, E, 良好, F, 内外—淡橙褐色, H, 床直, I, 口縁部1/2欠損。
30	台付甕	A, 口縁部径15.6, 器高29.6, B, 粘土紐積み上げ, C, 口縁部内外面ナデ, 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, 台部外面ケズリの後ナデ, 内面鑑ナデ, D, 片岩粒, E, 良好, F, 外—暗褐色, 内—淡褐色, H, 覆土中, I, 3/4。
31	甕	A, 口縁部径16.6, 残存高23.7, B, 粘土紐積み上げ, C, 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面鑑ナデ, D, 白色粒, 片岩粒, E, 不良, F, 内外—淡褐色, G, 胴部外面煤の付着あり, H, 覆土中, I, 2/3。
32	甕	A, 底部径7.2, 残存高20.0, B, 粘土紐積み上げ, C, 胴部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, D, 白色粒, 角閃石, 赤色粒, E, 不良, F, 外—橙褐色, 内—黒褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 覆土中, I, 2/3。
33	甕	A, 口縁部径16.6, 底部径6.0, 器高24.2, B, 粘土紐積み上げ, C, 口縁部内外面ナデ, 胴部外面ケズリの後ナデ, 内面上半ケズリ, 下半ナデ, D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 内外—上半白褐色, 下半橙褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 床直上, I, 3/4。
34	甕	A, 口縁部径16.8, 底部径(8.3), 器高24.0, B, 輪積み, C, 口縁部内外面ナデ, 胴部外面ケズリの後ナデ, 内面鑑ナデ, D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒, E, 不良, F, 外—淡茶褐色, 内面—黒褐色, 肉—暗橙褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 床直上, I, 2/3。
35	甕	A, 口縁部径(16.2), 底部径6.4, 器高28.3, B, 粘土紐積み上げ, C, 口縁部内外面ナデ, 胴部外面ケズリの後下半, 内面ナデ, D, 片岩粒(多), E, 良好, F, 外—暗褐色, 内—黒褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 床直上, I, 4/5。

36	甕	A、口縁部径15.6、残存高27.7。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、小石。E、不良。F、内外一淡褐色。G、外面に黒斑、煤の付着あり。H、床直上。I、底部欠失。
37	甕	A、口縁部径13.0、底部径4.6、器高16.3。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、小石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、ほぼ完形。
38	高 坏	A、口縁部径(21.2)。B、粘土紐積み上げ。C、坏部内外面ナデ。D、白色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土中。I、1/3。
39	高 坏	A、口縁部径(20.8)。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ、坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、貯蔵穴内。I、3/4。
40	高 坏	A、口縁部径(15.6)。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ハケの後ケズリ、内面窪ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色。H、覆土中。I、2/3。
41	高 坏	A、口縁部径18.7。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ、坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、床直上。I、口縁部のみ。
42	高 坏	A、残存高10.2。B、粘土紐巻き上げ。C、脚端部内外面ナデ、脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一橙褐色、内一暗茶褐色。H、覆土中。I、脚部のみ。
43	高 坏	A、残存高9.2。B、粘土紐積み上げ。C、脚部外面ナデ、内面上半指ナデ、下半ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、脚部のみ。
44	高 坏	A、残存高8.8。B、粘土紐積み上げ。C、脚端部内外面ヨコナデ。脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土中。I、脚部のみ。
45	小形丸底壺	A、口縁部径7.0-7.8。器高8.2。B、粘土紐積み上げ。C、口唇部内外面ヨコナデ。口縁部外面ナデ、内面窪ケズリ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。H、床直上。I、完形。
46	小形丸底壺	A、残存高5.6。B、粘土紐積み上げ。C、胴部外面上半ケズリの後ナデ、下半ケズリ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一橙褐色、内内一暗褐色。H、覆土中。I、1/2。
47	坏	A、口縁部径10.2、底部径5.4、器高5.5。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部外面ナデ。胴部外面ケズリの後雑なミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。
48	鉢	A、口縁部径(12.0)、底部径5.2、器高10.5。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面上半ナデ、下半ケズリ、内面ケズリ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。
49	鉢	A、口縁部径11.6、底部径4.7、器高9.6。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。H、床直上。I、3/4。
50	鉢	A、口縁部径12.8、底部径3.1、器高8.3。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後ケズリ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、床直上。I、完形。
51	石製紡錘車	A、全長5.6、高さ1.5、穿孔幅0.9、重量52g。C、表面研磨の後放射状のケズリ、裏面研磨。H、西壁際。I、完形。
52	石製模造品剣形	A、全長5.7、幅2.1、厚さ0.5、穿孔幅0.2、重量10g。C、表裏面とも研磨。G、表裏側面の一部剥落あり。H、覆土中。I、完形。
53	石製模造品有孔円版	A、全長2.7、幅2.3、厚さ0.3、穿孔幅0.2、重量8g。C、表裏面とも一定方向の研磨。G、穿孔は2箇所。H、覆土中。I、完形。
54	管玉	A、全長1.4、幅0.45、穿孔幅0.2、重量2g。C、表面研磨。G、穿孔は両面穿孔。H、覆土中。I、完形。
55	鉄器(刀片)	A、残存部長3.7、幅1.6。G、刃部の両側を欠損。H、覆土中。I、1/4。

56	鉄器(不明)	A, 残存部長2.5, 幅1.5, G, 小破片のため器種は不明, H, 覆土中, I, 小破片。
57	鉄器 (鎌?)	A, 残存部長1.9, 幅2.4, G, 端部は斜方向に折れ曲がっており, 鎌の基部と思われる, H, 覆土中, I, 小破片。

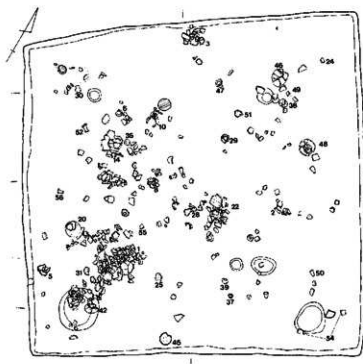
第193号住居跡 (第7・18図、図版7-1・2)

本住居跡は、調査区中央の南東寄りに位置し、南西側は第195号住居跡と隣接し、北東側約5mには第217号住居跡が近接している。住居跡の遺存状態は良好で、西側コーナーが一部縄文時代の倒木痕(SX-3)を切っている。

平面形は、比較的整然とした方形を呈し、規模は北西～南東方向が5.38m・南西～北東方向が5.30mを測る。壁高は、21cm～40cmあり、住居跡南側が一番低く、北東側が最も高い。主軸方位は、N-32°-Wをとる。

床面は、あまり凹凸がなくほぼ平坦につくられている。全体的にやや軟弱である。床面上では焼土粒子・炭化粒子及び炭化材等の分布は全く見られなかった。

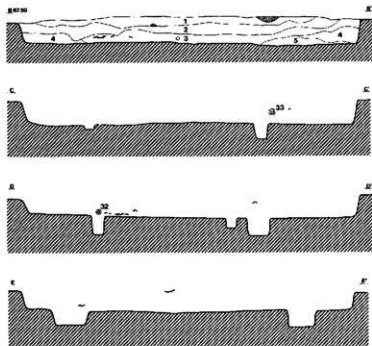
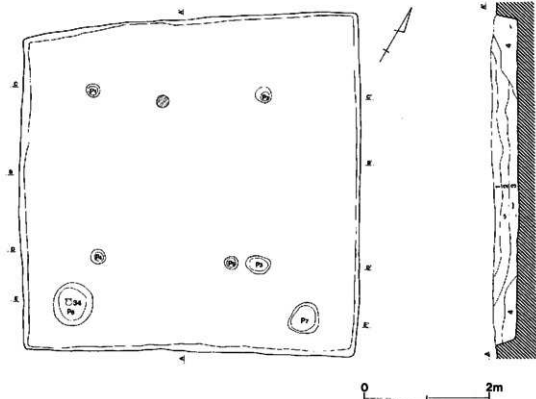
炉は、住居北西側の主柱穴P-1・P-2間のほぼ中央に位置する。堀込みは顕著でないが、床面より若干窪んでいる。付帯施設は伴わず、単に床面上が焼けているだけの地床炉であるが、あまり良く焼けておらず硬化していない。平面形は円形を呈し、規模は20cm×20cmと他の住居跡に比べてやや小さい。



第17図 第193号住居跡遺物出土状態

ピットは、7箇所検出されている。P-1～4が主柱穴で、深さはそれぞれ7cm・24cm・27cm・30cmあり、P-1が他に比べ極端に浅い。P-5は、P-3のすぐ西側にあり、深さは17cmある。P-6とP-7は、貯蔵穴と考えられるもので、両方とも底面が広い平坦をなし、形態が類似している。規模はP-6が62cm×68cm、P-7が48cm×48cm、深さはそれぞれ22cm・26cmある。P-6内からは、底面より6cm浮いて完形の土器(34)が出土している。

本住居跡の覆土は5層に



第192号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（白色粒子・小礫を多量に、鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黒褐色土層（マンガン塊・鉄斑を多量に含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒灰色土層（マンガン塊を均一に、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：明褐色土層（鉄斑・マンガン塊を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：黒褐色土層（マンガン塊を多量に、鉄斑を微量含む。粘性・しまりともない。）

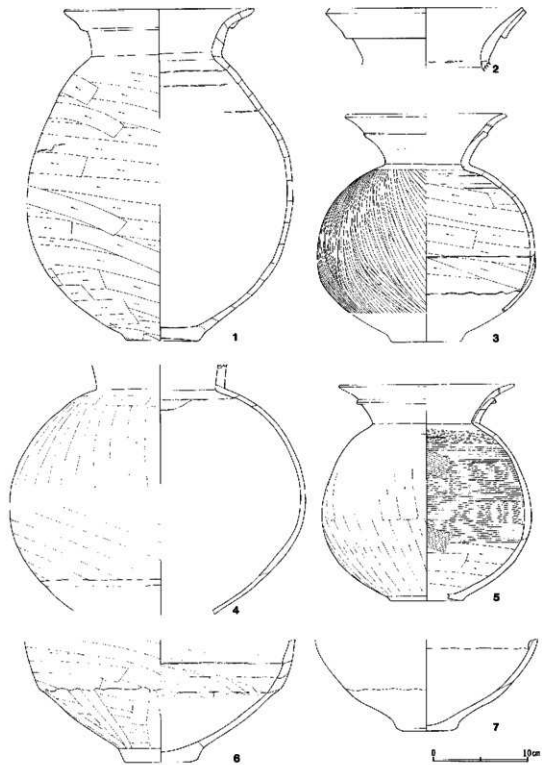
第18図 第193号住居跡

分層でき、その埋没状態は自然堆積を示す。

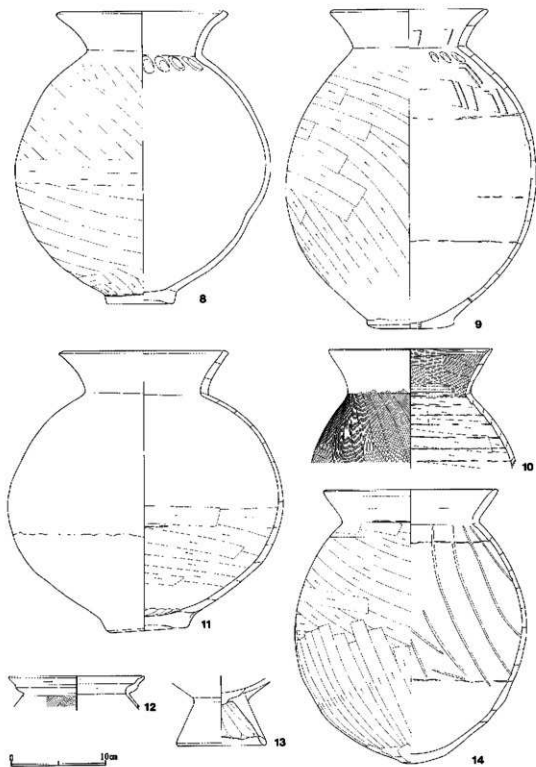
出土遺物は、ほとんど土器で、ほぼ住居跡の全面より出土している。これらの土器は、大半が住居廃絶時の覆土（第3層）埋没過程に投棄されたものである。出土状態は、覆土の埋没状態とよく一致しており、住居中央部の土器は住居床面に接するかそれに近いレベルであり、壁際に近くなるほど土器の出土レベルも高くなってきている。本住居跡への投棄の方向は、ほぼ住居の四方より投棄されているが、投棄された土器の量は住居跡の南側と西側に多く偏っている。

第193号住居跡出土遺物観察表

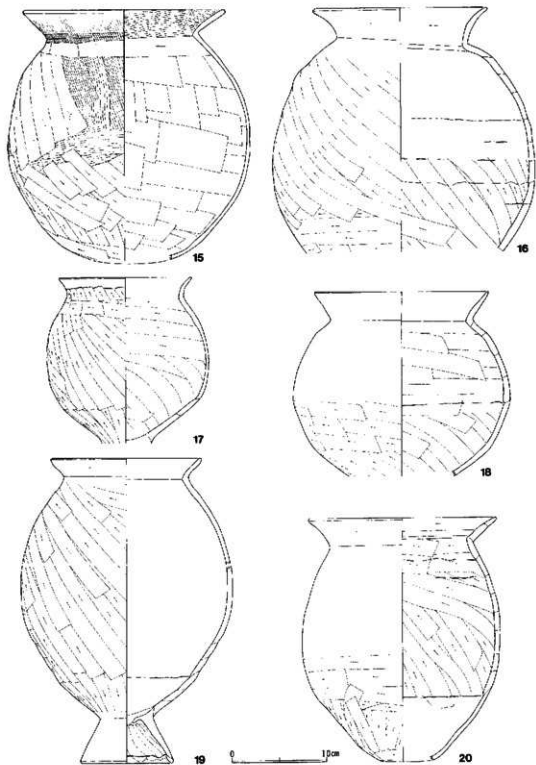
1	壺	A、口縁部径20.0、底部径7.6、器高35.1。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、小石。E、不良。F、外一暗褐色、内一淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。
2	壺	A、口縁部径（21.0）。B、粘土紐積み上げ（複合口縁部は粘土帯貼り付け）。C、口縁部内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土中。I、1/5。
3	壺	A、残存高19.7。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリ後ミガキ、内面ケズリの後一部ナデ。D、片岩粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色。H、覆土中。I、3/4。
4	壺	A、残存高26.4。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土中。I、3/4。
5	壺	A、残存高23.1。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半軟質刷毛状工具によるナデ、下半ケズリの後ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、不良。F、外一淡褐色、内一黒灰色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/2。
6	壺	A、底部径7.8、残存高12.9。B、粘土紐積み上げ。C、胴部外面ケズリの後部ナデ、内面上半指ナデ、下半ナデ。底部外面ケズリ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗茶褐色。G、底部外面は橙褐色。H、覆土中。I、1/3。
7	壺	A、底部径6.4。B、粘土紐積み上げ。C、観察不能。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。G、器面は荒れている。H、覆土中。I、1/5。
8	壺	A、口縁部径18.0、底部径7.0、器高30.9。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面不明。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、不良。F、外一橙褐色、内一淡褐色。G、胴部外面に黒斑と煤の付着あり。H、覆土中。I、3/4。
9	壺	A、口縁部径（16.6）、底部径（9.1）、推定高（33.8）。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D、片岩粒、白色粒。E、不良。F、内外一淡白褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/2。
10	甕	A、口縁部径17.2、残存高12.7。B、輪積み。C、口縁部外面ナデ、内面ハケの後ナデ。胴部外面ハケ、内面ケズリの後ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、胴部下半欠失。
11	壺	A、口縁部径17.8、底部径8.7、器高29.8。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ナデ、内面上半ナデ、下半ケズリの後ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。
12	台付甕	A、口縁部径（14.3）。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケ、内面ナデ。D、角閃石、白色粒、赤色粒。E、不良。F、内外一暗橙褐色、内一淡灰色。H、覆土中。I、1/3。
13	台付甕	A、脚端部径9.6、残存高6.7。粘土紐積み上げ。C、外面ナデ、内面指ナデ。D、砂粒（多）、角閃石、片岩粒。E、良好。F、内外一淡褐色。H、覆土中。I、台部のみ。
14	甕	A、口縁部径（18.4）、器高28.9。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後部ナデ、内面指ナデ。D、片岩粒、黒色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。



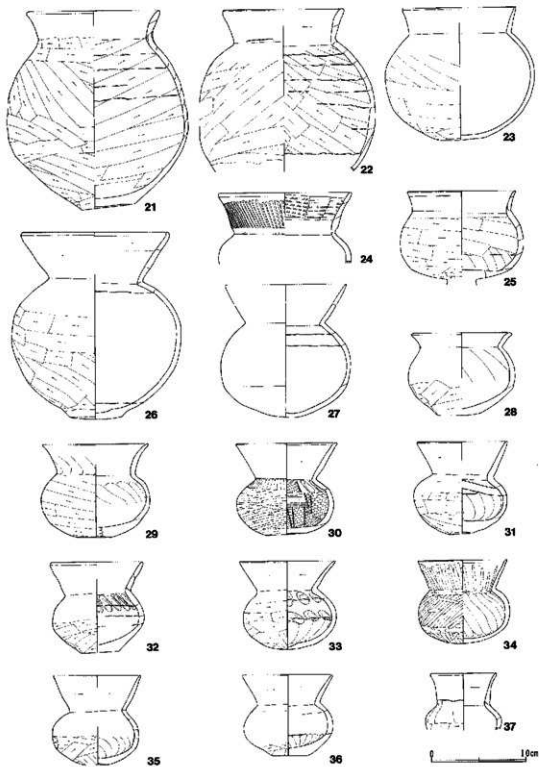
第19图 第193号住居跡出土遺物(1)



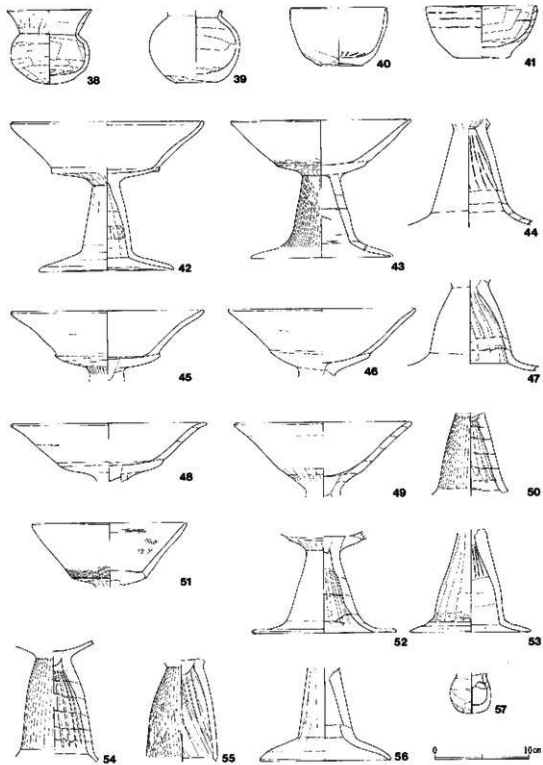
第20图 第193号住居跡出土遺物(2)



第21图 第193号住居跡出土遺物(3)



第22图 第193号住居跡出土遺物(4)



第23图 第193号住居跡出土遺物(5)

15	甕	A、口縁部径21.2、残存高26.4。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後、下半ケズリ・上半雑ナデ、内面甕ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一淡褐色。G、外面に黒斑と煤の付着あり。H、覆土中。I、底部欠失。
16	甕	A、口縁部径18.4、残存高25.8。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ケズリの後上半ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一茶褐色、内一暗茶褐色。H、覆土中。I、1/2。
17	台付甕	A、口縁部径(14.0)、残存高17.5。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D、片岩粒、角閃石、砂粒(多)。E、良好。F、内外一淡褐色。G、内面下半は暗褐色。H、覆土中。I、2/3。
18	甕	A、口縁部径(18.4)、残存高19.5。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面甕ナデ。D、片岩粒、黒色粒。E、不良。F、外一淡褐色、内一褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/3。
19	台付甕	A、口縁部径(15.8)、推定高(32.3)。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一淡褐色、内一暗褐色。H、覆土中。I、1/3。
20	甕	A、口縁部径19.8、器高25.7。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面上半ケズリ、下半ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、上半内外一橙褐色、下半内外一暗褐色。H、覆土中。I、3/4。
21	甕	A、口縁部径14.0、底部径5.5、器高21.1。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部内外面ケズリ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、4/5。
22	甕	A、口縁部径12.8、残存高17.1。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ケズリ、下半ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一赤褐色、内一暗褐色。H、覆土中。I、胴部下半欠失。
23	鉢	A、口縁部径(12.0)、器高14.0。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。
24	鉢	A、口縁部径(14.0)。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ハケ。胴部内外面ナデ。D、砂粒、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土中。I、1/3。
25	鉢	A、口縁部径(11.4)、残存高9.2。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、底部の割れ方より台付鉢の可能性あり。H、覆土中。I、1/2。
26	壺	A、口縁部径15.6、底部径5.5、器高19.7。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、黄白色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、4/5。
27	壺	A、残存高12.0。B、輪積み。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一橙褐色、内一淡褐色。H、覆土中。I、口部欠失。
28	鉢	A、口縁部径10.6、底部径4.4、器高8.7。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗橙褐色。G、底部外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。
29	小形丸底壺	A、口縁部径11.2、底部径(3.6)、器高9.9。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。H、覆土中。I、2/3。
30	小形丸底壺	A、口縁部径(11.6)、底部径4.2、器高9.7。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ハケ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、2/3。
31	小形丸底壺	A、口縁部径9.6、底部径2.4、器高9.8。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土中。I、ほぼ完形。

32	小形丸底壺	A、口縁部径19.8、底部径4.0、器高9.7。B、輪積み。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、2/3。
33	小形丸底壺	A、口縁部径10.2、器高9.4。B、輪積み。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、黒色粒。E、良好。F、外一暗茶褐色、内一黒色、肉一暗褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、2/3。
34	小形丸底壺	A、口縁部径9.4、器高8.9。B、不明。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、完形。
35	小形丸底壺	A、口縁部径(9.2)、底部径2.2、器高9.5。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、2/3。
36	小形丸底壺	A、口縁部径(9.6)、底部径3.6、器高8.6。B、輪積み。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、2/3。
37	小形丸底壺	A、口縁部径7.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、不良。F、内外一暗褐色。G、内外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/2。
38	小形丸底壺	A、口縁部径9.0、器高7.9。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半ナデ。D、片岩粒、黒色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色、肉一黒褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。
39	小形丸底壺	A、底脚径3.1、残存高7.7。B、粘土組織み上げ。C、胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、不良。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、口縁部欠失。
40	坏	A、口縁部径(10.2)、底部径5.0、器高6.2。B、不明。C、内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒。E、不良。F、内外一橙褐色、肉一黒褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、2/3。
41	坏	A、口縁部径11.8、底部径6.0、器高5.6。B、粘土組織み上げ。C、内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色、肉一暗茶褐色。H、覆土中。I、2/3。
42	高坏	A、口縁部径20.4、器高15.9。B、粘土組織み上げ。C、坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚部外面ナデ、内面ケズリ。脚部内外面ヨコナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外肉一橙褐色。H、覆土中。I、ほぼ完形。
43	高坏	A、口縁部(19.0)、残存高13.9。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ケズリの後ナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、1/3。
44	高坏	A、残存高11.5。B、輪積み。C、脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、砂粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、脚部のみ。
45	高坏	A、口縁部20.4。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、脚部外面ミガキ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外肉一暗橙褐色。H、覆土中。I、坏部のみ。
46	高坏	A、口縁部径19.8。B、粘土組織み上げ。C、内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、口縁部外面に黒斑あり。H、覆土中。I、坏部のみ。
47	高坏	A、残存高9.7。B、輪積み。C、脚部外面ナデ、内面ケズリの後ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土中。I、脚部のみ。
48	高坏	A、口縁部径20.8。B、粘土組織み上げ。C、内外面ナデ。D、片岩粒、黒色粒、赤色粒。E、不良。F、内外一淡茶褐色。G、口縁部外面に黒斑あり。H、覆土中。I、坏部のみ。
49	高坏	A、口縁部径(18.8)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。坏部外面ケズリ。D、片岩粒、角閃石。E、不良。F、内外一橙褐色、肉一淡褐色。H、覆土中。I、1/4。

50	高 環	A. 残存高8.8. B. 粘土紐巻き上げ. C. 脚部外面ナデあるいはミガキ、内面ナデ. D. 細砂粒. E. 良好. F. 内外一橙褐色. H. 覆土中. I. 脚部のみ.
51	高 環	A. 口縁部径16.4. B. 粘土積み上げ. C. 内外面ハケの後ナデ. D. 小砂粒、赤色粒. E. 良好. F. 内外一暗橙褐色. H. 覆土中. I. 3/4.
52	高 環	A. 残存高10.7. B. 粘土紐巻き上げ. C. 坏部外面ケズリ、内面ナデ. 脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ. D. 角閃石、赤色粒. E. 良好. F. 内外一橙褐色. H. 覆土中. I. 脚端部4/5欠損.
53	高 環	A. 残存高10.9. B. 粘土紐積み上げ. C. 脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ. D. 片岩粒、角閃石、赤色粒. E. 良好. F. 内外一暗橙褐色. H. 覆土中. I. 脚部のみ.
54	高 環	A. 残存高12.6. B. 粘土紐巻き上げ. C. 脚部外面ミガキ、内面ナデ. D. 片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒. E. 良好. F. 内外一橙褐色. H. 覆土中. I. 脚部のみ.
55	高 環	A. 残存高10.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 脚部外面ケズリの後ミガキ、内面鏡ナデ. D. 片岩粒、角閃石. E. 不良. F. 外一茶褐色、内一黒色. H. 覆土中. I. 脚部のみ.
56	高 環	A. 残存高9.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面ケズリの後ナデ、内面ナデ. D. 片岩粒、角閃石. E. 良好. F. 内外一橙褐色. H. 覆土中. I. 脚部のみ.
57	ミニチュア	A. 底部径2.5. 残存高4.2. B. 輪積み. C. 外面ケズリの後ナデ、内面ナデ. D. 片岩粒、黒色粒. E. 不良. F. 外一暗橙褐色、内一暗茶褐色. G. 外面に黒斑あり. H. 覆土中. I. 口縁部欠失.

第194号住居跡（第24図、図版8-1・2）

本住居跡は、調査区中央のやや南寄りに位置し、北東側約3.5mには第193号住居跡が、西側約1.5mには第207号住居跡が、南側約3mには第203号住居跡がある。住居跡の東側で重複する第195号住居跡を切り、住居の北西壁の一部を第43号土壌に切られている。住居跡の遺存状態は、比較的良好である。

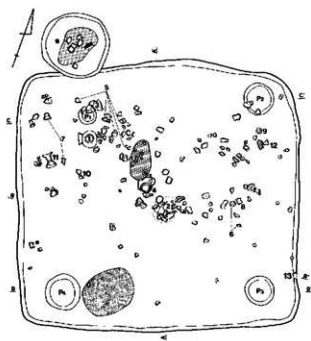
平面形は、北西壁にやや歪みが見られるが、ほぼ方形を呈している。規模は、北西～南東方向が4.28m・北東～南西方向が4.44mを測る。壁高は、16cm～28cmある。主軸方位は、N-20°-Wをとる。

床面は、ほぼ平坦につくられているが、住居中央部に比べ壁際が若干高くなっている。全体的にやや軟弱であり、第195号住居跡と重複する部分に特別貼床は施されていない。床面上には、焼土粒子や炭化粒子の分布は見られなかったが、南東壁際のやや南西に寄った所より、多量の白色粘土塊が検出されている。この白色粘土塊は、65cm×80cmの不整楕円形を呈し、板状の形態で床面に置かれたような状態であった。

炉は、住居中央のやや北西寄りに位置し、掘り込みや付帯施設を伴わない地床炉で、あまり良く焼けていない。平面形は、64cm×32cmの不整楕円形を呈している。

ピットは、P-1～4の4箇所検出されている。深さは、それぞれ28cm・13cm・9cm・48cmあり、いずれも住居の各コーナー近くにある。その配置からおそらく主柱穴ではないかと思われるが、形態や深さにばらつきがあり、P-3はその形態より貯蔵穴の可能性も考えられる。

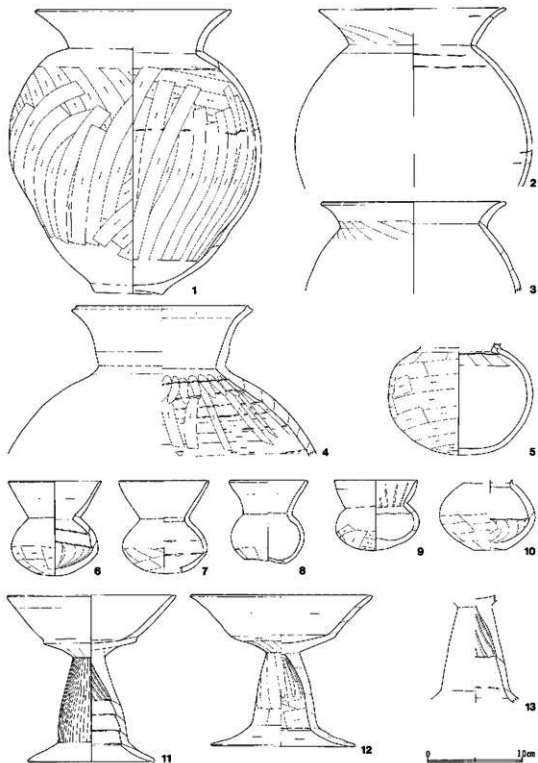
出土遺物は、住居跡の北東側半分を中心に、多量の土器が出土している。破片は、床面から5cm～10cm浮いた覆土中にあるものが大半であったが、完形もしくはそれに近いものは、ほとんど床面からの出土である。



第194号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（白色粒子・黄褐色粒子・赤色粒子・鉄斑を多量に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（第1層に比べ鉄斑が少ない。粘性に富み、しまりは無い。）
- 第3層：暗褐色土層（マンガン塊を均一に、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりは無い。）
- 第4層：黒褐色土層（鉄斑・黄褐色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりは無い。）
- 第5層：黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量に、鉄斑を微量含む。粘性に富みしまりを有する。）
- 第6層：淡灰褐色土層（第5層と類似するが砂粒を含み、粘性・しまりとも無い。）
- 第7層：黒褐色土層（砂粒・マンガン塊を多量に含む。粘性・しまりとも無い。）
- 第8層：暗黒褐色土層（砂粒を多量に含む。粘性・しまりとも無い。）

第24図 第194号住居跡



第25图 第194号住居跡出土遺物

第194号住居跡出土遺物観察表

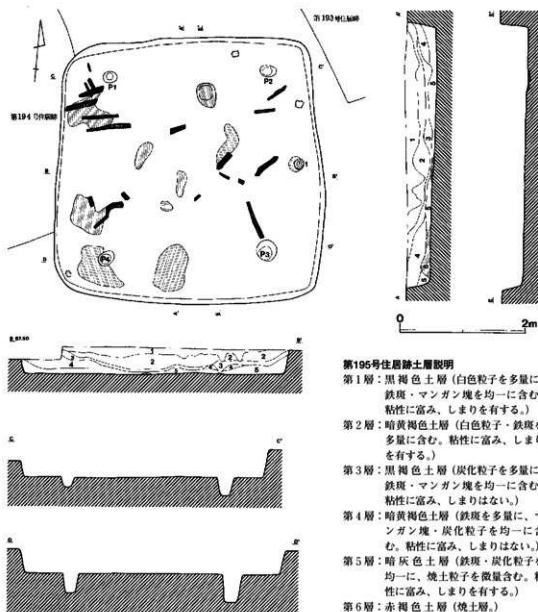
1	甕	A, 口縁部径20.6, 底部径7.1, 器高30.2。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ナデ。胴部内外面ケズリ。D, 片岩粒(多), 赤色粒。E, 良好。F, 外一暗橙褐色、内肉一暗茶褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, 3/4。
2	甕	A, 口縁部径19.6, 残存高18.9。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。胴部内外面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, 胴部下欠失。
3	甕	A, 口縁部径(19.4)。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D, 白色粒、角閃石。E, 不良。F, 外一暗褐色、内肉一暗茶褐色。H, 覆土中。I, 1/4。
4	壺	A, 口縁部径19.0~19.8。B, 輪積み。C, 口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一茶褐色。H, 床直上。I, 3/4。
5	壺	A, 残存高11.9。B, 粘土組織み上げ。C, 胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗茶褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, 3/4。
6	小形丸底壺	A, 口縁部径9.8, 器高10.0。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D, 白色粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一暗茶褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, ほぼ完形。
7	小形丸底壺	A, 口縁部径9.5, 残存高9.7。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 覆土中。I, 3/4。
8	小形丸底壺	A, 口縁部径8.3, 残存高8.9。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 底は積み上げ段で剥落している。H, 床直上。I, 底部欠失。
9	小形丸底壺	A, 口縁部径8.8, 器高7.4。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, 完形。
10	小形丸底壺	A, 残存高7.4。B, 粘土組織み上げ。C, 胴部外面上半ハケの後ナデ、下半ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D, 白色粒、角閃石。E, 良好。F, 外一暗茶褐色、内一茶褐色。H, 覆土中。I, 3/4。
11	高環	A, 口縁部径(17.8)、器高17.6。B, 輪積み。C, 環部内外面ナデ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。脚端部内外面ナデ。D, 白色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 口縁部外面に黒斑あり。H, 床直上。I, 3/4。
12	高環	A, 口縁部径19.2, 器高16.0。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ナデ。環部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一暗橙褐色。H, 床直上。I, 3/4。
13	高環	A, 残存高11.4。B, 粘土組織み上げ。C, 脚部内外面ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 覆土中。I, 脚部のみ。

第195号住居跡(第26区、図版9-1・2)

本住居跡は、調査区中央の南東寄りに位置し、住居跡西側の上面を第194号住居跡に切られている。住居跡の北東側には隣接して第193号住居跡がある。遺構の掘り込みは比較的深く、遺存状態は良好である。

平面形は、コーナー部がやや丸みを帯びた方形を呈し、規模は南北方向4.21m・東西方向4.20mを測る。壁高は36cm～48cmあり、主軸方位はN-65°-Wを取る。

床面は、あまり凹凸がなく比較的平坦に作られており、全体に堅緻でしっかりしている。床面直上からは、多くの焼土と炭化材が検出されており、本住居跡は火災により焼失したものと考えられる。焼土は住居の西側半分に多く、中央部の焼土が厚さ2cm～3cmと比較的薄いのに比べ、壁際の焼土は9cm～17cmと厚い。炭化材はほぼ全体的に分布しているが、一般的な焼失家屋と同様に住居



第195号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（白色粒子を多量に、鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗黄褐色土層（白色粒子・鉄斑を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：黒褐色土層（炭化粒子を多量に、鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第4層：暗黄褐色土層（鉄斑を多量に、マンガン塊・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第5層：暗灰色土層（鉄斑・炭化粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：赤褐色土層（焼土層。）

第26図 第195号住居跡

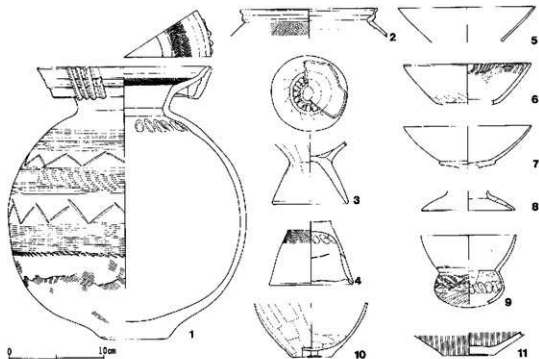
の中央部に向いているものが多い。検出された炭化材は、ほとんどが板材であるが、一部に角材のようなものも見られる。

炉は、住居北側よりの支柱穴P-1・P-2の中間近くに位置している。床面より3cmほどの掘り込みを持つ地床がで、付帯施設は伴わない。非常に良く焼けており、火床面は硬化している。平面形は不整楕円形を呈し、規模は30cm×40cmである。

ピットは、P-1～4の4箇所検出されている。これらは、当地域の一般的な住居跡の4本支柱穴の位置よりもコーナー部寄りの配置ではあるが、一応支柱穴と考えられる。深さはそれぞれ18cm・30cm・44cm・32cmであり、P-1が他に比べてやや浅いが、形態は良く似ている。

本住居跡の覆土は、6層に分層できる。特徴的なのは第3層の黒褐色土で、他の層に比べて層厚が薄く平均しており、上下の土層とは明確な不連続層として分層することができる。炭化粒子を主体にしていることから、本住居跡の焼失と直接的あるいは間接的な関係を持つ層なのかもしれないが、セクション図では第4・5層を切っているように見える所もあり、第1層中に認められた土器の一括投棄と関係する人為的な要因による土層の可能性も考慮される。いずれにしても、自然堆積と簡単に考えるには一考を要する土層である。

出土遺物は、第27図に図示したものがほとんどで、比較的少ない。1は、床面直上より出土した唯一の土器で、東海西部地方に系譜をもつパレススタイル壺である。2～11は、覆土第1層中に一括投棄された土器片で、中央付近にまとまって出土している。なお、覆土中の出土遺物は、この第1層にほとんど集中しており、それ以下の第2～4層では一片の土器も出土しなかった。



第27図 第195号住居跡出土遺物

第195号住居跡出土遺物観察表

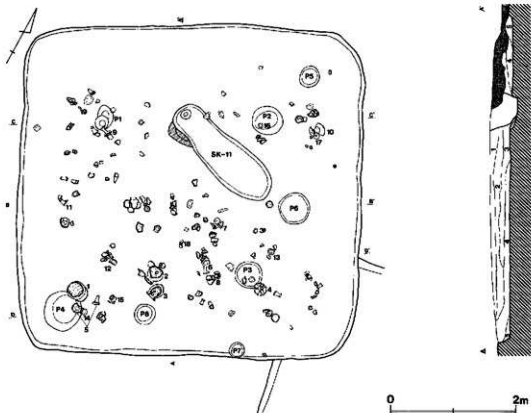
1	壺	A. 口縁部径18.1、底部径7.2、器高28.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面ハケの後ナデ、内面不明。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 外一淡黄褐色、内一淡灰色。G. 文様は、口縁部外面棒状工具による2条の沈線と4本一組で3単位の棒状浮文・内面鏡による綾杉文、胴部外面刷毛状工具による右回りの横線文と鏡による山形文と列点文。H. 床面直上。I. 完成。
2	壺	A. 口縁部径(14.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 内外一明茶褐色。H. 覆土中。I. 1/7。
3	台付甕	A. 残存高6.5。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。台部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 外一赤褐色、内一明黄褐色。G. 胴部と台部の接合部内面に指頭丘痕あり。H. 覆土中。I. 台部のみ。
4	台付甕	A. 残存高6.7。B. 粘土組織み上げ。C. 台部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D. 砂粒(多)。E. 不良。F. 内外一暗灰色。H. 覆土中。I. 1/2。
5	高 環	A. 口縁部径(14.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 内外一暗褐色。H. 覆土中。I. 1/4。
6	高 環	A. 口縁部径(13.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ハケの後ナデ。D. 片岩粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。H. 覆土中。I. 1/4。
7	高 環	A. 口縁部径(13.5)。B. 粘土組織み上げ。C. 不明。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。H. 覆土中。I. 1/4。
8	高 環	A. 残存高2.1。B. 粘土組織み上げ。C. 脚端部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙白色。H. 覆土中。I. 脚端部のみ。
9	小形 丸底壺	A. 口縁部径(10.0)、残存高7.3。B. 不明。C. 口縁部内外面ハケの後ナデ。胴部外面ハケ、ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 良好。F. 外一褐色、内一黒褐色。H. 覆土中。I. 1/3。
10	甕	A. 底部径4.1、残存高5.7。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。G. 外面に黒斑あり。穿孔は焼成前。H. 覆土中。I. 底部のみ。
11	壺	A. 底部径5.5。B. 不明。C. 内外面ミガキ。D. 黒色粒。E. 良好。F. 内外一赤褐色、内一白色。G. 内外面赤彩。H. 覆土中。I. 1/2。

第196号住居跡(第28区、図版10-1・2)

本住居跡は、調査区中央の西側に位置し、重複する第197号住居跡を切っている。本住居跡の北西側には約2m離れて第202号住居跡、北東側には隣接して第201号住居跡、南西側には約1m離れて第205号住居跡がある。本住居跡は、住居の中央付近を鬼高期の第48号土壌に切られているが、遺存状態は比較的良好である。

平面形は、コーナー部がやや丸みを帯びた方形を呈し、規模は北西～南東方向5.40m・南西～北東方向5.24mを測る。壁高は16cm～20cmある。主軸方位は、N-29°-Wをとる。

床面は、あまり凹凸がなくほぼ平坦につくられているが、住居の西側がやや低くなっている。全体的に堅緻につくられている。床面上には、焼土粒子や炭化粒子の分布はまったく見られなかった。炉は、住居中央北寄りの支柱穴P-1・P-2のほぼ中間に位置している。床面より6cmほどの掘り込みを持つ地床炉で、非常に良く焼けて硬化している。付帯施設は伴わない。北側を第48号土壌によって切られているため、平面形や規模は不明である。



第196号住居跡土層説明

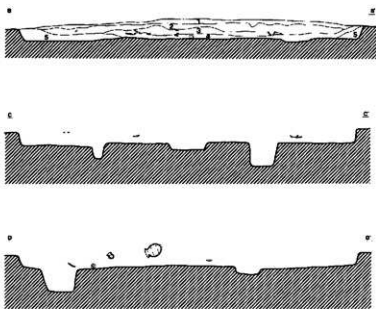
第1層：暗褐色土層（白色粒子を多量に、鉄斑・マンガン塊を微量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（白色粒子・マンガン塊を均一に、鉄斑・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒色土層（白色粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黒灰色土層（焼土粒子・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：褐色土層（ローム粒子・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



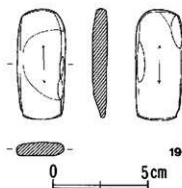
第28図 第196号住居跡

ピットは、8箇所検出されているが、本住居跡に伴うものはP-1~4の4箇所である。P-1~3は、その位置と配置から主柱穴と考えられる。深さはそれぞれ22cm・37cm・10cmあり、P-3が他と比べて極端に浅い。P-4は住居の南側コーナー付近にあり、その形態より貯蔵穴と考えられる。平面形は64cm×58cmの不整形円形を呈し、深さは35cmある。底面は広く平坦をなす。

本住居跡の覆土は、5層に分層できる。各層は、第一次埋没土の第5層を除いて、層厚がほぼ同じで著しい差異はなく、色調に若干の変化はあるが漸移的である。その埋没状態は、土層観察より自然的堆積を示すと思われる。

出土遺物は、土器と石製品である。土器は、住居のほぼ前面より大量に出土しており、大半は床面から第3層までのレベルで検出されている。土器の形状を比較的留めているものが多く、破片になっているものもあまり散在せずにまとまっている。

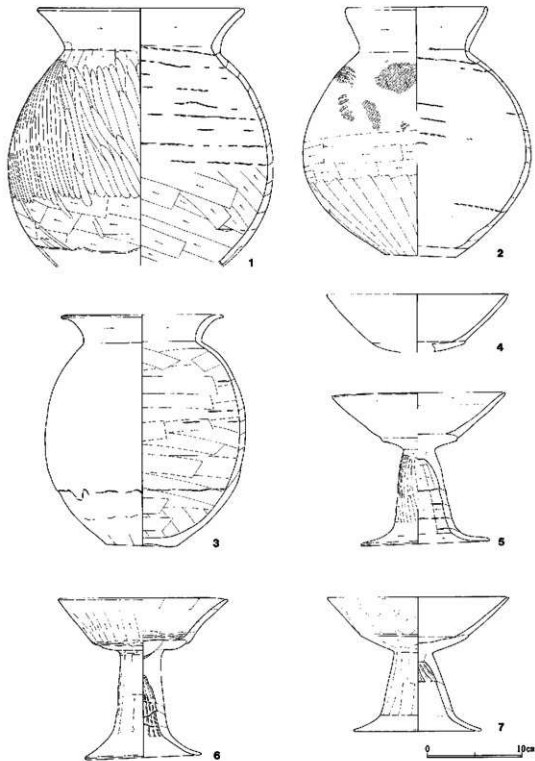
石製品には、砥石と紡錘車が一点ずつある。砥石(19)は、板状の小形品で主柱穴P-1の西側の床面直上より出土している。紡錘車は、この時期に一般的な断面が平べったい台形を呈すもので、東壁際の覆土中より出土したが、調査中盗難にあったため、詳細は不明である(図版10-2右下)。



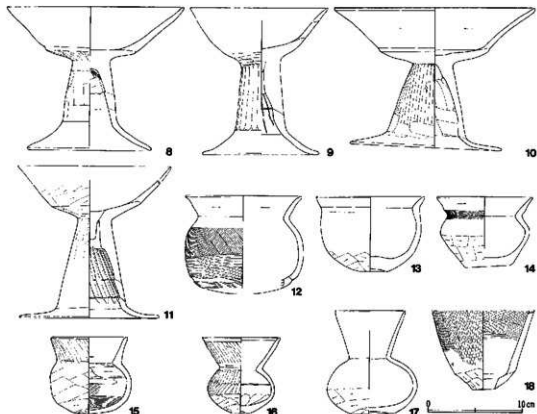
第29図 第196号住居跡出土石器

第196号住居跡出土土物観察表

1	甕	A、口縁部径21.8、残存高27.3。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後指ナデ、内面ケズリの後上半部ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/2。
2	甕	A、口縁部径15.0、底部径7.5、器高26.6。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケ・ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、赤色粒、角閃石、黒色粒。E、良好。F、外内一暗茶褐色、内一黒褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、2/3。
3	甕	A、口縁部径17.0、底部径7.4、器高24.6。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面匏ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色、内一暗褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1、2/3。
4	高 環	A、口縁部径19.0。B、粘土紐積み上げ。C、不明。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、環部のみ。
5	高 環	A、口縁部径18.4、器高16.0。B、輪積み。C、環部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリ、脚端部内外面ヨコナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色。G、口縁部外面に黒斑あり。H、床直上。I、3/4。
6	高 環	A、口縁部径18.0、器高17.1。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部外面ケズリの後ナデ、内面匏ナデ。環部外面ナデ、内面ミガキ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、環部外面に黒斑あり。H、床直上。I、ほぼ完形。
7	高 環	A、口縁部径(19.2)、器高14.2。B、粘土紐巻き上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色。H、床直上。I、1/2。
8	高 環	A、口縁部径(18.7)、器高15.2。B、輪積み。C、外面ケズリの後ナデ、脚部内面ケズリ。D、片岩粒、赤色粒、黒色粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗茶褐色。G、口縁部外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。



第30图 第196号住居跡出土遺物(1)



第31図 第196号住居跡出土遺物(2)

9	高坏	A. 残存高14.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ. 脚端部内外面ヨコナデ. D. 白色粒、角閃石、赤色粒. E. 良好. F. 内外一淡橙褐色. H. 覆土中. I. 3/4.
10	高坏	A. 口縁部径(21.2)、器高15.1. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 坏部内外面ナデ. 脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ. D. 片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒. E. 不良. F. 内外一橙褐色・肉一暗茶褐色. G. 脚端部外面に黒斑あり. H. 床直上. I. 1/2.
11	高坏	A. 残存高14.6. B. 輪積み. C. 外面ケズリの後ナデ、内面ナデ. D. 白色粒、角閃石、赤色粒. E. 良好. F. 内外一赤橙褐色. H. 覆土中. I. 2/3.
12	鉢	A. 残存高(12.2) B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ハケ、内面ナデ. D. 白色粒、角閃石. E. 良好. F. 内外一暗橙褐色. G. 外面に黒斑あり. H. 覆土中. I. 3/4.
13	鉢	A. 口縁部径11.4、底部径2.9、器高7.9. B. 不明. C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ. 胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ. D. 片岩粒、黒色粒、赤色粒. E. 良好. F. 外一橙褐色、内一暗褐色. H. 覆土中. I. 4/5.
14	鉢	A. 口縁部10.2、底部径4.2、器高7.4. B. 不明. C. 口縁部外面ヨコナデ、内面笠ナデ. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ. D. 片岩粒、角閃石、赤色粒. E. 良好. F. 外一茶褐色、内一暗茶褐色. H. 床直上. I. はば完形.

15	小形丸底壺	A、口縁部径8.2、器高8.2。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ヨコナデの後ミガキ、内面宛ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ハケの後上半指ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、床直上。I、完形。
16	小形丸底壺	A、口縁部径8.2、底部径1.8、器高8.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ヨコナデの後ミガキ、内面宛ナデ。胴部外面ナデの後ミガキ・ケズリ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、片岩粒、黒色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一橙褐色、内一暗褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、ほぼ完形。
17	小形丸底壺	A、口縁部径(7.4)、底部径4.5、器高11.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石。E、良好。F、外一橙褐色、内一淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、3/4。
18	甌	A、残存高8.4。B、粘土組織み上げ。C、外面ハケの後ナデ・ケズリ、内面ハケの後ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。G、穿孔は焼成前。H、覆土中。I、1/2。
19	砥石	A、長さ5.8、幅2.5、厚さ0.6、重さ23g C.側面は研磨により、良く調整されている。G、上下両端とも良く磨かれている。H.覆土中。I、完形。

第197号住居跡(第32図、図版11-1)

本住居跡は、調査区中央の西側に位置し、北側約1.5mには第201号住居跡、東側には隣接して第208号住居跡、南側約1.5mには大形の第204号住居跡がある。住居の北東コーナー部を重複する第196号住居跡に切られている。遺存状態は、住居跡の上面に一部擾乱を受けているが、比較的良好である。

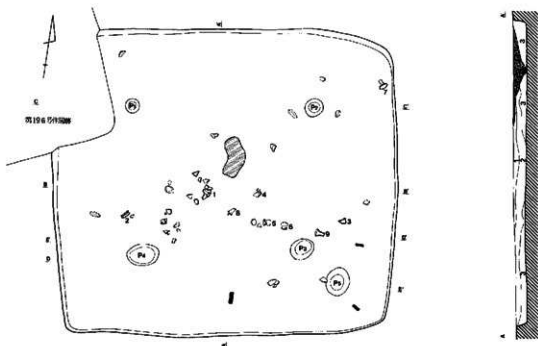
平面形は、北東コーナーがやや丸みを帯びるが、東西方向が若干長い長方形を呈している。規模は、東西方向5.43m・南北方向4.87mを測り、壁高は12cm～26cmある。主軸方位は、N-10°-Wをとる。床面は、あまり凹凸がなく、ほぼ平坦に作られており、全体的に非常に堅緻でしっかりしている。床面上には、焼土粒子や炭化粒子等の分布はまったく見られなかった。

炉は、住居のほぼ中央に位置している。掘り込みや付帯施設を伴わない、単に床面が焼けているだけの地床炉である。平面形は不整形を呈し、規模は64cm×28cmを測る。全体的にあまり良く焼けていない。

ピットは、5箇所検出されている。P-1～4が支柱穴で、深さはそれぞれ24cm・25cm・37cm・24cmある。P-5は、住居南東コーナー付近にあり、深さは45cmある。

本住居跡の覆土は、上面の擾乱を除いて3層に分層できる。第1～3層は、第2層が色調にやや黒みを帯びるが、土層の区分は不明瞭で不連続な状態をなさず、漸移的である。その埋没状態は、ほぼ自然堆積を示すと考えられるが、第2層中には炭化材や土器等が投棄されている。

出土遺物は、土器と若干の自然石及び炭化材が検出されている。これらはすべて覆土中からの出土で、多くは第2層中に集中している。遺物の出土レベルを見ると、住居中央部のは比較的低く、壁に近づくにつれて高くなっており、覆土の堆積状態と良く一致している。本住居跡の床面直上から出土した遺物は、まったくない。



0 2m

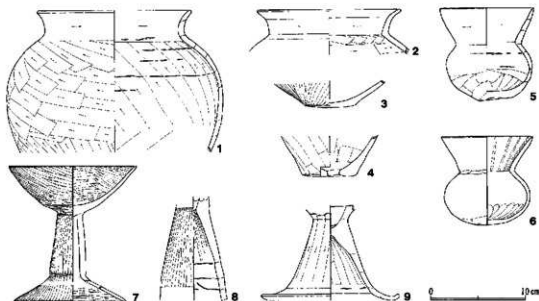
第197号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（白色粒子を多量に、マンガン塊・ローム粒子を微量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒灰色土層（白色粒子・焼土粒子を均一に、マンガン塊・鉄斑・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（白色粒子・マンガン塊・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第32図 第197号住居跡



第33図 第197号住居跡出土遺物

第197号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A, 口縁部径(16.2)、残存高15.0。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一明茶褐色。H, 覆土中。I, 1/3。
2	甕	A, 口縁部径(15.1)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ケズリ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一暗茶褐色。H, 覆土中。I, 1/4。
3	壺	A, 底部径5.0。B, 不明。C, 外面ミガキ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 外一暗茶褐色、内一淡褐色。H, 覆土中。I, 底部のみ。
4	甕	A, 底部径5.6。B, 粘土紐積み上げ。C, 外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ・笠ナデ。D, 白色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 外面に黒斑あり。穿孔は焼成前。H, 覆土中。I, 底部のみ。
5	小形丸底壺	A, 口縁部径9.9、底部径3.5、器高9.8。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外肉一暗茶褐色。H, 覆土中。I, 3/4。
6	小形丸底壺	A, 口縁部径9.6、器高9.4。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色、肉一黒褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土中。I, ほぼ完形。
7	高坏	A, 口縁部径(13.4)、推定高14.3。B, 粘土紐積み上げ。C, 外面ケズリの後ミガキ。脚部内面指ナデ。D, 片岩粒、黒色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外肉一暗橙褐色。H, 覆土中。I, 1/2。
8	高坏	A, 残存高10.9。B, 輪積み。C, 外面ミガキ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 覆土中。I, 脚部のみ。
9	高坏	A, 残存高10.0。B, 粘土紐積み上げ。C, 脚部外面ケズリ、内面指ナデ、脚端部内外面ヨコナデ。D, 片岩粒、白色粒。E, 不良。F, 内外一茶褐色、肉一黒褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土中。I, 1/2。

第198号住居跡（第34図、図版12-1、13-1・2）

本住居跡は、調査区中央の南側に位置し、北西側約2mには大形の第204号住居跡が、東側には1～3m離れて第199・207・209号住居跡の重複する3軒の住居跡がある。住居跡の南東側の一部を和泉期の第45号土壇に、北側コーナーの上面を後世の溝に切られているが、遺存状態は比較的良好である。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつが、比較的整然とした方形を呈している。規模は、北西～南東方向5.43m・南西～北東方向4.87mを測り、壁高は13cm～21cmである。主軸方位はN-10°-Wをとる。

床面は平坦でほぼ水平をなし、全体的に堅緻であるが、住居跡南東壁際の主柱穴P-3・P-4の間が長さ170cm・幅70cmの長形状に3cmほど高くなっている。これは、床面上に土を盛って踏み固めたもので、住居跡の床面に比べて非常に堅く、その堅さは移植ゴテが通らなかつたほどである。床面からは、焼土粒子や炭化粒子の分布は見られなかつたが、住居跡南側のP-4とP-5の間より角状の炭化材が検出されている。

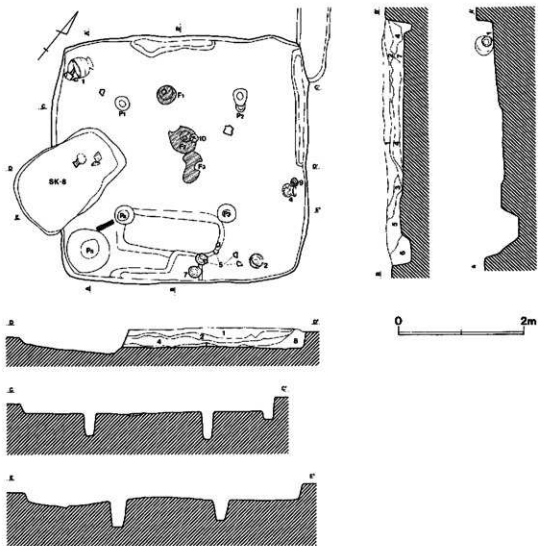
炉は、住居のほぼ中央部よりF-1～3の3箇所が検出されている。いずれも炉自体は掘り込みをもたない地床炉であるが、F-1・F-2はその内部に小ピットを伴っている。F-1は住居北西側の主柱穴P-1・P-2間にあり、平面形は30cm×30cmのほぼ円形を呈している。深さ10cmのピットを伴い、ピットの内面及び周辺は非常に良く焼けて硬化している。F-2は、ほぼ住居中央にあり、42cm×40cmの不整形を呈している。F-1と同様に深さ5cmの小ピットを伴い、非常に良く焼けて硬化している。F-3は、F-2の南東側に隣接し、50cm×30cmの不整形を呈している。床面が焼けているだけで付帯施設は伴わない。良く焼けているが、F-1やF-2ほどではない。

ピットは、炉に付帯するものを除いて、5箇所検出されている。P-1～4が主柱穴で12cm～30cmの円形を呈し、深さはそれぞれ35cm・44cm・32cm・43cmある。これらの主柱穴は、第192号住居跡で確認されたのと同様に、柱痕の下半部が埋まっておらず空洞をなしていた。P-5は住居の南側コーナーにあり、70cm×67cmの円形を呈し、深さは33cmある。その位置や形態より、貯蔵穴と考えられる。

壁溝は、住居の南西壁以外の各壁の一部に見られ、北西壁と南東壁はその中央部に、北東壁はその北側半分にある。深さは5cm～12cmある。一般的な形態を呈しているが、南東壁の壁溝には、その北東端に比較的大きいピット状の張り出しが認められる。その位置と前面の土間状の高まりからみて、住居の入口施設と関係するものであろう。

本住居跡の覆土は8層に分層でき、その埋没状態は自然的堆積を示すと思われる。

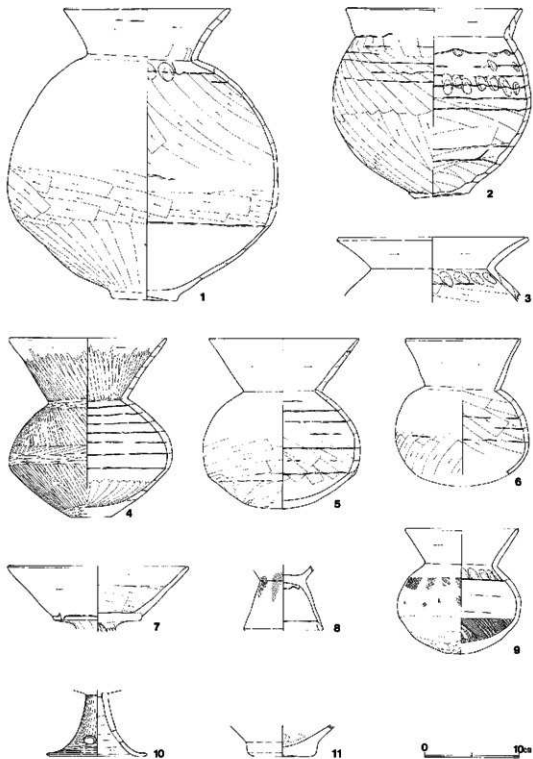
出土遺物は、すべて土器である。出土した土器の大半は、住居の床面に置かれたような状態で出土しており、住居の廃絶とともにそのまま遺棄されたものと考えられる。出土状態からは、良好な一括資料といえる。1の壺は、住居の西側コーナーより横転した状態で出土している。2の甕は、東側コーナー付近より正位で出土したが、上から土圧で押し潰されたような状態であった。4と9



第34図 第198号住居跡

第198号住居跡土層説明

- 第1層：黄褐色土層（黄褐色粒子を多量に、鉄斑を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：黒褐色土層（黄褐色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（第2層に類似するが、しまりがない。）
- 第4層：明灰褐色土層（鉄斑・砂粒を多量に含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第5層：暗灰褐色土層（鉄斑を多量に、砂粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：灰褐色土層（マンガン塊を多量に含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第7層：黒褐色土層（炭化粒子・焼土粒子を均一に、砂粒を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第8層：暗黄褐色土層（鉄斑・砂粒を多量に含む。粘性・しまりともない。）



第35图 第198号住居跡出土遺物

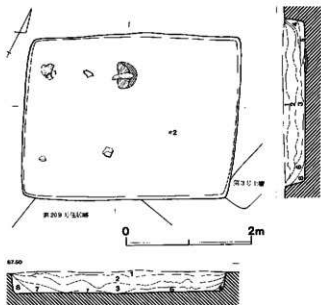
の壺は、ほぼ完形の土器で、北東壁際より正位で並んで出土している。5の壺は、南東壁際より正位で出土しているが、上半部はその北東側の床面上に散乱していた。7の高坏は、南東壁中央の壁溝張り出し部内より正位で出土したが、脚部を欠失しており、坏としての二次利用が考えられる。10の器台は、炉F-2のピットのそばより出土したが、二次焼成を受けた痕跡は見られない。この他の3・8・11は、いずれも覆土から出土したものである。

第198号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A、口縁部径17.6、底部径6.8、器高31.1。B、粘土組積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ケズリ、下半ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一暗茶褐色、内一黒褐色。G、外面に煤の付着あり。H、床直上。I、3/4。
2	甕	A、口縁部径(18.6)、底部径5.8、器高20.1。B、粘土組積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒。E、不良。F、外一暗茶褐色、内一黒褐色。H、床直上。I、2/3。
3	甕	A、口縁部径(20.1)。B、粘土組積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ケズリ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一暗橙褐色、内一暗茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/6。
4	壺	A、口縁部径16.6、底部径4.3、器高19.0。B、輪積み。C、口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ・ナデ。胴部外面ミガキの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一暗橙褐色、内一暗茶褐色。H、床直上。I、ほぼ完形。
5	壺	A、残存高16.9。B、輪積み。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、3/4。
6	壺	A、口縁部径(12.2)、残存高14.4。B、輪積み。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半部ナデ、内面ケズリの後ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土中。I、2/3。
7	高坏	A、口縁部径19.2。B、粘土組積み上げ。C、坏部外面ナデ、内面筒ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、壁溝張り出し部内。I、坏部のみ。
8	台付甕	A、残存高6.9。B、粘土組積み上げ。C、台部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、1/2。
9	壺	A、口縁部径11.8、器高13.3。B、粘土組積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ハケ、下半ケズリの後ナデ、内面ハケの後上半ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一暗褐色、内一黒褐色。H、床直上。I、完形。
10	器台	A、残存高6.7。B、粘土組積み上げ。C、脚部外面ミガキ、内面ケズリの後ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、焼成前の穿孔3単位。H、床直上。I、脚部のみ。
11	壺	A、底部径7.2。B、不明。C、外面ナデ、内面筒ナデ。D、片岩粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、1/2。

第199号住居跡(第36図、図版12-2)

本住居跡は、調査区のほぼ中央にあり、南側の第209号住居跡を一部切っている。本住居跡の北西側約1.7mには第206号住居跡が、西側約2.7mには大形の第204号住居跡が、南西側約3mには第198号住居跡がある。東側コーナー上面の一部を平安時代の第40号土壇に切られているが、遺構の掘り込みは比較的深く、遺存状態は良好である。



第36図 第199号住居跡

平面形は、整然とした長方形を呈している。規模は、北西～南東方向2.63m・北東～南西方向3.39mを測り、今回調査した住居跡のなかでは一番小さなものである。壁高は、30cm～32cmある。主軸方位はN-26°-Wをとる。

床面は、凹凸がなくほぼ平坦につくられているが、北東側がやや高くなっている。全体的にやや軟弱である。炉の北東側の床面直上に密着して、炭化粒子の分布が見られる。

炉は、住居中央の北西壁寄りに位置し、若干の掘り込みと炉石を伴う地床炉である。42cm×21cmの不整形を呈し、非常に良く焼けて硬化している。炉石は、長さ33cm・幅10cmの扁平な片岩を使用しているが、一般的なありかたと違い、炉の中央に石の平坦面を上にして置かれている。石の上面は、焼成により赤色化している。

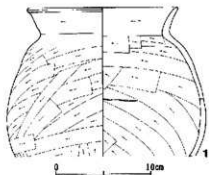
ピットや壁溝等の施設は検出されなかった。

本住居跡の覆土は、8層に分層できるが、各層の境界は不明瞭で漸移的である。その埋没状態は、自然的堆積を示すと考えられる。

出土遺物は、比較的少ない。1の甕は、住居西側コーナー付近の覆土第2層中より出土している。2の石製紡錘車は、住居中央やや東側の床面直上より出土している。

第199号住居跡土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層（白色粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：黄褐色土層（ローム粒子・マンガン塊・鉄斑を多量に含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗黄褐色土層（マンガン塊を多量に、ローム粒子・鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：黒色土層（炭化粒子を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：灰茶褐色土層（ローム粒子を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・マンガン塊を多量に、砂粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（砂粒を多量に、ローム粒子・マンガン塊を均一に含む。粘性・しまりともない。）



第37図 第199号住居跡出土遺物

第199号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径15.8、残存高15.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面窪ナデ。D. 片岩粒・角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 外一暗茶褐色、内一橙褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。I. 1/3。
2	石製紡錘車	A. 直径4.6、厚さ1.3、重量39g。C. 平坦面は研磨、側面はケズリ。H. 床直上。I. 完形。

第200号住居跡 (第38図、図版14-1)

本住居跡は、調査区中央の北西側に位置し、西側約6mには、第202号住居跡がある。第201号住居跡と一部重複し、本住居跡がそれを切っている。本住居跡は、遺存状態が極めて悪く、北側3分の2及び南側の一部を奈良・平安時代のC-2号溝跡群によって切られているため、その全容は不明である。

平面形は、現存する各壁やコーナー部の形態より、方形もしくは長方形を呈するものと考えられる。規模は、東西方向5.05m・南北方向は1.96mまで測れる。壁高は、現存する壁で20cm～25cmある。主軸方位は、N-6°-Wをとる。

床面は、あまり凹凸がなくほぼ平坦につくられているが、壁際が若干高くなっている。全体的に堅緻である。床面上からは、焼土粒子や炭化粒子の分布は見られなかったが、西側壁際で床より5～6cm浮いて角状の炭化材が検出されている。

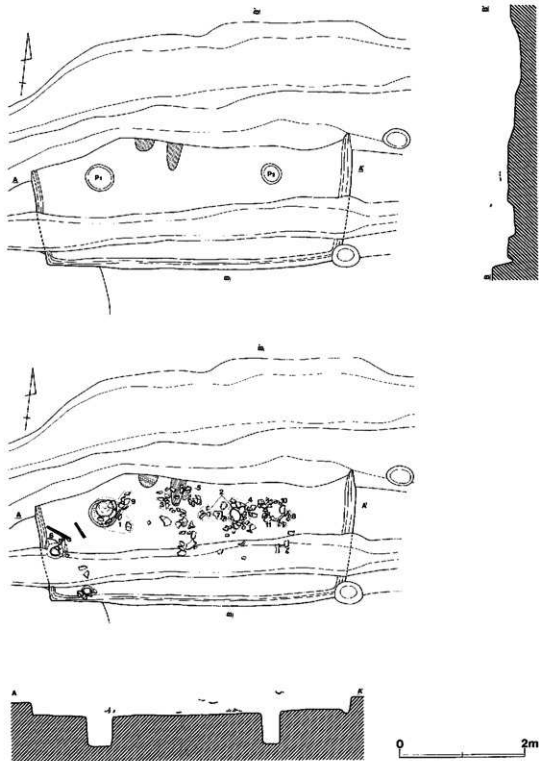
炉は、住居中央のやや西側寄りで、2箇所検出されている。いずれも掘り込みや付帯施設を伴わず、単に床面が焼けているだけの地床炉で、非常によく焼けて硬化している。北側半分を第2号溝群によって切られているため、平面形や規模は不明である。

ピットは、P-1・P-2の2箇所検出されている。いずれもその位置から支柱穴と考えられるものである。平面形は円形を呈し、深さはそれぞれ47cm・50cmある。

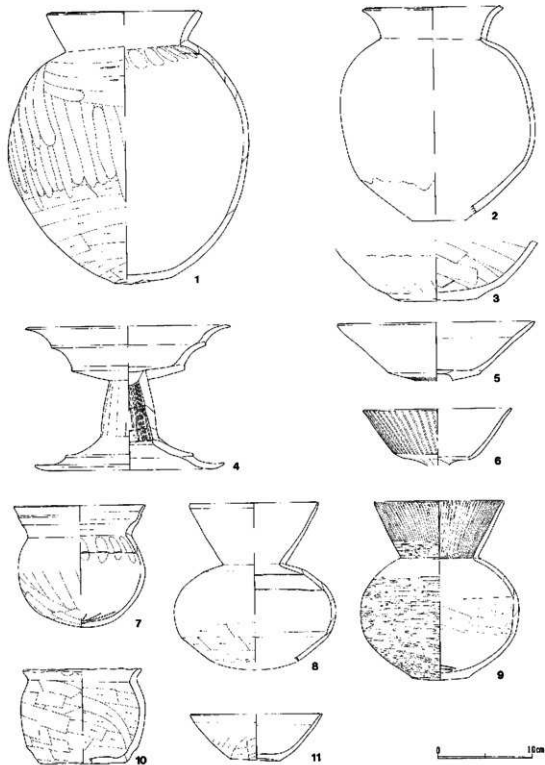
出土遺物は、住居跡の中央部より多量の土器が出土している。これらの土器は、覆土中から散在した状態で出土し、また支柱穴P-1・P-2上にも土器が出土していることから、住居廃絶後の覆土の埋没過程に投棄されたものと考えられる。

第200号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径16.4、底部径6.2、器高28.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 良好。F. 内外一淡褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 支柱穴P-1直上。I. 2/3。
2	甕	A. 口縁部径14.8、残存高22.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 良好。F. 内外一暗橙褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。I. 4/5。
3	壺	A. 底部径8.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 不良。F. 外一黒褐色、内一淡褐色。H. 覆土中。I. 1/2。
4	高 環	A. 口縁部径(21.6)、器高15.2。B. 粘土紐巻き上げ。C. 内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一茶褐色。H. 覆土中。I. 2/3。
5	高 環	A. 口縁部径20.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ、環部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、角閃石、白色粒。E. 良好。F. 内外一暗橙褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。I. 4/5。



第38图 第200号住居跡



第39图 第200号住居跡出土遺物

6	高 坏	A、口縁部径15.6、B、粘土組織み上げ。C、坏部内外面ナデ、胴部外面ケズリの後ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、1/2。
7	鉢	A、口縁部径(14.0)、器高12.9。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石。E、良好。F、内外一茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/3。
8	壺	A、口縁部径(13.6)、残存高16.9。B、輪積み。C、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/2。
9	壺	A、口縁部13.8、底部径6.0、推定高(20.0)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデの後ミガキ、胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリの後ナデ。D、白色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。
10	鉢	口縁部径(12.6)、底部径(9.2)、器高10.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一橙褐色、内一暗褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/3。
11	坏	A、口縁部径(14.0)、底部径5.2、器高5.0。B、不明。C、口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色、内一黒褐色。G、外面に煤の付着あり。H、覆土中。I、1/2。

第201号住居跡(第40区、図版14-2)

本住居跡は、調査区中央部の北西側に位置し、西側約3.3mには大形の第202号住居跡が、南西側約20cmには第196号住居跡が、南側約1.5mには第197号住居跡がある。本住居跡の北壁を奈良・平安時代の第2号溝群及び古墳時代の第200号住居跡によって切られているが、遺存状態は比較的良好である。

平面形は、コーナー部の丸みの強いいわゆる隅丸長方形を呈す。規模は、南北方向5.06m・東西方向4.65mを測り、壁高は20cm～28cmである。主軸方位は、N-6°-Eをとる。

床面は、ほぼ平坦につくられているが、北側に向かって若干低くなっている。全体的に堅緻である。床面上には、焼土粒子や炭化粒子等の分布は見られなかった。

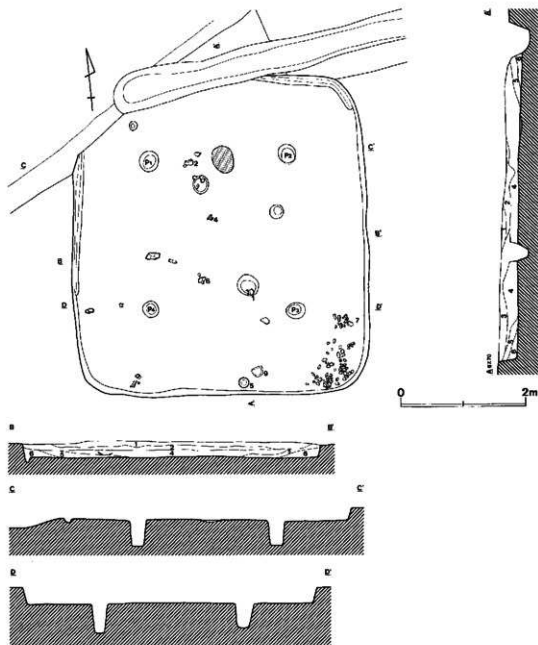
炉は住居中央北寄りの主柱穴P-1・P-2間に位置し、掘り込みや付帯施設を伴わない、単に床面が焼けているだけの地床炉である。平面形は不整形円形を呈し、規模は42cm×34cmを測る。非常に良く焼けて、硬化している。

ピットは、住居内より7箇所検出されているが、本住居跡に伴うものはP-1～4の4箇所である。P-1～4は主柱穴と考えられ、直径約30cmの円形を呈し、深さはそれぞれ42cm・40cm・37cm・45cmあり、形態が非常によく類似している。

壁溝は、北壁と西壁の一部に認められ、幅は12cm～16cm・深さは5cm～11cmを測り、比較的に均一な形態を呈している。

本住居跡の覆土は6層に分層でき、下層の第4～6層中には焼土粒子と炭化粒子が見られる。覆土の埋没状態は、自然的堆積を示すと考えられる。

出土遺物は、比較的少なく、大半は覆土中からの出土である。床面直上からは、南壁下より完形



第40図 第201号住居跡

第201号住居跡土層説明

第1層：暗灰色土層（白色粒子を均一に、鉄斑・マンガン塊を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：灰色土層（鉄斑・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

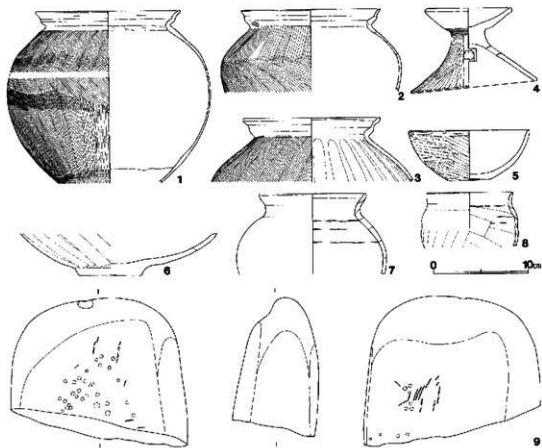
第3層：暗褐色土層（白色粒子・鉄斑・マンガン塊を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗黄褐色土層（鉄斑を多量に、マンガン塊・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：黒褐色土層（炭化粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（鉄斑を多量に、マンガン塊・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

の坏（5）と扁平な自然石を利用した砥石（9）が出土しただけである。このほか、住居の南東コーナー部の床面直上には、長さ5cm前後の多量の自然石が検出されている。



第41図 第201号住居跡出土遺物

第201号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A, 口縁部径 (15.2)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ケズリ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 外上半-白褐色、外下半-暗褐色、内内-白褐色。H, 覆土中。I, 1/4。
2	甕	A, 口縁部径 (14.6)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D, 片岩粒、赤色粒。E, 良好。F, 内外-淡褐色。H, 覆土中。I, 1/2。
3	甕	A, 口縁部径 (14.4)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面指ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 不良。F, 外-暗褐色、内-白褐色、内-黒褐色。H, 覆土中。I, 1/4。
4	器台	A, 口縁部径9.2、器高9.0。B, 粘土紐積み上げ。C, 器受部内外面ナデ。脚部外面ハケの後ミガキ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外-明橙褐色。G, 脚部穿孔は4箇所あり、一箇所につき2個重複している。H, 覆土中。I, ほぼ正形。

5	坏	A, 口縁部12.6, 底部径4.2, 器高5.3, B, 粘土組織み上げ, C, 外面ミガキ, 内面ナデ, D, 片岩粒, 角閃石, 黒色粒, 赤色粒, E, 良好, F, 内外一淡褐色, H, 床直上, I, 完形。
6	甕	A, 底部径6.6, B, 粘土組織み上げ, C, 外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, D, 片岩粒, 角閃石, E, 良好, F, 外一橙褐色, 内一暗褐色, H, 覆土中, I, 底部のみ。
7	甕	A, 口縁部径11.2, B, 輪積み, C, 不明, D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 内外一橙褐色, H, 覆土中, I, 胴部下半欠失。
8	鉢	A, 口縁部径 (9.0), B, 粘土組織み上げ, C, 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, D, 片岩粒, 角閃石, E, 不良, F, 外一暗赤褐色, 内一暗褐色, H, 覆土中, I, 1/4。
9	砥石	A, 残存長15.7, 幅18.5, 厚さ8.9, G, 表裏面は非常に良く磨かれており, 多くの叩き痕と刻線状の擦痕がある, 両側面も磨かれているが, 表裏面ほどではない, H, 床直上, I, 1/2。

第202号住居跡 (第42図)

本住居跡は、調査区中央の北西端に位置し、東側約3.5mには第201号住居跡が、南東側約1.7mには第196号住居跡がある。

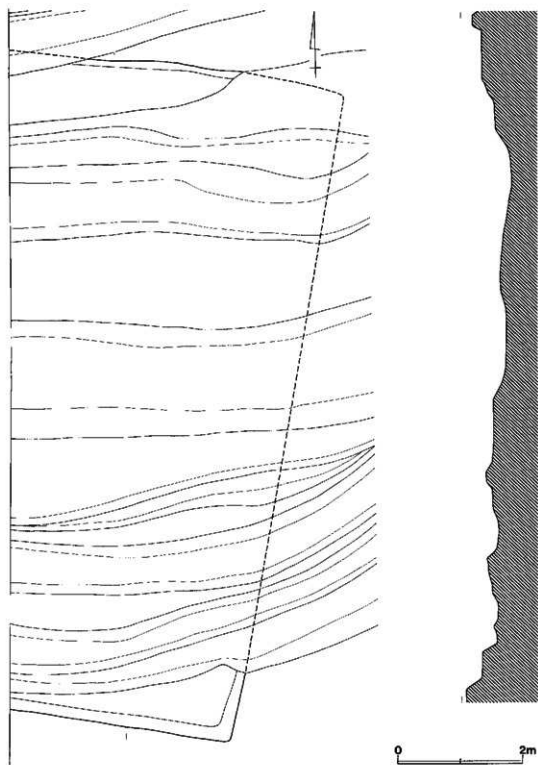
本住居跡は、その大部分を奈良・平安時代の第2号溝群によって破壊されているため、その全容は不明で、遺存状態は極めて悪い。北側に北壁の一部が、南側に南東コーナーの一部が残存しているだけであるが、これらが同一の住居跡であるという確実な根拠はない。しかし、北壁と南壁がほぼ平行し、両方の床面のレベルが一致することから、同一の住居跡である可能性が高いと考えられる。南北方向が10mを越すかなり大形の住居跡になるが、ここでは一つの住居跡と考えておきたい。

住居の平面形は、残存する壁やコーナー部の形態より、方形もしくは長方形を呈すと思われる。規模は、南北方向が10.5mを測り、壁高は14cm～26cmである。主軸方位はN-10°-Eをとる。

住居の内部施設や覆土の埋没状態は、遺存状態が極めて悪いため、まったく不明である。

出土遺物は、住居跡北側の北壁際より、和泉式土器の高坏や甕の破片が数片出土している。





第42図 第202号住居跡

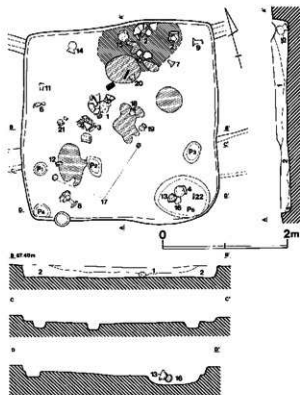
第203号住居跡 (第43図、図版15-1)

本住居跡は、調査区中央南側に位置する。本住居跡の北東側約1mには第207号住居跡が、北側約3mには第194号住居跡が近接している。本住居跡は、南側の河道跡に伴うやや幅の広い側溝を切っているが、その北側の比較的幅の狭い溝には切られている。遺構の遺存状態は、良好である。

平面形は、南東コーナー部がやや丸みを帯びるが、比較的整然とした方形を呈している。規模は東西・南北方向とも3.01mを測り、今回調査された住居跡の中では、小形の部類に属する。壁高は、7cm~29cmある。主軸方位はN-13°-Eをとる。

床面は、ほぼ平坦につくられているが、南北の各壁際が若干低くなっている。住居中央部は非常に堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。床面上には焼土粒子の分布は見られなかったが、北壁際の中央付近において炭化粒子の分布が比較的広範囲に見られた。これは炭化粒子といっても泥炭化したもので、床面に密着し、炉の一部を被覆していた。また主炉の近くで長さ15cm程度の炭化材が二つ検出されている。

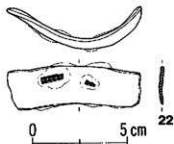
炉は、4箇所検出されているが、いずれも掘り込みや付帯施設を伴わない、単に床面が焼けているだけの地床炉で、良く焼けて硬化している。形態に差があり、円形のもの和不整形のものがある。



第43図 第203号住居跡

第203号住居跡土層説明

- 第1層：暗黄褐色土層（鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：黒灰色土層（鉄斑・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（鉄斑・マンガン塊を微量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第44図 第203号住居跡出土鉄器

主炉と考えられるものは、北壁寄りのもので、46cm×56cmの円形を呈し、一番良く焼けて硬化している。その北東側にも床面が焼けているところが2箇所あるが、他に比べて規模が小さく焼け方も不十分で硬化しておらず、一時的な火の使用により焼けた所と考えられる。

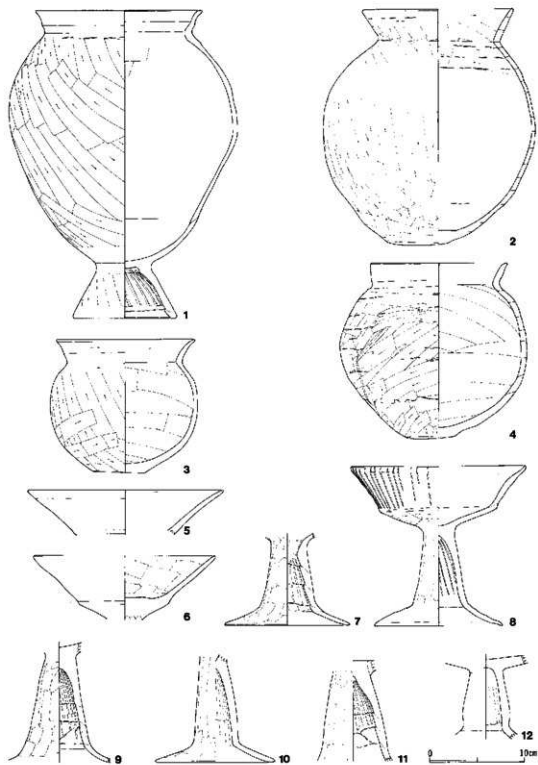
ビットは、4箇所検出されている。P-1～3は、住居の南側にあり、南壁に沿った直線上に位置している。深さはそれぞれ10cm・11cm・10cmであり、比較的そろっている。これらが、住居の上屋構造と関係するものかどうかは、不明である。P-5は、住居の南東コーナー部にあり、貯蔵穴と考えられるものである。平面形は楕円形を呈し、規模は87cm×66cmを測る。深さは15cmあり、底面はほぼ平坦である。P-4の中からは、甕(4)・甔(13)・壺(16)及び鉄製品(22)が出土している。

本住居跡の覆土は、3層に分層でき、やや黒みの強い第2層は、焼土粒子と炭化粒子を含んでいる。覆土の埋没状態は、ほぼ自然的堆積を示すと思われる。

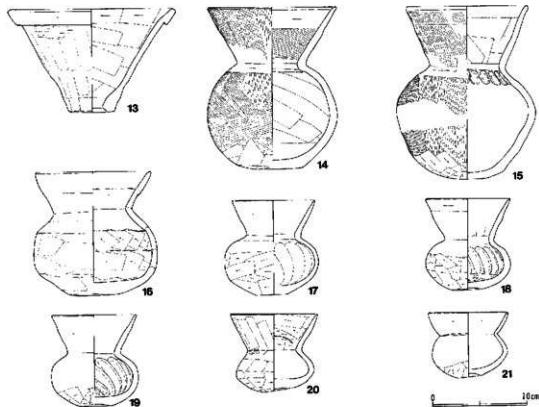
出土遺物は、比較的豊富であり、図示した土器のうち、覆土中もしくは覆土上面から出土した高坏の5・6・9・11・12の5個体を除いたほかは、良好なセットとしてとらえることができる。これらの遺物は、住居の床面直上に置かれたような状態で出土しており、住居の廃絶とともにそのまま廃棄されたものと考えられる。これらの土器の出土状態の中で特に注目されるのは、貯蔵穴内より出土した単孔の甔(13)と壺(16)であり、入れ子状に重なって出土している。単に不安定な甔を安置するために壺を台のかわりとして使用したのかもしれないが、一般に言われているような甔と甕という使用方法だけでなく、甔と壺という特異なセットの使用方法を窺うことのできる例である。貯蔵穴内より出土した鉄製品(22)は、薄い板状の形態のもので、その形状より直刃鎌の可能性もあるが、刃部は不明瞭である。表面には、炭化した木片が付着している。

第203号住居跡出土土物観察表

1	台付甕	A、口縁部径(17.6)、器高32.7。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。台部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外-暗褐色、内-黒色。H、床直上。I、2/3。
2	甕	A、口縁部径16.0、底部径6.4、器高25.0。粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデの後上半ケズリ。D、片岩粒、赤色粒。E、良好。F、外-暗褐色、内-黒褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、ほぼ完形。
3	甕	A、口縁部径14.7、底部径5.4、器高14.2。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒。E、良好。F、内外-淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、ほぼ完形。
4	甕	A、口縁部径14.5、底部径5.3、器高18.6。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後一部ナデ、内面甕ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒。E、不良。F、外-乳白色、内-黒色。G、外面に黒斑あり。H、貯蔵穴内。I、完形。
5	高坏	A、口縁部径(20.7)。B、粘土紐積み上げ。C、口唇部内外面ヨコナデ、口縁部内外面ナデ。D、片岩粒、赤色粒。E、良好。F、外内-暗褐色・内-淡褐色。H、覆土中。I、1/8。
6	高坏	A、口縁部径9.2。B、粘土紐積み上げ。C、口唇部内外面ヨコナデ、口縁部内外面甕ナデ。坏部内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E、良好。F、内外-淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/3。
7	高坏	A、残存高9.7。B、粘土紐巻き上げ。C、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、黒色粒。E、良好。F、外-淡褐色、内-淡褐色。H、覆土中。I、胴部3/4。



第45图 第203号住居跡出土遺物(1)



第46図 第203号住居跡出土遺物(2)

8	高 环	A, 口縁部径18.6, 器高16.9, B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ナデ, 坏部, 脚部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ。D, 片岩粒, 角閃石, 黒色粒, 赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 口縁部外面に暗文あり。H, 床直上。I, 完形。
9	高 环	A, 残存高12.8, B, 粘土紐巻き上げ。C, 脚部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ。D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗橙褐色。H, 覆土中。I, 脚部のみ。
10	高 环	A, 残存高11.4, B, 粘土紐積み上げ。C, 脚部外面ケズリの後ナデ, 内面寛ナデ, 脚部内外面ナデ。D, 片岩粒, 角閃石, 黒色粒, 赤色粒。E, 良好。F, 内外肉一淡橙褐色。H, 覆土中。I, 2/3。
11	高 环	A, 残存高10.7, B, 輪積み。C, 脚部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ。D, 片岩粒, 角閃石, 黒色粒, 赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗茶褐色。H, 覆土中。I, 脚部のみ。
12	高 环	A, 残存高8.8, B, 粘土紐積み上げ。C, 脚部外面ナデ, 内面ケズリ。D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒。E, 良好。F, 外一橙白色, 内一淡褐色。H, 覆土中。I, 脚部のみ。
13	小形瓶	A, 口縁部径17.8, 底部径5.0, 器高10.9, B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ハケの後ナデ, 内面寛ナデ。D, 片岩粒, 角閃石, 黒色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 内外面に黒斑あり。H, 貯蔵穴内。I, 1/2。
14	壺	A, 口縁部径13.6, 器高17.4, B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部外面ハケの後ナデ, 内面ハケの後上半部ナデ, 胴部外面ハケの後ナデ, 内面寛ナデ, 底部外面ケズリ。D, 片岩粒, 角閃石, 黒色粒, 赤色粒。E, 良好。F, 外一橙褐色, 内一灰白色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, 完形。

15	壺	A, 口縁部径12.9、器高18.3。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部外面ハケの後ナデ、内面鏡ナデ。胴部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 外一橙褐色、内一淡褐色。H, 床直上。I, 完形。
16	壺	A, 口縁部径12.2、器高13.1。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。D, 片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 貯蔵穴内。I, ほぼ完形。
17	小形丸底壺	A, 口縁部径8.8、器高10.0。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後、内面指ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 床直上。I, ほぼ完形。
18	小形丸底壺	A, 口縁部径9.0、器高9.7。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, ほぼ完形。
19	小形丸底壺	A, 口縁部径(9.0)、器高9.7。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ナデ、下半ケズリ、内面指ナデ。D, 片岩粒、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, 3/4。
20	小形丸底壺	A, 口縁部径9.2、器高8.4。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面鏡ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, 3/4。
21	小形丸底壺	A, 口縁部径8.1-8.5。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ナデ、下半ケズリ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 床直上。I, 完形。
22	鉄器	A, 長さ7.0、幅2.1、厚さ0.2。G, 外面に木片の付着あり。形は湾曲しており、器種は不明。H, 貯蔵穴内。I, 完形。

第204号住居跡(第47図、図版16-1・2)

本住居跡は、調査区中央のやや南西側に位置している。周辺には、北側約1.3mに第197号住居跡が、北東側約3.2mに第208号住居跡、約1.8mに第206号住居跡が、東側約2.8mに第199号住居跡が、南東側約2mには第198号住居跡が近接しており、本住居跡を取り巻くように多くの住居跡が存在している。本住居跡は、西側コーナー部及び覆土を後世の溝によって切られているが、遺存状態は良好である。

平面形、非常に整った方形を呈している。規模は、北西～南東方向7.68m・南西～北東方向7.50mを測り、今回調査した住居跡の中では、第202号住居跡と第217号住居跡に次いで、大形である。壁高は、11cm～27cmある。主軸方位はN-43°-Wをとる。

床面はあまり凸凹がなく、ほぼ平坦につくられている。主柱穴P-1～4に囲まれた住居中央部は比較的堅緻であるが、壁に近い周辺部はやや軟弱である。

炉は、住居中央部北西寄りの主柱穴P-1・P-2間にやや近い所に位置している。平面形は不整形を呈し、規模は64×54cmを測る。掘り込みをもたない地床がであるが、炉内に深さ5cmの小ピットを伴う。非常に良く焼けて、硬化している。

ピットは、炉に付帯する小ピットを除いて、住居内より8箇所検出されているが、本住居跡に伴

うものはP-1~4の4箇所である。P-1~4は支柱穴で、深さはそれぞれ68cm・76cm・77cm・72cmあり、他の住居跡のものに比べて深い。これらの支柱穴は、第192号住居跡や第198号住居跡と同じく、柱痕の下半部が埋まらず空洞をなしていた。

貯蔵穴と考えられるものは、住居の南側コーナー部より検出されているが、他の住居跡のものに比べ、特異な形態をしている。長さ2.80m・幅1.50mと非常に大きく、平面形は長方形に近い形態を呈している。床面からの深さは13cmであり、底面は平坦である。貯蔵穴内からは完形もしくはそれに近い甕(1・2)・高坏(13・15・17・18)・壺(9)・瓶(10)が多数出土している。

本住居跡の覆土は、上面の溝覆土を除いて6層に分層できるが、各層は明瞭な不連続層をなさず、漸移的である。埋没状態の観察では、ほぼ住居跡の四方から序々に埋没したようで、自然的堆積としてとらえることができる。

出土遺物は、すべて土器であるが、比較的豊富である。これらの土器は、完形もしくはそれに近いものが多く、ほとんどが床面直上に置かれていたような状態で出土している。おそらく住居廃絶とともにそのまま遺棄されたものと考えられ、出土状態からも良好な一括資料といえる。

第204号住居跡土層説明

第1層：黒灰色土層(鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第2層：暗茶褐色土層(鉄斑を多量に、マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第3層：暗灰色土層(鉄斑・マンガン塊・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第4層：黒褐色土層(鉄斑を多量に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)

第5層：暗黄褐色土層(鉄斑・マンガン塊を多量に含む。粘性、しまりを有する。)

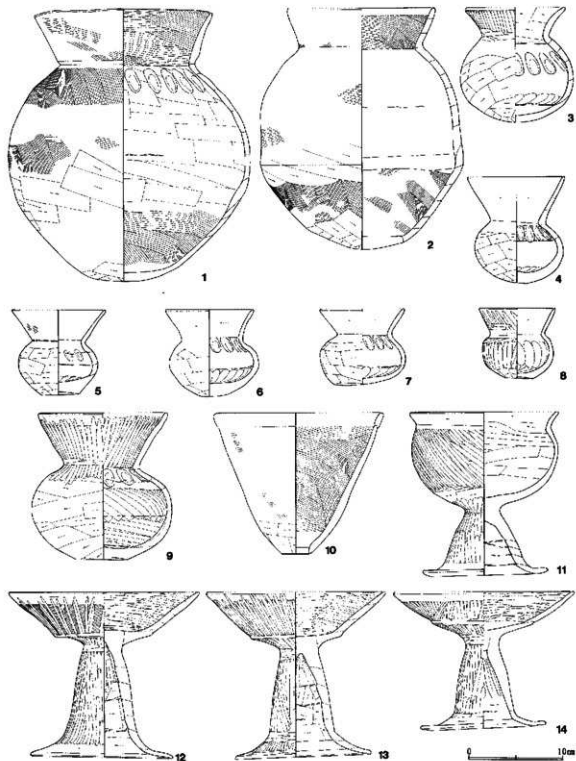
第6層：暗灰色土層(マンガン塊を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第204号住居跡出土遺物観察表

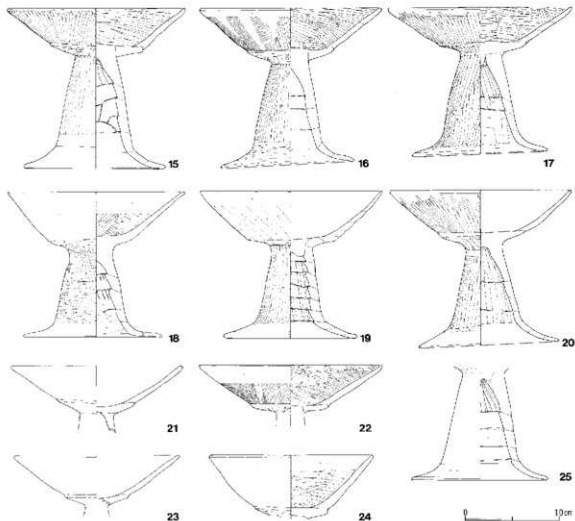
1	甕	A、口縁部径16.5~18.8、器高28.9。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部外面ハケの後ナデ、内面ハケ。胴部外面ハケの後ナデと一部ケズリ、内面上半ナデ、下半ハケ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一橙褐色、内一暗褐色。G、外面に黒斑あり。H、貯蔵穴内。I、ほぼ完形。
2	甕	A、口縁部径15.4、器高25.5。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部外面ハケの後ナデ、内面ハケ。胴部外面ハケの後上半ナデ、下半ケズリ、内面ハケの後ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一暗褐色、内一橙褐色、内一黒褐色。H、貯蔵穴内。I、ほぼ完形。
3	小形丸底壺	A、口縁部径10.6、器高12.2。B、輪積み。C、口縁部外面ミガキ、内面笠ナデ。胴部外面上半ナデ下半ケズリ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。H、床直上。I、完形。
4	小形丸底壺	A、口縁部径10.3、器高11.3。B、輪積み。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、完形。
5	小形丸底壺	口縁部径(10.0)、底部径4.0、器高9.1。B、輪積み。C、口縁部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。



第47图 第204号住居跡



第48图 第204号住居跡出土遺物(1)



第49図 第204号住居跡出土遺物(2)

6	小形丸底壺	A, 口縁径9.1、器高9.3。B, 輪積み。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 床直上。I, 完形。
7	小形丸底壺	A, 口縁径8.7、器高7.9。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D, 片岩粒、黒色粒、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 床直上。I, 完形。
8	小形丸底壺	A, 口縁径8.0、底径2.9、器高7.5。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部外面ヨコナデの後ミガキ、内面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面指ナデ。D, 片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, ほぼ完形。
9	甕	口縁径13.7、底径5.5、器高15.6。B, 粘土紐巻き上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 貯蔵穴内。I, 完形。

10	小形瓶	A. 底部径3.0、残存高13.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ハケの後上半ナデ、下半ケズリ、内面ハケ。D. 片岩粒、角閃石。E. 不良。F. 外一黒茶褐色、内一茶褐色、肉一褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 貯蔵穴内。I. 胴部のみ。
11	台付鉢	A. 口縁部径15.8、器高17.5。B. 輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ後ミガキ、内面鉢部底ナデ、台部ナデ。台端部内外面内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。H—床直上。I. ほぼ完形。
12	高 環	A. 口縁部径20.2、器高17.6。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部外面ハケの後ミガキ、内面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 床直上。I. ほぼ完形。
13	高 環	A. 口縁部径19.0、器高17.7。輪積み。C. 口縁部内外面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ケズリ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 貯蔵穴内。I. ほぼ完形。
14	高 環	A. 口縁部径19.2、器高14.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。脚部外面ケズリ後ミガキ、内面ケズリ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。G. 環部内面に斑点状剥離あり。口縁部内面・脚端部内外面に黒斑あり。H. 床直上。I. ほぼ完形。
15	高 環	A. 口縁部径18.9、器高17.0。B. 輪積み。C. 口縁部内外面・脚部外面ミガキ。脚部内面ナデ、脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 貯蔵穴内。I. ほぼ完形。
16	高 環	A. 口縁部径19.2、器高17.0。B. 輪積み。C. 口縁部外面ハケの後ナデ、内面ミガキ、環部外面ケズリ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。床直上。I. ほぼ完形。
17	高 環	A. 口縁部径19.4、器高15.8。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ミガキ、脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。G. 環部内面に斑点状剥離あり。外面に黒斑あり。H. 貯蔵穴内。I. ほぼ完形。
18	高 環	A. 口縁部径18.8、残存高15.4。B. 輪積み。C. 口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ミガキの後一ナデ。環部外面ケズリ。脚部外面ミガキの後ナデ、内面ケズリ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 不良。F. 内外一橙褐色、肉一黒灰色。G. 外面に黒斑あり。H. 貯蔵穴内。I. 脚端部欠失。
19	高 環	A. 口縁部径 (19.4)、器高15.6。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部外面ケズリの後ナデ、内面不明。脚端部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。H. 覆土中。I. 1/3。
20	高 環	A. 口縁部径19.2、器高16.4。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部外面ミガキ、内面不明。脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。脚端部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 内外一橙褐色。G. 環部内面に斑点状剥離あり。H. 床直上。I. ほぼ完形。
21	高 環	A. 口縁部径 (18.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。H. 覆土中。I. 環部のみ。
22	高 環	A. 口縁部径 (19.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ハケの後ナデ、内面ミガキ。環部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 不良。F. 外一茶褐色、内一淡褐色、肉一暗茶褐色。H. 覆土中。I. 1/4。
23	高 環	A. 口縁部径 (17.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E. 不良。F. 内外一橙褐色、肉一黒灰色。H. 覆土中。I. 1/5。
24	高 環	A. 口縁部径17.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ナデ、内面ミガキ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 外一橙褐色、内肉一暗灰色。H. 覆土中。I. 1/2。
25	高 環	A. 残存高11.9。B. 輪積み。C. 脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 内外一暗橙褐色。H. 覆土中。I. 脚部のみ。

第205号住居跡（第50図、図版17-1）

本住居跡は、調査区中央の西端に位置し、北東側約1mには第196号住居跡が、南東側約2.5mには大形の第204号住居跡が近接している。本住居跡は、炉と主柱穴の一部が検出されただけで、住居の壁等はすでに後世の耕作によって削平されて残存しておらず、遺存状態が極めて悪いため、遺構の全容は不明である。

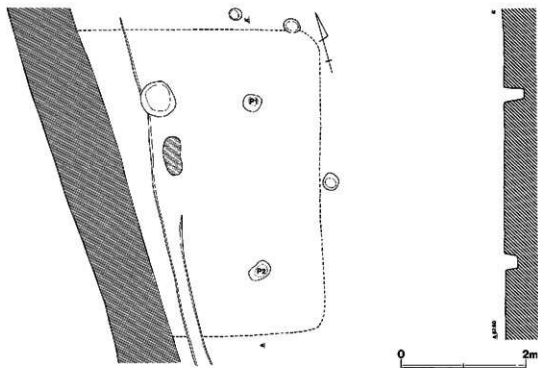
平面形は不明であるが、規模は検出した主柱穴の位置から推測すると、5m前後の住居跡と思われる。主軸方位は、N-17°-Eをとると考えられる。

床面は、不明瞭であるが、炉の周辺で一部堅緻な所が見られた。

炉は、住居中央のやや北東寄りに位置している。平面形は、南北方向に長い楕円ぎみの不整形を呈し、規模は60cm×26cmを測る。掘り込みや付帯施設を伴わない地床炉であるが、非常に良く焼けて硬化している。

ピットは、2箇所検出されている。P-1・P-2は、その位置から主柱穴と考えられるもので、確認面からの深さはそれぞれ32cm・20cmある。このほか周辺には何箇所かピットが存在しているが、いずれも本住居跡より新しいものである。

出土遺物は、本住居跡の遺存状態を反映して極めて少なく、炉の周辺より和泉式土器の破片が数点出土しただけである。



第50図 第205号住居跡

第206号住居跡（第52図、図版17-2・18-1）

本住居跡は、調査区のほぼ中央に位置し、北東側約2.4mには第197号住居跡が、北西側約4.5mには重複する第215・216号住居跡が、南西側約1.8mには大形の第204号住居跡が、南東側約1.8mには第199号住居跡が近接して存在する。本住居跡は、北西側の第208号住居跡と重複し、その一部を切っている。遺存状態は、比較的良好である。

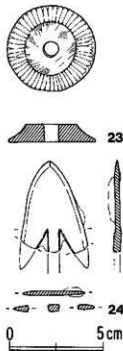
平面形は、北東壁が東側に開いてやや歪んでいるが、ほぼ方形を呈している。規模は、北西～南東方向5.53m・北東～南西方向5.67mを測り壁高は5cm～34cmある。主軸方位は、N-28°-Wをとる。

床面は、あまり凹凸がなくほぼ平坦につくられているが、住居の南東側が若干低くなっている。全体的に堅緻である。

炉は、住居中央のやや北西寄りに位置している。掘り込みや付帯施設を伴わない、単に床面が焼けているだけの地床炉であるが、良く焼けて硬化している。平面形は不整形を呈し、規模は52cm×37cmを測る。

ピットは、住居内より5箇所検出されている。P-1～3は、その位置と配置から本住居跡の主柱穴と考えられる。これらは、4本主柱穴の一部をなすものと思われ、残りの1本はP-4と重複していたためか、確認できなかった。深さはそれぞれ18cm・21cm・43cmあり、P-3が他に比べて極端に深くなっている。P-4は、P-1の南東側に位置し、深さは18cmある。P-5は、住居の南東コーナー部にあり、その位置と形態より貯蔵穴と考えられる。平面形は80cm×63cmの楕円形に近い形を呈しており、深さは64cmと比較的深い。貯蔵穴の北西側に不整形の床面より一段テラス状に低くなった部分がある。貯蔵穴内からは、底面からかなり浮いた状態で小形丸底壺(10)と高坏の坏部(17)が、北西側の一段低いテラス部からは完形の高坏(15)が出土している。

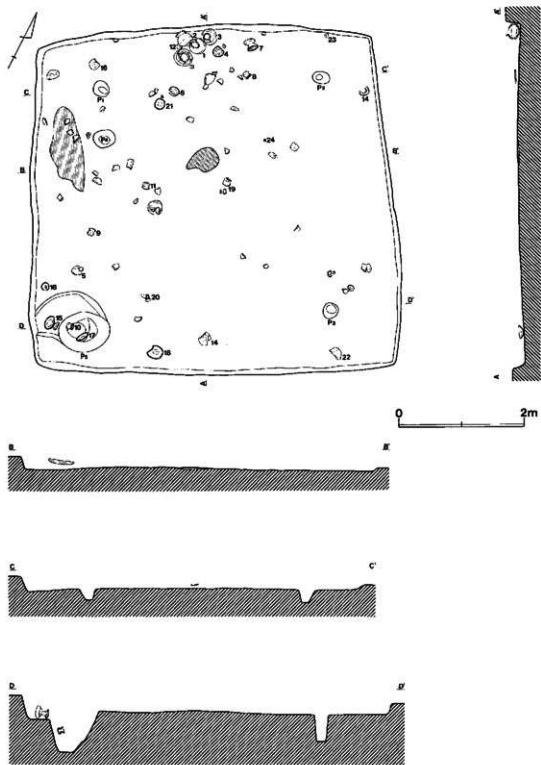
出土遺物は、比較的豊富である。一部住居の南西壁際の覆土中に焼土と土器片の投棄が見られるが、他の多くの完形に近い土器は、床面直上に置かれていたような状態で出土している。これらの土器は、住居の廃絶とともに遺棄されたものと考えられる。このほかには、南東壁際の床面直上より自然石を使用した砥石(22)が、北西壁際の床面直上より石製紡錘車(23)が、覆土中より鉄鎌(24)が出土している。



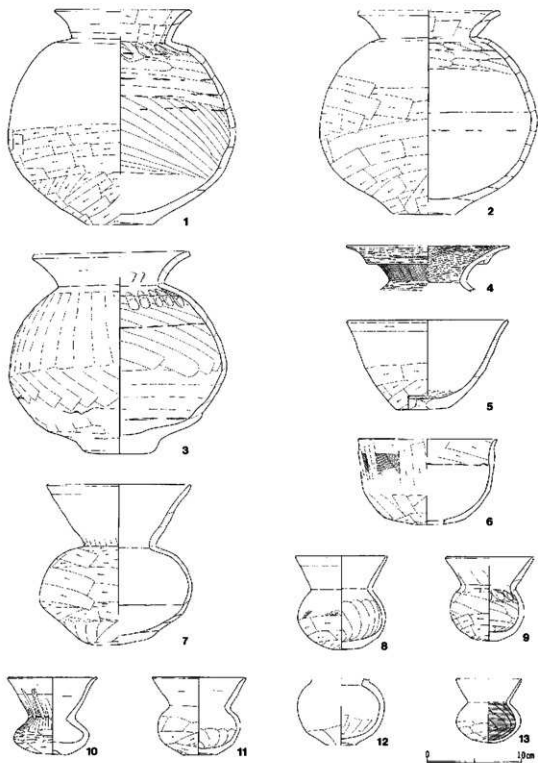
第51図 第206号住居跡
出土石製紡錘車・鉄鎌

第206号住居出土遺物観察表

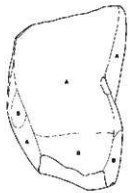
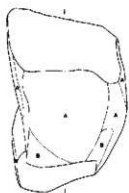
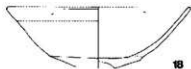
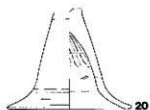
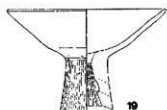
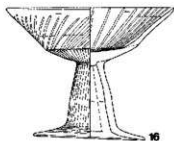
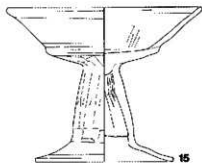
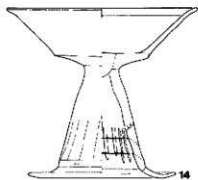
1	壺	A. 口縁部径(14.5)、底部径7.0、器高22.8。B. 輪積み。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面縦ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半指ナデ、下半ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、赤色粒。E. 良好。F. 外一茶褐色、内一暗茶褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 床直上。I. 3/4。
---	---	---



第52図 第206号住居跡



第53图 第206号住居跡出土遺物(1)



0 10cm

第54图 第206号住居跡出土遺物(2)

2	壺	A、口縁部径15.0、底部径6.5、器高21.7。B、輪積み。C、口縁部外面ナデ、内面鈍ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半指ナデ、下半ナデ。D、片岩粒、黒色粒。E、良好。F、外一粒褐色、内一暗茶褐色、肉一暗褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、ほぼ完形。
3	壺	A、口縁部径(1.6)、底部径7.7、器高21.5。B、輪積み。C、口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。胴部外面鈍ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一茶褐色。G、外面に黒斑・煤の付着あり。H、床直上。I、4/5。
4	壺	A、口縁部径17.2。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ハケの後ミガキ、内面ミガキ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。H、床直上。I、口縁部のみ。
5	小形瓶	A、口縁部径(17.0)、底部径5.5、器高9.5。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。H、床直上。I、1/2。
6	鉢	A、口縁部径14.6、器高9.1。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ハケの後ヨコナデ、一部ケズリ。胴部外面上半ハケの後ナデ、一部ケズリ、下半ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、黒色粒。E、不良。F、内外一暗茶褐色。G、底部外面に黒斑あり。H、床直上。I、4/5。
7	壺	A、口縁部径15.2、器高17.1。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、不良。F、内外一暗茶褐色。H、床直上。I、ほぼ完形。
8	小形丸底壺	A、口縁部径(9.7)、器高10.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ハケの後上半ナデ、下半ケズリ、内面指ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、不良。F、内外一暗茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、2/3。
9	小形丸底壺	A、口縁部径(9.4)、器高9.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面鈍ナデの後ケズリ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一淡褐色、内一暗褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、4/5。
10	小形丸底壺	A、口縁部径9.4、器高8.2。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ケズリの後ヨコナデ・ナデ、口縁部内面ヨコナデ。胴部外面上半ケズリの後ミガキ、下半ケズリ、内面ナデ。D、片岩粒、黒色粒。E、良好。F、内外一粒褐色。H、貯蔵穴内。I、完形。
11	小形丸底壺	A、口縁部径10.0、底部径3.5、器高8.2。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一粒褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、完形。
12	小形丸底壺	A、口縁部径7.1。B、粘土組織み上げ。C、胴部外面ケズリの後ナデ、内面鈍ナデ。D、白色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、胴部のみ。
13	小形丸底壺	口縁部径6.9、器高(6.8)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。D、黒色粒、赤色粒。E、不良。F、内外一淡褐色。G、胴部内面赤彩あり。H、覆土中。I、1/2。
14	高坏	A、口縁部径20.2、推定高(18.0)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、不良。F、内外一淡褐色、肉一黒褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、2/3。
15	高坏	A、口縁部径20.8、器高16.4。B、輪積み。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一粒褐色。H、貯蔵穴内。I、ほぼ完形。
16	高坏	A、口縁部径17.8、器高14.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデの後ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ケズリ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一粒褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、3/4。
17	高坏	A、口縁部径20.8。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一淡茶褐色。G、口縁部内面に黒斑あり。H、貯蔵穴内。I、坏部のみ。

18	高 環	A, 口縁部径19.4。B, 粘土紐積み上げ。C, 内外面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一淡茶褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, 環部のみ。
19	高 環	A, 口縁部径(16.8)。B, 粘土紐巻き上げ。C, 口縁部内外面ナデ。脚部外面削りの後ミガキ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 環部内面に斑点状剥落あり。H, 床直上。I, 1/3。
20	高 環	A, 残存高10.7。B, 粘土紐巻き上げ。C, 脚部内外面ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色、肉一淡褐色。H, 床直上。I, 脚部のみ。
21	高 環	A, 口縁部径15.0。B, 粘土紐積み上げ。C, 内外面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一明橙褐色。H, 床直上。I, 環部のみ。
22	砥 石	A, 長さ19.5、幅12.6、厚さ7.0。G, 両端部は欠損。A面は良く磨られているが、B面はやや粗い。H, 床直上。I, 3/4。
23	石 製 紡錘車	A, 直径4.6、厚さ1.0、重量31g。C, 表面は研磨の後放射状のケズリ、裏面は研磨。H, 床直上。I, 完形。
24	鉄 錐	A, 残存長4.9、幅3.5、厚さ0.2。G, 端部欠損。H, 覆土中。I, 1/3。

第207号住居跡 (第55図、図版18-2)

本住居跡は、調査区中央の南側に位置する。本住居跡の北側約3.3mには第199号住居跡が、東側約1.7mには第194号住居跡が、南側約1mには第203号住居跡が、西側約1.2mには第198号住居跡が近接しており、すぐ南側には河道跡がある。本住居跡は北側の第209号住居跡と一部重複し、それを切っている。本住居跡の遺存状態は、比較的良好である。

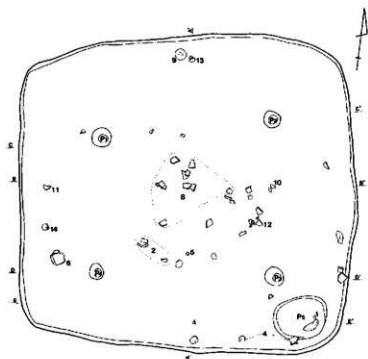
平面形は、コーナー部が丸みの強い方形を呈している。規模は、南北方向4.95m・東西方向5.33mを測る。壁高は、7cm～16cmある。主軸方位は、N-6°-Wをとる。

床面は比較的回凸が少なく、平坦につくられている。全体的に軟弱である。床面上には焼土粒子や炭化粒子の分子は見られず、明確な炉も確認できなかった。

ビットは、住居内より5箇所検出されている。P-1～4は、やや歪んだ配置を取るが、その位置から主柱穴と考えられる。深さはそれぞれ27cm・44cm・35cm・36cmある。P-5は住居の南東コーナー部にあり、その形態と位置から貯蔵穴と考えられる。平面形は不整形円形を呈し、規模は88cm×67cmを測る。深さは25cmあり、底面は平坦である。壁はほぼまっすぐに立ち上がっているが、南東側の壁は一部オーバーハングしている。貯蔵穴内からは、比較的大きな自然石と若干の土器が出土している。

本住居跡の覆土は、2層に分層できるが、住居跡が浅いため土層観察からはその堆積過程や埋没の要因を推測することはできなかった。

出土遺物は、ほぼ住居全体より土器が出土している。土器の出土状態は、壁際より出土したものが比較的良好に近い床面直上に置かれたような状態で出土しているのに対し、住居中央部のものは破片もしくは破片になっているものが多く、床面よりも若干浮いた状態で出土している。

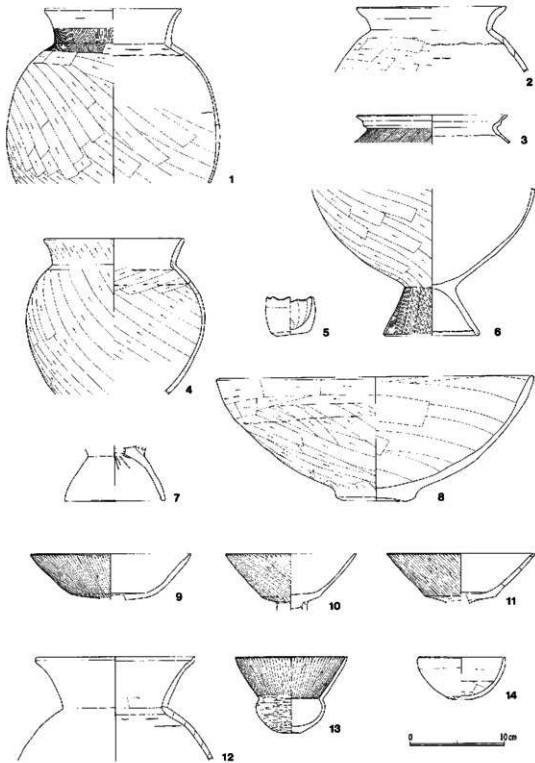


第207号住居跡土層説明

第1層：黒褐色土層（白色粒子を多量に含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第55図 第207号住居跡



第56图 第207号住居跡出土遺物

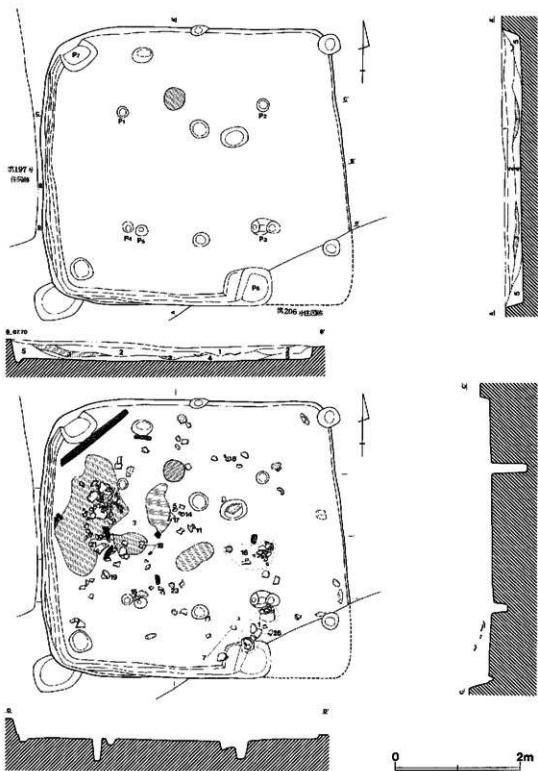
第207号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A、口縁部径14.5、残存高18.5。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一暗橙褐色、内一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、貯蔵穴内。I、1/3。
2	甕	A、口縁部径15.8。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土中。I、1/2。
3	甕	A、口縁部径(15.8)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、不良。F、内外一暗灰色。H、覆土中。I、1/4。
4	甕	A、口縁部径14.8、残存高16.5。B、粘土組織巻き上げ。C、口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。胴部外面ケズリの後下半ナデ、内面上半ケズリ、下半ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一暗褐色、内一暗橙褐色。H、貯蔵穴内。I、2/3。
5	ミニチュア	A、口縁部径5.0、底部径3.2、器高4.2。B、手ずくね。C、口縁部外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗茶褐色。G、底部外面に黒斑あり。H、床直上。I、完形。
6	台付甕	A、残存高15.6。B、粘土組織み上げ。C、胴部外面ケズリ、内面ナデ。台部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一暗茶褐色、内一橙褐色。H、覆土中。I、1/2。
7	台付甕	A、残存高5.8。B、粘土組織み上げ。C、内外面ナデ。D、片岩粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土中。I、台部のみ。
8	鉢	A、口縁部径33.6、底部径84、器高132。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリ、内面鈍ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、ほぼ完形。
9	高 環	A、口縁部径17.0。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ミガキ、内面不明。D、片岩粒、角閃石、黒色粒。E、良好。F、内外一淡橙褐色。H、床直上。I、環部のみ。
10	高 環	A、口縁部径(13.8)。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ミガキ、内面不明。D、片岩粒、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/3。
11	高 環	A、口縁部径(15.8)。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ミガキ、内面不明。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、内面に斑点状剥落あり。H、覆土中。I、1/3。
12	壺	A、口縁部径(16.8)。B、粘土組織み上げ。C、内外面ナデ。D、片岩粒。E、不良。F、内外一橙褐色、内一黒褐色。H、覆土中。I、1/4。
13	小形丸底壺	A、口縁部径11.8、底部径2.2、器高8.1。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ミガキ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、黒色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、完形。
14	環	A、口縁部径100、器高45。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面鈍ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、内外一明褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、完形。

第208号住居跡(第57図、図版19-1・2)

本住居跡は、調査区の中央やや西寄りに位置する。本住居跡の周辺には、北西側約3.6mに第201号住居跡が、北東側約4.5mに重複する第215号・216号住居跡が、西側約0.1mに第197号住居跡が、南西側約3.2mに大形の第204号住居跡が近接して存在している。本住居跡は、住居の南東コーナー部を重複する第206号住居跡によって切られているが、遺存状態は比較的良好である。

平面形は、東側壁がやや開いているが、コーナー部が丸みを帯びる方形を呈している。規模は、



第57图 第208号住居跡

第208号住居跡土層説明

- 第1層：暗黄褐色土層（鉄斑・マンガン塊・白色粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（鉄斑・マンガン塊を均一に、焼土粒子、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗赤褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：黒灰色土層（マンガン塊・炭化粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

東西方向4.60m・南北方向4.41mを測り、壁高は6cm～30cmある。主軸方位は、N-1°-Wをとる。

床面は、比較的凹凸がなくほぼ平坦につくられているが、住居中央部に比べ壁際が若干高くなっている。全体的に非常に堅緻である。床面上からは、住居北西コーナー部付近より長さ137cm・幅12cmの炭化材が検出されているが、焼土等の分布は見られなかった。その他の炭化材と住居西側の焼土はすべて覆土中から検出されたものである。

炉は、住居北側の主柱穴P-1・P-2間のやや北壁寄りに位置している。平面形は円形を呈し、規模は直径34cmを測る。掘り込みや付帯施設を伴わない単に床面が焼けているだけの地床炉であるが、非常に良く焼けて硬化している。

ピットは、住居跡内より多数検出されているが、本住居跡に伴うものはP-1～7の7箇所である。P-1～5は主柱穴で、いわゆる4本主柱穴をなす。深さは、それぞれ23cm・54cm・27cm・34cm・10cmあり、まちまちでそろっていない。南側の2本の主柱穴（P-3、P-4・5）は2本ずつ検出されており、西側壁と壁溝とのずれを考慮すると、本住居跡は立て替えられた可能性が高い。P-6は貯蔵穴と考えられ、南側壁下の中央やや東寄りに位置している。平面形はコーナー部が丸みをもつ長方形を呈し、西側にテラス状の段を有す。深さは26cmあり、底面は平坦をなす。P-7は、住居の北西コーナー部に位置し、深さは12cmある。底面は比較的広く、平坦をなしている。

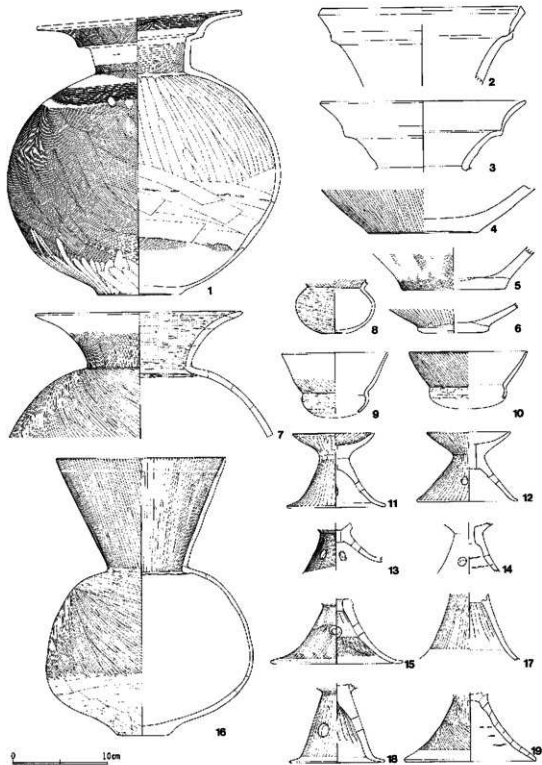
壁溝は、西側壁下から南側壁下にかけて検出されている。幅は比較的均一をなし、深さは5cm～7cmある。一部壁とずれている所がある。

本住居跡の覆土は、5層に分層でき、その埋没状態は自然的堆積を示すと考えられるが、第4層埋没後に住居西側より多量の焼土（第3層）と炭化材及び土器の投棄が見られる。

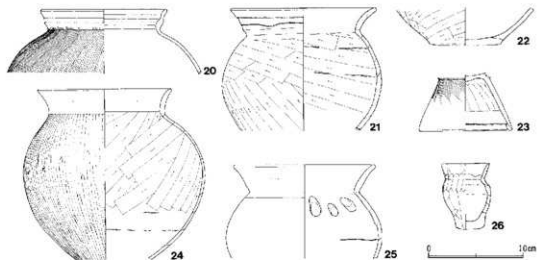
出土遺物は比較的豊富である。土器は住居のほぼ全域に分布しているが、ほとんどのものは覆土中から散乱したような状態で出土している。特に住居西側の焼土上面には、20・22・24・25の甕や12・13の器台など多量の土器片がまとまって見られる。

第208号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A、口縁部径（21.6）、底部径8.2、器高（28.5～30.0）。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ハケの後一部ナデ。胴部外面ハケの後一部ナデ、内面上半指ナデ、下半ハケの後部ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一淡褐色、内一淡橙褐色。G、外面に黒斑あり。外面上半に縞横線文（左回り）と2個1組の円形浮文（単位数不明）の文様あり。H、床直上。I、2/3。
2	壺	A、口縁部径（21.8）。B、粘土紐積み上げ。C、内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外肉一橙褐色。H、覆土中（焼土層内）。I、1/5。



第58图 第208号住居跡出土遺物(1)



第59図 第208号住居跡出土遺物(2)

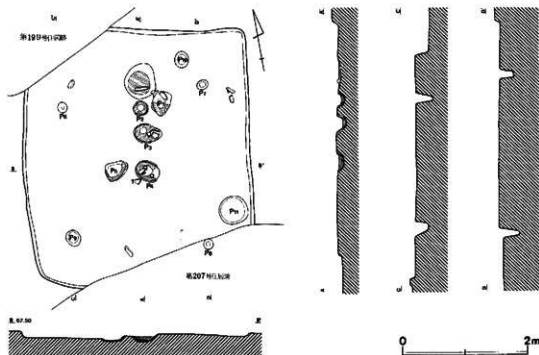
3	壺	A. 口縁部径(21.6). B. 粘土継積み上げ. C. 不明. D. 片岩粒、角閃石、赤色粒. E. 不良. F. 外一椶褐色、内一淡褐色、肉一黒灰色. H. 覆土中(焼土層内). I. 1/4.
4	壺	A. 底部径11.6. B. 粘土継積み上げ. C. 外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ. D. 片岩粒. E. 不良. F. 外一椶褐色、内一淡茶褐色、肉一淡灰褐色. G. 外面に黒斑あり. H. 覆土中(焼土層内). I. 底部のみ.
5	壺	A. 底部径10.8. B. 粘土継積み上げ. C. 外面ハケの後ナデ、内面ナデ. D. 片岩粒、角閃石. E. 不良. F. 内外一乳白色、肉一白色. G. 外面に黒斑あり. H. 覆土中. I. 2/3.
6	壺	A. 底部径7.4. B. 粘土継積み上げ. C. 外面ミガキ、内面ナデ. D. 片岩粒、角閃石、赤色粒. E. 良好. F. 外一明茶褐色、内一淡褐色. G. 外面に黒斑あり. H. 覆土中. I. 4/5.
7	壺	A. 口縁部径(21.9). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部外面ハケの後ナデ、内面ミガキ. 胴部外面ミガキ、内面ナデ. D. 片岩粒、角閃石、黒色粒. E. 不良. F. 外一淡茶褐色、内一椶褐色、肉一暗茶褐色. H. 覆土中. I. 1/4.
8	小形丸底壺	A. 口縁部径2.8. B. 粘土継積み上げ. C. 外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ. D. 片岩粒、角閃石、黒色粒. E. 良好. F. 内外肉一暗茶褐色. H. 覆土中. I. 胴部のみ.
9	小形丸底壺	A. 口縁部径(11.2). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部外面ナデ、内面不明. 胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ. D. 片岩粒、角閃石、赤色粒. E. 良好. F. 内外一茶褐色. H. 覆土中. I. 1/4.
10	小形丸底壺	A. 口縁部径(12.4). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部外面ミガキ、内面不明. 胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ. D. 片岩粒. E. 良好. F. 外一暗茶褐色、内一茶褐色. H. 覆土中. I. 1/5.
11	器台	A. 口縁部径(8.6)、器高7.9. B. 粘土継積み上げ. C. 外面・口縁部内面ミガキ、脚部内面ナデ. D. 片岩粒、角閃石、赤色粒. E. 良好. F. 内外一椶褐色. G. 外面に黒斑あり. 脚部穿孔は4孔. H. 床直上. I. 1/2.
12	器台	A. 口縁部径(8.8)、器高7.4. B. 粘土継積み上げ. C. 外面ミガキ. 脚部内面ナデ. 口縁部内面不明. D. 片岩粒、角閃石、赤色粒. E. 良好. F. 内外一椶褐色、肉一淡灰色. H. 覆土中(焼土層内). I. 1/3.
13	器台	A. 残存高5.4. B. 粘土継積み上げ. C. 外面ハケ、内面ナデ. D. 片岩粒、角閃石、赤色粒. E. 良好. F. 外一茶褐色、内一黒色、肉一淡褐色. G. 脚部穿孔は3孔. H. 覆土中(焼土層内). I. 脚部上半のみ.

14	器台	A、残存高5.3、B、粘土組織み上げ。C、外面不明、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一橙褐色、内一明褐色。G、内外面とも二次焼成を受けている。H、床直上。I、脚部上半のみ。
15	器台	A、残存高6.9。B、粘土組織み上げ。C、外面ハケの後ミガキ、内面ハケの後ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一淡茶褐色、内一淡褐色。G、脚部穿孔は4孔。H、床直上。I、1/4。
16	壺	A、口縁部径(17.8)、底部径5.6、器高29.5。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ミガキ、下半ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一明橙褐色。G、胴部外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。
17	高坏	A、残存高7.4。B、粘土組織み上げ。C、脚部外面ミガキ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D、白色粒、黒色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。H、覆土中。I、脚部のみ。
18	高坏	A、残存高8.3。B、粘土組織み上げ。C、脚部外面ミガキ、内面ナデ。脚端部内外面ナデ。D、白色粒、黒色粒。E、不良。F、内外一淡褐色、内一黒灰色。G、脚部穿孔は3孔。胎土は在地のものとは異なる。H、覆土中(焼土層内)。I、1/2。
19	高坏	A、残存高7.3。B、粘土組織み上げ。C、脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D、片岩粒、角閃石。E、不良。F、外一明橙褐色、内一黒褐色、内一淡褐色。H、床直上。I、脚部のみ。
20	甕	A、口縁部径13.4。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。H、覆土中(焼土層内)。I、口縁部のみ。
21	甕	A、口縁部径15.4、残存高13.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリの後下半ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一暗茶褐色、内一明橙褐色。G、外面に黒斑あり。二次焼成を受けている。H、覆土中。I、上半のみ。
22	甕	A、底部径7.4。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。G、二次焼成を受けている。H、覆土中(焼土層内)。I、1/2。
23	白付甕	A、残存高5.5。B、粘土組織み上げ。C、外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。H、床直上。I、1/2。
24	甕	A、口縁部径(14.2)、残存高18.1。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ミガキ(ナデ)、内面上半ケズリ、下半ナデ。D、白色粒、黒色粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色。G、外面に黒斑あり。二次焼成を受けている。H、覆土中(焼土層内)。I、1/2。
25	甕	A、口縁部径15.0、残存高9.9。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ハケの後ナデ。胴部内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一暗褐色、内一明褐色。G、二次焼成を受けている。H、覆土中(焼土層内)。I、胴部上半のみ。
26	ミニチュア	A、口縁部径5.0、底部径2.9、器高7.0。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒。E、良好。F、内外一淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、ほぼ完形。

第209号住居跡(第60図、図版20-1)

本住居跡は、調査区中央のやや南側に位置し、西側約1.5mに第198号住居跡が、東側約2.5mに第194号住居跡が近接して存在している。本住居跡の北西コーナー部と南側の一部を、それぞれ第199号住居跡・第207号住居跡に切られている。本住居跡の掘り込みは比較的浅く、遺存状態はあまり良くない。

平面形は、残存する各壁やコーナー部から推測すると、比較的整然とした長方形を呈していたものと思われる。規模は東西方向3.57m・南北方向4.12mを測る。壁高は、北東コーナー部で最低4



第60図 第209号住居跡

cm・西側壁で最高10cmある。主軸方位は、N-12°-Eをとる。

床面は、凹凸がなく全体的に平坦でほぼ水平に作られている。住居跡の中央部は比較的堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

炉は、住居北側の支柱穴P-6・P-7間に位置している。平面形は不整形を呈し、若干の掘り込みを持つ。南側に扁平で棒状の炉石を伴う。非常に良く焼けて硬化している。

ピットは、住居内より11箇所検出されている。P-6～9はやや歪んだ配置をとるが、その配置から支柱穴の可能性が高いと思われる。深さは、それぞれ26cm・22cm・32cm・21cmあり、規模は住居の大きさを反映してか、他の住居跡の支柱穴に比べて小さい。P-1～5は、住居中央部に近接して位置し、いずれもピットの壁面が良く焼けており、覆土下半には灰が溜まっていた。このうちのP-1・3・4は、ピット内より土器片が壁面に貼り付いた状態で出土している。

出土遺物は、非常に少ないが、出土したものの大半が床面直上より出土している。図示できたものは、P-4の南西側の床面直上より出土した、高坏と推測される脚部（1）だけである。



第61図 第209号住居跡
出土遺物

第209号住居跡出土遺物観察表

1	高坏	A. 残存高5.6. B. 粘土組織み上げ. C. 内外面ハケ. D. 片岩粒、角閃石. E. 良好. F. 内外一様褐色. H. 床直上. I. 脚部のみ.
---	----	---

第210号住居跡（第63図、図版20—2）

本住居跡は、調査区中央の北東側に位置し、周辺には東側約4.2mに重複する第211・212号住居跡が、南東側約4.4mに大形の第217号住居跡が、西側約5.8mに重複する第215・216号住居跡が近接して存在している。本住居跡は、北東コーナー部付近を第214号住居跡と、西側を第213号住居跡と重複しているが、それらを切っている。住居上面を後世の溝に、北西コーナー部を擾乱によって切られているが、住居跡の遺存状態は比較的良好である。

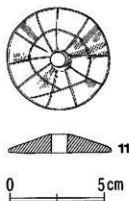
平面形は整然とした長方形を呈すが、主軸を短辺方向にとる。規模は東西方向6.45m・南北方向4.72mを測り、壁高は11cm～23cmある。主軸方位は、N-18°-Eをとる。

床面は、比較的凹凸がなくほぼ平坦に作られているが、若干西側に向かって傾斜している。全体的に堅緻である。

炉は、主柱穴P-1・P-2間のやや北壁寄りに位置している。掘り込みや付帯施設を伴わない単に床面が焼けているだけの地床炉であり、平面形は57cm×54cmの円形を呈する。非常に良く焼けて硬化している。

ビッドは、住居内より5箇所検出されている。P-1～4は主柱穴であるが、他の住居跡のものに比較して規模が小さい。深さはそれぞれ33cm・15cm・21cm・22cmある。P-5は、いわゆる貯蔵穴で、住居の南東コーナー部に位置している。平面形は楕円形を呈し、規模は96cm×76cmを測る。深さは26cmあり、底面は平坦である。貯蔵穴内からは高坏5個体と壺（9）が底面よりやや浮いて出土している。

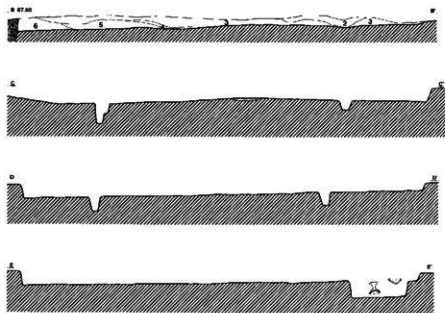
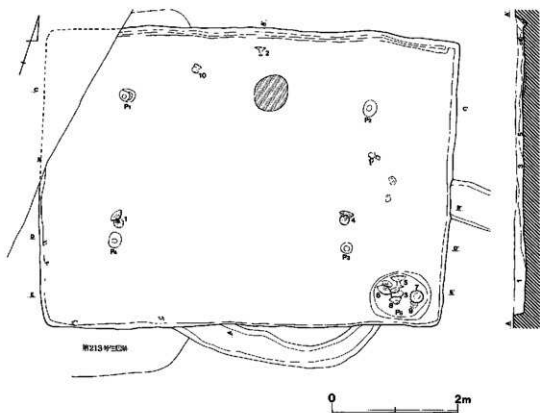
出土遺物は、土器と石製品があり、そのほとんどが完形もしくはそれに近いもので、すべて床面直上と貯蔵穴内より出土しており、その出土状態からは良好な一括資料と言える。土器は、ほとんどが高坏である。そのうち4と1は、それぞれ主柱穴P-3とP-4の北側の床面直上に同じように置かれている。類似した出土状態から、意図的な配置が窺え、主柱穴との関連が注目される。石製品は、住居の東壁寄りの床面直上より、放射状の刻線をもつ紡錘車（11）が出土している。



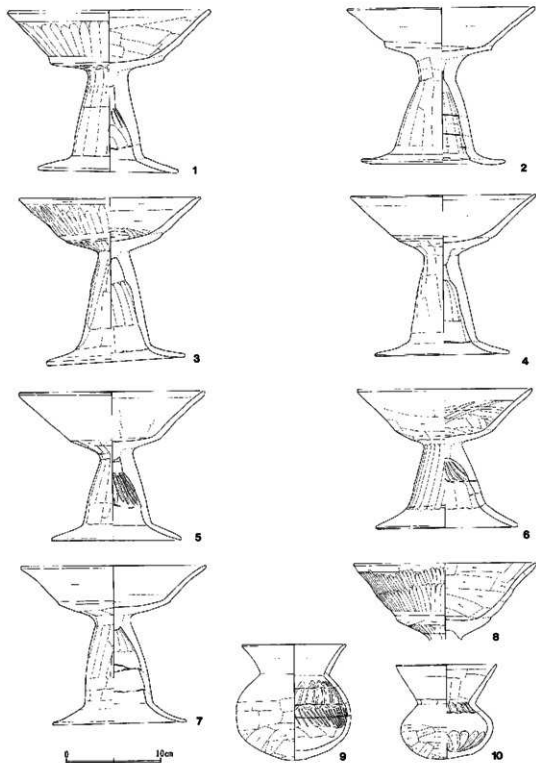
第62図 第210号住居跡
出土紡錘車

第210号住居跡土層説明

- 第1層：暗灰色土層（マンガン塊・鉄斑・白色粒子を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：黒褐色土層（マンガン塊・鉄斑・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗黄褐色土層（鉄斑を多量に、マンガン塊・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：黄褐色土層（鉄斑を多量に、焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：黒灰色土層（マンガン塊・鉄斑・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗灰色土層（マンガン塊・鉄斑・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：灰色土層（鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）



第63圖 第210号住居跡



第64图 第210号住居跡出土遺物

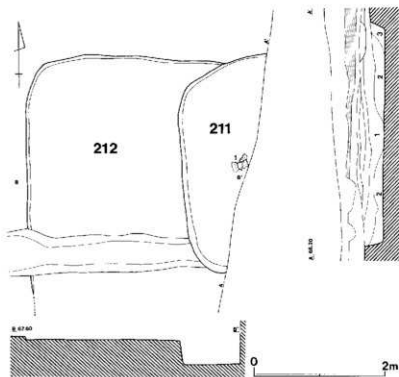
第210号住居跡出土遺物観察表

1	高 環	A. 口縁部径21.4、器高17.1。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面匏ナデ、脚部外面ケズリの後下半ナデ、内面匏ナデ。脚端部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。H. 床直上。I. ほぼ完形。
2	高 環	A. 口縁部径19.8、器高16.5。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ナデ、脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色、肉一黒色。H. 床直上。I. 4/5。
3	高 環	A. 口縁部径19.3、器高17.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 外一橙褐色、内一淡褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 貯蔵穴内。I. ほぼ完形。
4	高 環	A. 口縁部径19.6、器高16.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ、脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 内外一橙褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 床直上。I. ほぼ完形。
5	高 環	A. 口縁部径19.6、器高15.8。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 内外一橙褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 貯蔵穴内。I. 完形。
6	高 環	A. 口縁部径18.6、器高14.7。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後ミガキ。脚部内外面匏ナデ。脚端部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 外一茶褐色、内一橙褐色。H. 貯蔵穴内。I. 完形。
7	高 環	A. 口縁部径19.6、器高16.8。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ナデ、脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。H. 貯蔵穴内。I. ほぼ完形。
8	高 環	A. 口縁部径19.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ケズリの後ナデ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒。E. 良好。F. 内外一暗橙褐色。H. 貯蔵穴内。I. 2/3。
9	壺	A. 口縁部径(11.0)、器高12.2。B. 輪積み。C. 口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 外一暗橙褐色、内一淡褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 貯蔵穴内。I. 2/3。
10	小形 丸底壺	A. 口縁部径10.6、器高9.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ、内面匏ナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 床直上。I. ほぼ完形。
11	石製 紡錘車	A. 直径5.4、厚さ1.0、重量29g。C. 表面研磨の後放射状のケズリ、裏面研磨。G. 表面には放射状と同心円状の線刻あり。H. 床直上。I. 完形。

第211号住居跡(第65図、図版21-1)

本住居跡は、調査区中央の北東端に位置し、重複する第212号住居跡を切っている。周辺には、本住居跡の東側約3.4mに第214号住居跡が、南側約3.2mに大形の第217号住居跡が、近接して存在している。本住居跡の遺存状態は非常に良好である。

本住居跡は、住居の東側が調査区外であるため、その全容は不明である。平面形は検出した住居の壁とコーナー部より、コーナー部の丸みが強い方形もしくは長方形を呈すと考えられる。規模は南東方向3.17m・東西方向は1.04mまで測れる。壁高は、19cm～37cmある。主軸方位は、N-11°-Eをとる。



第65図 第211・212号住居跡

第211号住居跡土層説明

第1層：黒灰色土層（マンガン塊を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗黄灰色土層（鉄斑・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗黄褐色土層（鉄斑を多量に、マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

床面は、比較的凹凸がなくほぼ平坦につくられているが、若干南側に向かって低くなっている。全体的に堅緻である。

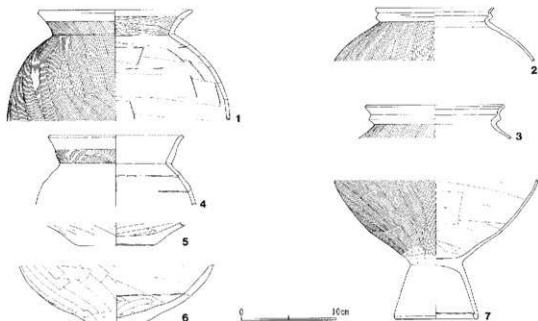
炉やピット等の住居施設は、調査区内でまったく検出されなかった。

本住居跡の覆土は、3層に分層でき、その埋没状態は住居の四方からの流入による自然的堆積を示すと考えられる。

出土遺物は、すべて土器である。土器は、その多くが住居の覆土中より出土しているが、1の胴部下半を欠く甕だけは、住居中央部の床面直上より出土している。

第211号住居跡出土遺物

1	甕	A. 口縁径16.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後上半ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 良好。F. 外一暗褐色、内一橙褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 床直上。I. 胴部上半のみ。
2	甕	A. 口縁径 (12.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 片岩粒。E. 良好。F. 外一暗茶褐色、内一淡褐色。H. 覆土中。I. 1/4。
3	甕	A. 口縁径 (14.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 片岩粒。E. 良好。F. 内外一白褐色。H. 覆土中。I. 1/4。
4	甕	A. 口縁径 (14.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ナデ。胴部内外面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 外一橙褐色、内一暗橙褐色。G. 二次焼成を受けている。H. 覆土中。I. 1/4。
5	壺	A. 底部径7.8。B. 粘土組織み上げ。C. 外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒。E. 良好。F. 外一淡褐色、内一暗橙褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。I. 1/2。



第66図 第211号住居跡出土遺物

6	壺	A, 底部径6.2。B, 粘土組織み上げ。C, 外面ケズリの後ナデ、内面上半笠ナデ、下半指ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一暗褐色。H, 覆土中。
7	台付甕	A, 底部径14.7。B, 粘土組織み上げ。C, 胴部外面ケズリの後ハケ、内面笠ナデ。台部外面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗褐色。H, 覆土中。I, 1/4。

第212号住居跡 (第65図、図版21-1)

本住居跡は、調査区中央の北東端に位置する。住居跡の東側を重複する前述の第211号住居跡に、南側を後世の溝に切られている。遺構の遺存状態は極めて悪く、住居跡の上半及び南側はすでに削平されている。

平面形は、残存する壁やコーナー部から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形もしくは長方形を呈するものと考えられる。規模は、南北方向は3.57mまで、東西方向は2.36mまで測れる。壁高は、最高で7cmある。主軸方位は、ほぼN-5°-Eをとるとと思われる。

床面は、ほとんど凹凸がなく平坦で、ほぼ水平に作られている。全体的に堅緻である。住居跡の残存部内からは、伊やビット等の住居内施設は何も検出されていない。

遺物は、何も出土しなかった。

第213号住居跡（第67図、図版21-2）

本住居跡は、調査区中央の北東側に位置し、周辺には北東側約3mに第214号住居跡が、南東側約5.4mに大形の第217号住居跡が、西側約2mに第215号住居跡が近接して存在する。本住居跡は、住居東側上面を重複する第210号住居跡に、中央を擾乱によって切られているが、遺存状態は比較的良好である。

平面形は、コーナー部の丸みの強い比較的整然とした方形を呈している。規模は、南北方向5.92m・東西方向6.06を測る。壁高は、5cm～30cmある。主軸方位はN-12°-Wをとる。

床面はあまり凹凸がなく、ほぼ平坦に作られているが、若干西側に向かって低く傾斜している。全体的にやや軟弱である。

炉は、検出されなかったが、おそらく住居中央部の擾乱によって切られている部分に存在したもののと思われる。

ピットは、住居内より6箇所検出されている。P-1～3は、その位置や配置から4本主柱穴の一部と考えられるもので、残りの一箇所は擾乱内にあったものと推測される。深さは、それぞれ32cm・73cm・70cmあり、東側の2箇所が非常に深くなっている。P-4は、南壁際にあり、60cm×50cmの不整円形を呈している。深さは30cmあり、底面は平坦である。P-5は、住居の南東コーナー部に位置し、貯蔵穴と考えられる。平面形は、115cm×86cmの楕円形に近い形を呈しているが、西側が円形状に一段深くなっている。深さは、東側のテラス部が5cm・西側が44cmあり、底面は平坦である。貯蔵穴内からは、底面に密着して壺の胴上半（4）が出土している。P-6は、住居の北東コーナー部に位置し、中に小ピットを伴っている。深さは16cmある。

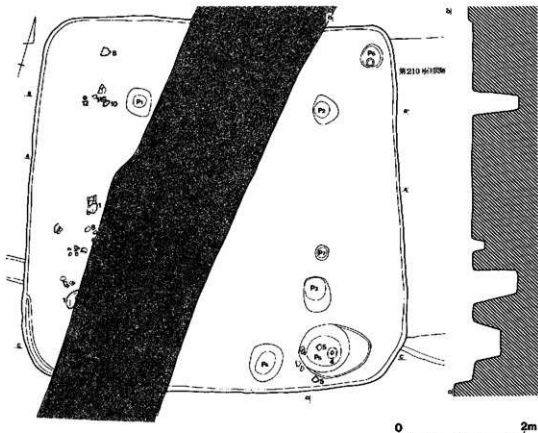
壁溝は、住居の南西コーナー部の壁下より検出されている。幅は比較的均一で、深さは3cm～8cmある。

本住居跡の覆土は、5層に分層できる。住居跡の土層観察では、その埋没状態はほぼ自然的堆積を示すと思われるが、第3層の黒灰色土は層厚が比較的均一をなし、焼土粒子と炭化粒子を多量に含んでおり、他の層とはやや趣を異にしている。住居西側の第3層上面には土器が投棄されており、その人為的行為との関係が注目される土層である。

出土遺物は、すべて土器である。P-5の貯蔵穴周辺から検出された土器は、すべて床面直上から出土しているが、住居の西側から検出された土器は、すべて覆土中からの出土で、覆土第3層堆積後に住居内に投棄されたものである。

第213号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A、口縁部径(30.0)、底部径7.2、器高24.6。B、粘土紐積み上げ。C、外面ハケの後一部ナデ、内面ハケ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。F、良好。F、内外-淡橙褐色・肉-黒褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、1/2。
2	甕	A、口縁部径(19.8)。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、不良。F、内外-暗褐色。H、覆土中。I、1/4。
3	甕	A、口縁部径(18.8)。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D、白色粒。E、良好。F、内外-暗褐色。H、覆土中。I、1/4。



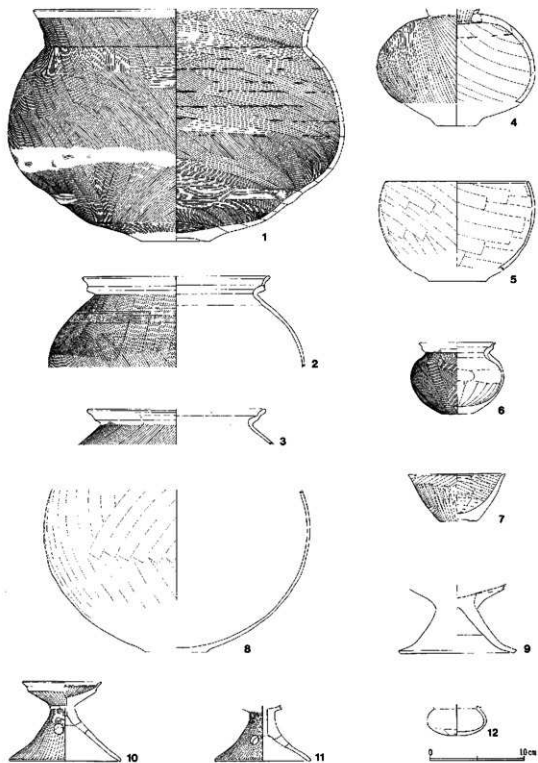
0 2m

第213号住居跡土層説明

- A 第1層：黒茶褐色土層（マンガン塊を多量に、白色粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗黄褐色土層（白色粒子・マンガン塊・鉄塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：黒灰色土層（焼土粒子・炭化粒子を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗灰色土層（マンガン塊を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：灰色土層（マンガン塊を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第67図 第213号住居跡



第68图 第213号住居跡出土遺物

4	壺	A, 残存高10.0, B, 輪積み。C, 外面ミガキ、内面篋ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 外一茶褐色、内一暗茶褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 貯蔵穴内。I, 胴部のみ。
5	鉢	A, 口縁部径(15.0)。B, 粘土組織み上げ。C, 内外面篋ナデ。D, 白色粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一茶褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上・貯蔵穴内。I, 1/4。
6	鉢	A, 口縁部径(8.0)。底部径3.3、器高7.6。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面指ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 外一橙褐色、内一淡灰褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土中。I, 脚部のみ。
7	鉢	A, 口縁部径(10.2)、残存高3.8、器高5.0。B, 粘土組織み上げ。C, 外面ミガキ、内面篋ナデの後ミガキ。D, 片岩粒、角閃石、黒色粒。E, 良好。F, 内外一淡橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土中。I, 1/3。
8	壺	A, 底部径6.6、残存高17.2。B, 粘土組織み上げ。C, 外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、赤色粒。E, 良好。F, 外一橙褐色、内一灰色。H, 覆土中。I, 3/4。
9	高 坏	A, 残存高7.3。B, 粘土組織み上げ。C, 内外面ナデ。D, 片岩粒、赤色粒。E, 不良。F, 内外一淡橙褐色。H, 覆土中。I, 脚部のみ。
10	器 台	A, 口縁部径(8.4)、器高11.9。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。器受部・脚部外面ハケの後ミガキ、器受部内面ミガキ、脚部内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、黒色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 脚部穿孔は3孔。H, 覆土中。I, 3/4。
11	器 台	A, 残存高5.9。B, 粘土組織み上げ。C, 外面ミガキの後上部ヨコナデ、内面ナデ。D, 片岩粒。E, 良好。F, 内外一茶褐色。G, 脚部穿孔は3孔。H, 覆土中。I, 1/3。
12	小 形 丸底壺	A, 残存高3.2。B, 粘土組織み上げ。C, 外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 外一淡茶褐色、内一淡褐色。H, 覆土中。I, 胴部のみ。

第214号住居跡(第69~70図、図版22-1)

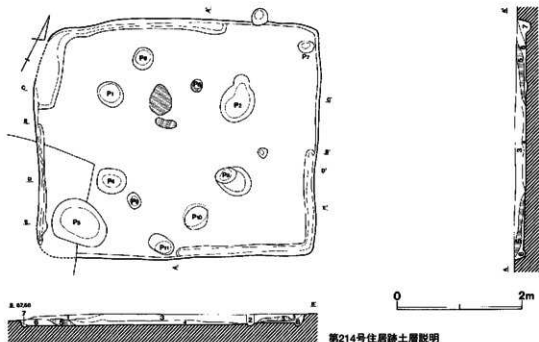
本住居跡は、調査区中央の北東側に位置し、周辺には東側約1.3mに重複する第211・212号住居跡が、南西側約3mに第213号住居跡が、南東側約6.3mに大形の第217号住居跡が近接している。本住居跡は、南側コーナー部を重複する第210号住居跡に、西側コーナー部を擾乱によってそれぞれ切られているが、遺存状態は比較的良好である。

平面形は、整然とした長方形を呈している。規模は、南西～北東方向4.45m・北西～南東方向3.78mを測る。壁高は、11cm～16cmある。主軸方位はN-28°-Wをとる。

床面は、あまり凹凸がなくほぼ平坦に作られている。主柱穴P-1～4に囲まれた住居中央部は非常に堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

炉は住居中央やや北西寄りの主柱穴P-1・P-2間に位置している。付帯施設や掘り込みを伴わない、単に床面が焼けているだけの地床炉で、非常に良く焼け硬化している。50cm×35cmの楕円形に近い形態をしているが、すぐ南東側にも一部床面が焼けている箇所がある。

ビツは、住居内より12箇所検出されているが、本住居跡に伴うものはP-1～11の11箇所である。P-1～4は主柱穴で、規模は直径40cm～58cmと比較的大きい。深さはそれぞれ33cm・40cm・47cm・55cmある。P-5は貯蔵穴で、住居南側コーナー部に位置し、90cm×70cmの楕円形に近い形態を呈している。深さは36cmあり、底面は平坦である。P-6は、住居の北壁寄りに位置し、深さ



第214号住居跡土層説明

- 第1層：暗灰色土層（A軽石を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗灰色土層（白色粒子・マンガン塊を微量含む、しまりを有する。）
- 第3層：暗黄灰色土層（白色粒子を多量に、鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：黒灰色土層（焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗赤褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗黄褐色土層（マンガン塊・鉄斑を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：暗灰色土層（マンガン塊を多量に、白色粒子・鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

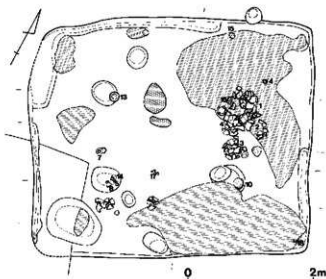
第69図 第214号住居跡

は9cmある。P-7は、北側コーナー部に位置し、深さは19cmある。P-8は、炉の北東側に位置している。規模は20cm×17cmと比較的小さく、深さは3cmと浅い。ピットの南側壁面は非常に良く焼けている。P-9は、支柱穴P-4の西側に位置し、深さは9cmある。P-10は、南東壁寄りに位置し、深さは32cmある。ピットの北西側壁は若干オーバーハングしている。P-11は、南東壁際の中央に位置し、深さは42cmある。その位置と壁溝がピットの手前で途切れていることより、住居

の入口施設と関係するものかもしれない。

壁溝は、住居の各壁下より検出されているが、北側及び南側コーナー部と南西壁中央部で途切れている。幅は比較的均一であるが、南西壁下南側がやや狭くなっている。深さは、3cm～16cmある。

本住居跡の覆土は、7層に分層できるが、第1層は天明3（1783）年以降の浅間山系A軽石を含んでいる。埋没状態は、ほぼ自然的堆積を示すと思われるが、覆土中には第6層堆積後に多量の焼土（第5層）の投棄



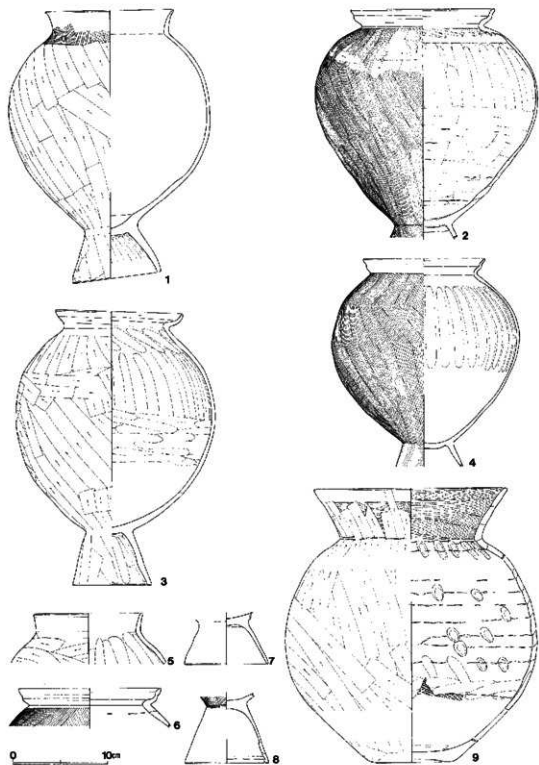
第70図 第214号住居跡遺物出土状態

が見られる。この焼土は、住居跡の各壁際に見られるが、量的には住居の東側に多い。また第5層の焼土上面から第4層の上面には、比較的多くの土器が投棄されており、他の住居跡でも多く認められるように、住居の埋没過程での土器の投棄行為と覆土中の焼土との有機的関係が窺える。

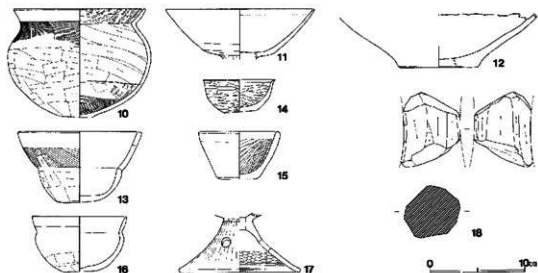
出土遺物は、土器（1～17）と砥石（18）がある。土器は、前述したように、すべて覆土第4層及び第5層の焼土上面に一括投棄されたものである。砥石は、出土遺物の中で唯一本住居跡に伴うもので、東側コーナー部の床面直上から出土している。

第214号住居跡出土遺物観察表

1	台付甕	A、口縁部径13.5、器高27.3～28.9。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ハケの後ケズリ、内面ナデ。台部外面髷ナデ、内面ナデ。D、片岩粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、器表面は二次焼成を受けている。H、覆土中。I、3/4。
2	台付甕	A、口縁部径（15.2）、残存高24.4。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面上半指ナデ、下半髷ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一黄褐色。H、覆土中。I、3/4。
3	台付甕	A、口縁部径13.5、器高29.0。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、ほぼ完形。
4	台付甕	A、口縁部径13.0、残存高22.0。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面上半指ナデ、下半ナデ。台部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、不良。F、内外一白褐色。H、覆土中。I、3/4。
5	甕	A、口縁部径（11.6）。B、粘土紐巻き上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一明橙褐色。H、覆土中。I、1/4。
6	甕	A、口縁部径（15.0）。B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D、片岩粒、赤色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。H、覆土中。I、1/3。
7	台付甕	A、残存高5.5。B、粘土紐積み上げ。C、不明。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一明橙褐色。H、覆土中。I、台部のみ。



第71图 第214号住居跡出土遺物(1)



第72図 第214号住居跡出土遺物(2)

8	白付甕	A, 残存高7.4, B, 粘土紐積み上げ。C, 台部外面ハケの後ナデ, 内面ナデ。D, 片岩粒。E, 良好。F, 内外一明橙褐色。H, 覆土中。I, 1/2。
9	甕	A, 口縁部径(20.4), 底部径(9.0), 推定高(29.0)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部外面ハケの後ケズリ, 内面ハケ。胴部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ。D, 片岩粒, 赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 覆土中。I, 1/3。
10	鉢	A, 口縁部径14.0, 底部径3.3, 器高11.5。B, 粘土紐巻き上げ。C, 口縁部内外面ハケの後ナデ。胴部外面ハケの後上半ナデ, 下半ケズリ, 内面ハケの後尾ナデ。D, 片岩粒, 角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 覆土中。I, 2/3。
11	高 环	A, 口縁部径15.7。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ナデ。坏部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ。D, 片岩粒, 角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 覆土中。I, 坏部のみ。
12	壺	A, 底部径(8.2)。B, 粘土紐積み上げ。C, 内外面ナデ。D, 片岩粒, 角閃石, 黑色粒, 赤色粒。E, 不良。F, 外一橙褐色, 内一淡褐色, 内一灰褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土中。I, 1/3。
13	小形丸底壺	A, 口縁部径13.0, 底部径4.5, 器高7.5。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部外面ハケの後一部ナデ, 内面ナデ。胴部外面ハケの後尾ナデ, 内面ナデ。D, 片岩粒, 角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 床直上。I, ほぼ完形。
14	环	A, 口縁部径7.6, 底部径3.3, 器高3.5。B, 不明。C, 内外面ミガキ。D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗茶褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 床直上。I, 完形。
15	环	A, 口縁部径8.6, 底部径3.2, 器高5.1。B, 粘土紐積み上げ。C, 外面ナデ, 内面ミガキ。D, 片岩粒, 角閃石, 黑色粒。E, 良好。F, 外一淡褐色, 内一橙褐色。H, 床直上。I, 完形。
16	环	A, 口縁部径(10.0), 底部径3.4, 器高5.8。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ナデ。胴部外面上半ナデ, 下半ケズリの後ナデ, 内面ナデ。D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒。E, 良好。F, 内外一淡褐色。H, 覆土中。I, 1/2。
17	器 台	A, 残存高6.2。B, 粘土紐積み上げ。C, 外面ナデの後ミガキ, 内面ハケの後ナデ。D, 片岩粒, 角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土中。I, 脚部のみ。
18	砥 石	A, 残存長7.9, 幅5.9。D, 凝灰岩。G, 上下両端は欠失。面は11面あり, すべて上下方向の擦痕をもつ。H, 床直上。I, 1/3。

第215号住居跡（第73図、図版23-1）

本住居は、調査区中央の北寄りに位置し、東側約2mに第213号住居跡が、南西側約4.5mに第208号住居跡が近接して存在している。本住居跡は、重複する第216号住居跡を切っている。住居内に多数のピットによって切られているが、遺存状態は比較的良好である。

平面形は、整然とした方形を呈している。規模は、南北方向5.66m・東西方向5.63mを測る。壁高は、6cm～28cmある。主軸方位は、N-19°-Wをとる。

床面は、あまり凹凸がなくほぼ平坦につくられているが、南側は若干低く傾斜している。主柱穴P-1～4に囲まれた住居中央部は比較的堅緻であるが、周辺部はやや軟弱である。

炉は住居中央部の北寄りに位置し、東側の一部をピットによって切られている。平面形は不整系を呈し、規模は55cm×30cmを測る。掘り込みや付帯施設を伴わない、単に床が焼けているだけの地床炉で、非常に良く焼けて硬化している。

ピットは、住居跡内より多数検出されているが、本住居跡に確実に伴うものはP-1～5の5箇所である。P-1～4は、その位置と配置から主柱穴と考えられるものである。深さはそれぞれ35cm・31cm・27cm・53cmあり、P-4はその西側に深さ26cmのテラス状の段を有する。P-2・P-3は柱穴上面よりそれぞれ甕（6・2）が、P-4はテラス部内より小形丸底壺（20）が出土している。P-5は、住居の南西コーナー部に位置し、その形態より貯蔵穴と考えられる。100cm×93cmの不整形を呈し、北西側に深さ17cmのテラス状の段を有する。深さは34cmあり、底面は平坦である。貯蔵穴内からは、覆土中より完形の壺（1）・壺の口縁部（7）・高坏の坏部（33）が出土している。

壁溝は、住居の各壁下には見られないが、南側壁際で壁に平行する溝が検出されている。この溝は、幅43cm～50cm・深さ15cmを測り、底面は広く平坦であり、一般的な壁溝とはやや形態を異にしている。

本住居跡の覆土は、6層に分層できる。このうち、住居中央部に見られる黒色土の覆土第2層は、他の土層とは明確な不連続層をなしている。土層観察では第3・4層を切っているようにも見えるが、住居の床面を切り込んではいない。本住居跡は床面直上より比較的多くの土器が出土しているが、第2層が被覆する住居中央部からはまったく土器が出土しておらず、この第2層の形成には人為的要因の可能性が強く窺える。

出土遺物には、土器（1～36）・土製紡錘車（37）・石製模造品（38・39）がある。土器は、完形もしくはそれに近いものが床面直上より多く出土しており、出土状態から良好一括資料といえる。土製紡錘車と石製模造品は、いずれも住居の覆土中より出土している。

第215号住居跡土層説明

第1層：暗灰色土層（白色粒子を多量に、マンガンド・鉄斑を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

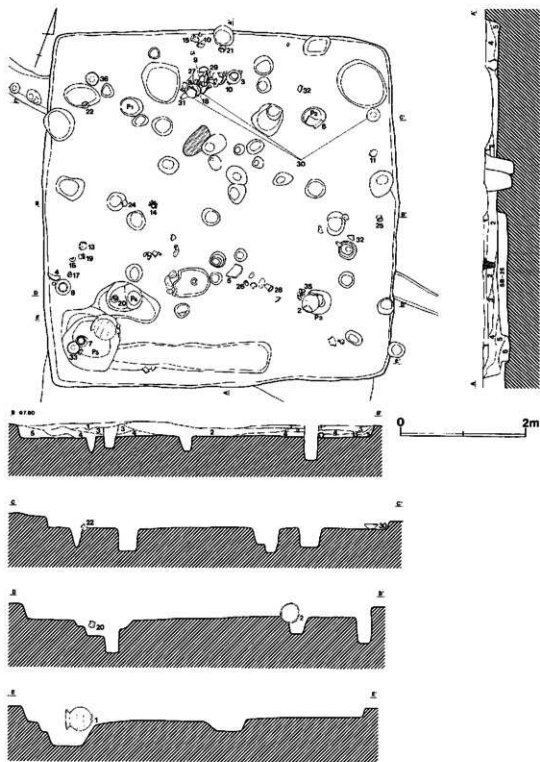
第2層：黒色土層（白色粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

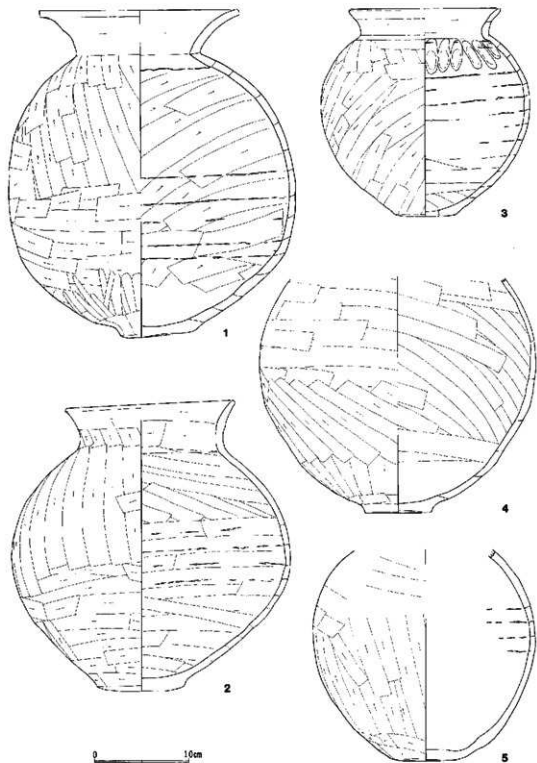
第4層：暗灰色土層（白色粒子・マンガンド・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に、マンガンド・鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

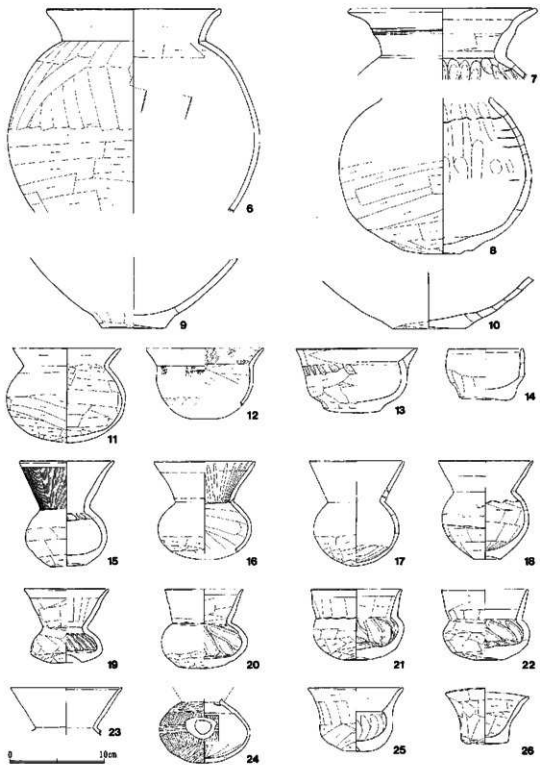
第6層：暗灰色土層（マンガンド・鉄斑・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



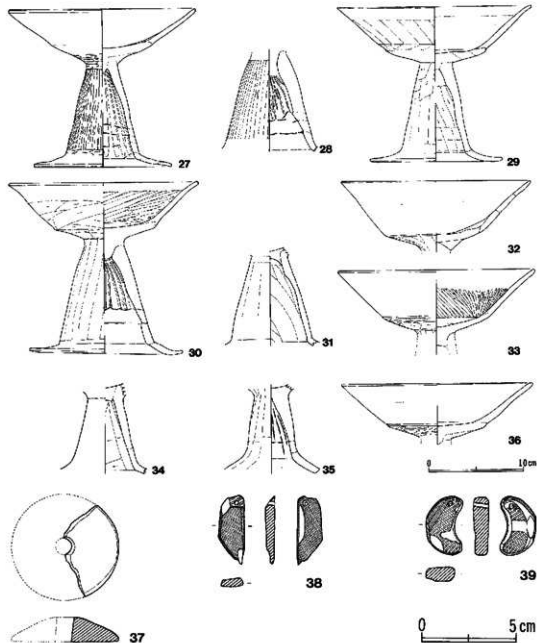
第73図 第215号住居跡



第74图 第215号住居跡出土遺物(1)



第75图 第215号住居跡出土遺物(2)



第76図 第215号住居跡出土遺物(3)

第215号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径21.0、底部径8.0、器高34.7。B. 輪積み。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後一部ナデ、内面ナデの後ケズリ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 内外一様褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 貯蔵穴上面。I. ほぼ完形。
2	壺	A. 口縁部径(18.0)、底部径9.2、器高30.8。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面寛ナデ。胴部外面ケズリの後一部ナデ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 外一様褐色、内一暗褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 床直上。I. ほぼ完形。

3	甕	A、口縁部径(15.9)、底部径(6.4)、器高22.0。B、輪積み。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後一部ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一暗茶褐色、内一茶褐色。H、床直上。I、1/2。
4	甕	A、底部径7.0、残存高24.8。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後一部ナデ、内面笠ナデ。D、片岩粒・角閃石。E、良好。F、内外一淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/4。
5	甕	A、底部径6.6、残存径22.4。B、粘土組織み上げ。C、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒・角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、3/4。
6	甕	A、口縁部径18.4、残存高21.5。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後一部ケズリ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒。E、不良。F、内外内一淡褐色。H、覆土中。I、1/3。
7	壺	A、口縁部径20.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面軟質刷毛状工具によるヨコナデの後ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、貯蔵穴内。I、口縁部のみ。
8	壺	A、底部径3.8、残存高16.5。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒。E、不良。F、内外一暗茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/2。
9	壺	A、底部径6.8。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一暗茶褐色、内一茶褐色。H、覆土中。I、1/2。
10	鉢	A、底部径7.7。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一橙褐色、内一灰色。H、覆土。I、1/3。
11	鉢	A、口縁部径(11.4)、器高10.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ナデ、下半ケズリ、内面笠ナデ後上半ケズリ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一暗褐色、内一淡褐色。H、覆土中。I、1/2。
12	鉢	A、口縁部径12.4、残存高6.2。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後ナデ、内面上半ケズリ、下半ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色。H、覆土中。I、1/2。
13	鉢	A、口縁部径12.8、底部径6.3、器高6.8。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面笠ナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D、片岩粒。E、不良。F、内外一淡褐色。H、覆土中。I、2/3。
14	坏	A、口縁部径7.9、底部径5.5、器高5.4。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ナデ、下半笠ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、床直上。I、ほぼ完形。
15	小形丸底壺	A、口縁部径10.0、底部径3.6、器高11.1。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ハケ、内面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、完形。
16	小形丸底壺	A、口縁部径10.5、残存高9.5。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ナデ、内面ナデの後ミガキ、胴部外面上半ナデ、下半ケズリ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、2/3。
17	小形丸底壺	A、口縁部径(10.0)、推定高(10.1)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一暗褐色、内一暗褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土中。I、1/2。
18	小形丸底壺	A、口縁部径10.0、底部径2.7、器高10.4。B、輪積み。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面笠ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、ほぼ完形。
19	小形丸底壺	A、口縁部径9.0、底部径3.2、器高7.9。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面笠ナデ。胴部外面上半笠ナデ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗褐色。H、床直上。I、完形。

20	小形丸底壺	A、口縁径8.2、底部径1.6、器高8.4。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ナデ、内面笠ナデ。胴部外面上半ナデ、下半ケズリ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、完形。
21	小形丸底壺	A、口縁径9.6、底部径2.8、器高7.5。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面笠ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、床直上。I、完形。
22	小形丸底壺	A、口縁径9.2、底部径3.1、器高7.5。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、完形。
23	小形丸底壺	A、口縁部(11.8)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。D、片岩粒、黒色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、1/2。
24	甕	A、残存高6.7。B、粘土組織み上げ。C、胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、黒色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、胴部穿孔は焼成後。H、覆土中。I、胴部のみ。
25	坏	A、口縁径10.0、器高6.7。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面笠ナデの後ケズリ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、不良。F、外一暗橙褐色、内一淡褐色。H、床直上。I、3/4。
26	坏	A、口縁径(8.9)、底部径4.9、器高5.0~5.9。B、粘土組織み上げ。C、外面笠ナデ、内面ケズリ。底部外面ケズリ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。H、床直上。I、2/3。
27	高坏	A、口縁径(19.7)、器高16.7。B、輪積み。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。脚端部内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、床直上。I、1/3。
28	高坏	A、残存高10.6。B、輪積み。C、外面ミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。H、床直上。I、脚部のみ。
29	高坏	A、口縁径20.4、器高16.4。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部外面ケズリの後ナデ、内面笠ナデ。脚端部内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、不良。F、内外一淡褐色、肉一淡灰褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、3/4。
30	高坏	A、口縁径20.0、器高18.3。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ナデの後ケズリ、内面ミガキ。脚端部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、2/3。
31	高坏	A、残存高10.5。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面笠ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一淡橙褐色、内一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、脚部のみ。
32	高坏	A、口縁径20.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ、坏部外面ケズリの後ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、床直上。I、2/3。
33	高坏	A、口縁径20.8~21.6。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ナデ、内面ナデの後ミガキ。坏部外面ケズリの後ミガキ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色、肉一灰褐色。H、貯蔵穴内。I、坏部のみ。
34	高坏	A、残存高9.7。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、脚部のみ。
35	高坏	A、残存高9.4。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土中。I、脚部のみ。
36	高坏	A、口縁径20.2。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ、坏部外面ミガキ。D、片岩粒、赤色粒。E、良好。F、外一茶褐色、内一淡橙褐色。H、床直上。I、坏部のみ。
37	土製紡錘車	A、直径(5.6)、高さ1.3、重量(14.1g)。C、外面ナデ。D、片岩粒。E、良好。F、内外一淡橙褐色。H、覆土中。I、1/3。

38	石製模造品 (銅形品)	A、全長3.6、幅1.2、厚さ0.5、重量3.9g。C、表裏面一定方向の研磨。D、滑石。G、表裏面に一部剥落あり。H、覆土中。I、完形。
39	勾玉	A、全長3.1、幅1.5、厚さ0.8、重量8.4g。C、表裏面とも研磨。D、滑石。G、表裏面に一部剥落あり。H、覆土中。I、完形。

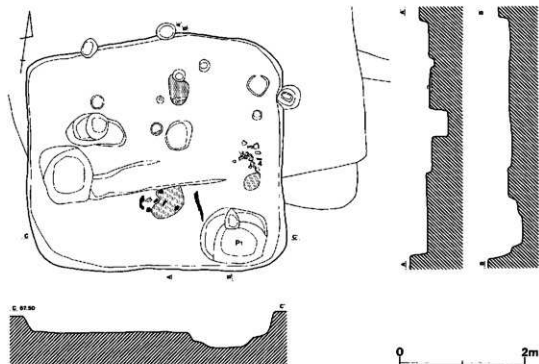
第216号住居跡 (第77図、図版23-2)

本住居跡は、調査区中央の北寄りに位置し、東側約3.2mに第213号住居跡が、西側約4.6mには第208号住居跡が、南西側約4.2mに第206号住居跡が近接している。住居の北側半分を重複する第215号住居跡に切られており、遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、北側壁がやや張っているが、コーナー部の丸み強い方形を呈している。規模は南北方向3.68m・東西方向4.02mを測り、壁高は12cm～38cmある。主軸方位は、N-10°-Wをとる。

床面は、あまり凹凸がなくほぼ平坦に作られているが、南側が若干低くなっている。住居中央部は比較的堅致であるが、周辺部はやや軟弱である。床面上からは、中央部南側より炭化材が検出されているが、焼土は床面より若干浮いている。

炉は、住居中央北寄りに位置し、北側の一部をビットによって切られている。掘り込みを伴わない単に床面が焼けているだけの地床炉である。平面形は50cm×31cmの不整形を呈し、炉の南側に

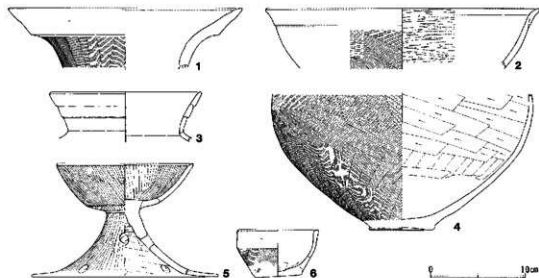


第77図 第216号住居跡

は棒状の炉石を伴う。非常によく焼けて、硬化している。

ピットは、住居内より多数検出されているが、確実に本住居跡に伴うと考えられるものは、南東コーナー部に位置するP-1の貯蔵穴である。平面形はコーナー部の丸みが強い長方形に近い形態を呈しており、規模は86cm×103cmを測る。深さは22cmあり、底面は平坦である。北から西側にかけて深さ15cmのテラス状の段を有する。

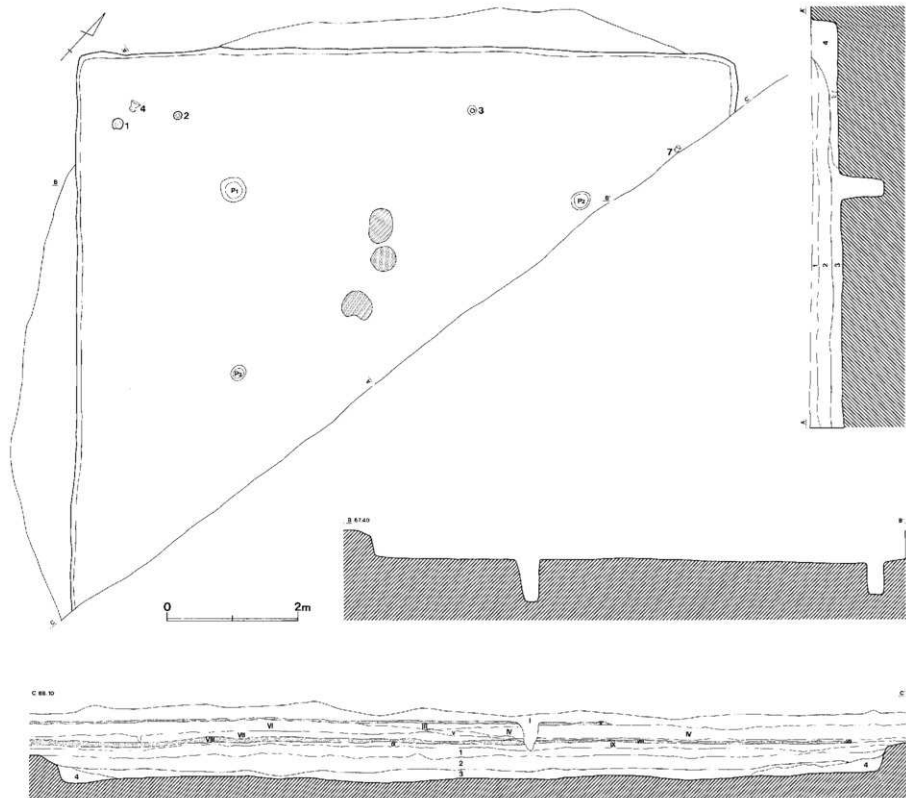
出土遺物は、比較的少なく、ほとんどが覆土中からの出土である。



第78図 第216号住居跡出土遺物

216号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径 (24.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。頸部外面ハケ、内面ミガキ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色、肉一淡褐色。G. 内面に一部剥落あり。H. 覆土中。I. 1/6。
2	鉢	A. 口縁部径 (28.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ナデ、内面ミガキ。胴部外面ハケ、内面ミガキ。D. 片岩粒、黒色粒。E. 良好。F. 内外一橙褐色。H. 覆土中。I. 1/8。
3	甕	A. 口縁部径 (16.0)。B. 粘土組織み上げ (口縁部は輪積み)。C. 不明。D. 片岩粒。E. 良好。F. 内外一淡橙褐色。G. 蓋面は二次焼成を受け荒れている。H. 覆土中。I. 1/6。
4	壺	A. 底部径6.8、残存高14.3。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ハケの後ナデ、内面ナデの後ケズリ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 外一淡橙白色、内一黒灰色、肉一淡褐色。H. 覆土中。I. 1/3。
5	高 杯	A. 口縁部径12.4、残存高11.7。B. 粘土組織み上げ。C. 外面ミガキ。口縁部内外面ミガキ、胴部内面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 良好。F. 内外肉一淡褐色。G. 口縁部内面に斑点状剥落あり。H. 覆土中。I. 2/3。
6	杯	A. 口縁部8.6、底部径4.8、器高5.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後一部ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒。E. 良好。F. 外一橙褐色、内一淡褐色。H. 覆土中。I. ほぼ完形。



第79图 第217号住居跡

第217号住居跡（第79図、図版25—1・2）

本住居跡は、調査区中央の西端に位置し、周辺には北側約3mに重複する第211・212号住居跡が北西側約4.3mに210号住居跡が、南西側約4.7mに第193号住居跡が近接している。本住居跡は、天仁元年（1108年）以降の浅間山系B軽石を多量に含む円形を呈する性格不明の皿状の落ち込み（第1・2層）によって住居上面を切られているが、遺存状態は比較的良好である。

本住居跡の東側半分は調査区外に位置するため、住居跡の全容は不明であるが、検出した壁やコーナー部の形態より、その平面形は整然とした方形もしくは長方形を呈するものと考えられる。規模は、南西～北東方向9.94m・北西～南東方向は8.40mまで測れる。壁高は20cm～45cmある。主軸方位は、N—48°—Wをとる。

床面は、あまり凹凸がなくほぼ平坦につくられているが、住居の南側が若干低くなっている。全体的にやや堅致である。

炉は、住居中央部の北西寄りから、近接して3箇所検出されている。いずれも掘り込みや付帯施設を伴わず、単に床面に焼けているだけの地床炉で、非常に良く焼けて硬化している。

ピットは、住居内より3箇所検出されている。P-1・2はその位置より主柱穴と考えられ、深さはそれぞれ65cm・48cmある。P-3は、住居中央の南西側に位置し、深さは56cmあるが、主柱穴に比べて規模が小さい。

本住居跡の覆土は、2層（第3・4層）に分層できるが、上半部を浅間山系B軽石を含む性格不明の円形の落ち込み（第1・2層）に切られているため、住居跡の埋没状態を明らかにすることはできなかった。

出土遺物は、土器・石器・鉄器がある。土器は、完形もしくはそれに近い鉢（1・2）や壺（3）小型丸底壺（4・7）が住居壁際の床面直上より置かれたような状態で出土している。その他、覆土中より比較的多数の破片が出土しているが、その形状が窺えるものは5・6の小型丸底壺だけであった。石製品は、8の勾玉が覆土中より出土している。非常に粗雑な作りのもので、穿孔は施されていない。おそらく、未製品かあるいは石製紡錘車の失敗品を勾玉に再加工したものである。鉄器は、9・10の刀子片が覆土中より出土している。

第217号住居跡土層説明

第Ⅰ層：淡灰色土層（現耕作土。）

第Ⅱ層：黄茶褐色土層（鉄分沈殿層、現耕作土田床。）

第Ⅲ層：淡灰色土層（A軽石・鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第Ⅳ層：淡灰色土層（A軽石・鉄斑を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第Ⅴ層：暗灰色土層（A軽石・鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第Ⅵ層：黒灰色土層（A軽石を多量に、鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第Ⅶ層：黒褐色土層（A軽石を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第Ⅷ層：黄灰色土層（マンガン塊・鉄斑を多量に、B軽石を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

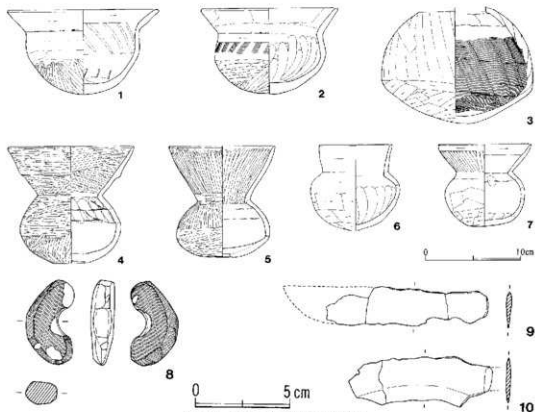
第Ⅸ層：暗灰褐色土層（B軽石・鉄斑を多量に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第Ⅰ層：暗灰色土層（B軽石・鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（B軽石・鉄斑を多量に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒灰色土層（鉄斑を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第80図 第217号住居跡出土遺物

第217号住居跡出土遺物観察表

1	鉢	A, 口縁部径16.0, 器高9.0. B, 粘土組織み上げ. C, 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリの後ミガキ, 内面窠ナデ. D, 片岩粒, 角閃石. E, 良好. F, 外—橙褐色, 内—暗褐色. H, 床直上. I, ほぼ完形.
2	鉢	A, 口縁部径14.4, 器高8.2. B, 粘土組織み上げ. C, 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面上半ナデの後ハケ, 下半ケズリの後ミガキ, 内面指ナデ. D, 片岩粒, 角閃石, 黒色粒. E, 良好. F, 内外—淡褐色. G, 外面に黒斑あり. H, 床直上. I, 完形.
3	壺	A, 残存高12.3. B, 輪積み. C, 外面ナデの後下半ケズリ, 内面ハケの後一部ナデ. D, 白色粒, 角閃石, 赤色粒. E, 良好. F, 外—茶褐色, 内—暗茶褐色. G, 外面に黒斑あり. H, 床直上. I, 胴部のみ.
4	小型丸底壺	A, 口縁部径13.4, 底部径3.5, 器高12.3. B, 粘土組織み上げ. C, 外面ミガキ, 口縁部内外面ミガキ, 胴部内面ナデ. D, 白色粒. E, 不良. F, 外—暗褐色, 内—暗褐色. H, 床直上. I, 胴部のみ.
5	小型丸底壺	A, 口縁部径11.2, 器高11.7. B, 輪積み. C, 口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ, 胴部外面ミガキ, 内面ナデ. D, 白色粒, 赤色粒. E, 不良. F, 外—茶褐色, 内—暗褐色. H, 覆土中. I, ほぼ完形.
6	小型丸底壺	A, 口縁部径7.8, 器高9.1. B, 粘土組織み上げ. C, 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面指ナデ. D, 片岩粒, 赤色粒. E, 良好. F, 内外—暗褐色. H, 覆土中. I, 3/4.
7	小型丸底壺	A, 口縁部径9.8, 器高8.7. B, 粘土組織み上げ. C, 口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ. 胴部外面ケズリの後ナデ, 内面上半ナデ, 下半指ナデ. D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒. E, 良好. F, 内外—橙褐色. H, 床直上. I, 完形.
8	勾玉(未製品)	A, 全長4.5, 幅1.7, 厚さ1.2, 重量20g. C, 表裏面研磨. D, 滑石. G, その形態より, 紡錘車の失敗品を再調整して勾玉にした可能性が高い. 穿孔なし. H, 覆土中. I, 完形.

9	刀子	A. 残存長8.5、幅2.1、厚さ0.2。G. 刃部先端欠損。H. 覆土中。I. 3/4。
10	刀子	A. 残存長7.6、幅2.6、厚さ0.2。G. 刃部は内湾している。H. 覆土中。I. 3/4。

2. 土 壙

土壙は、今回の調査区域内より11基検出されている。調査区北側に2基、住居跡が集中する調査区中央部に9基位置しているが、土壙の形態や時期は様々であり、位置や配置等にも規則性は見られない。このほか、調査区南側の河道跡からも土壙が1基検出されているが、これは河道跡と深く関係していると考えられるため、第5節の河道跡のところで別に述べることにする。

第38号土壙（第82図、図版26-1）

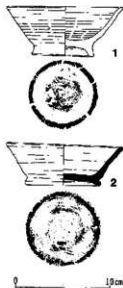
本土壙は、調査区の北側に位置し、南東側約1.2mには第4号井戸跡が近接している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、やや不整の円形を呈し、規模は1.47m×1.41mを測る。深さは80cmあり、断面は楕円状を呈し、中位に段を有している。覆土は暗灰色粘質土で、第39号土壙の覆土と類似している。土壙の性格は不明である。本土壙の時期は、覆土中より和泉式土器の小破片が数片出土しており、覆土の状態からも和泉期の可能性が高いと考えられる。

第39号土壙（第82図、図版26-2）

本土壙は、調査区の北側に位置し、土壙の上面をC-2号溝跡群に切られている。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、東西各壁がやや強く張る長方形に近い整った形態を呈している。規模は比較的大きく、東西方向6.58m・南北方向1.52mを測る。深さは60cmあり、底面は凹凸がなく比較的平坦である。長軸方向はN-89°-Wをとり、ほぼ東西方向を向いている。覆土は暗灰色粘質土で、前述の38号土壙と類似している。土壙の性格は不明である。本土壙の時期は、覆土中より和泉式土器片が数片出土しており、前述の第38号土壙と同様に和泉期の所産の可能性が高いと思われる。

第40号土壙（第82図、図版27-1）

本土壙は、調査区の中央部に位置し、土壙の南端が第199号住居跡が切っている。遺存状態は、良好である。平面形は、南北各壁が丸みを帯びた長方形に近い比較的整った形態を呈している。規模は、南北方向1.91m・



第81図 第40号土壙
出土遺物

東出土遺物西方向55cmを測る。深さは26cmあり、底面はほぼ平坦である。長軸方位は、N-16°-Eをとる。覆土は、灰色粘質土である。出土遺物は、土壌南側の東西各壁際より底面に伏せたような状態で、完形の須恵器高台付坏が2個体出土している（第81図、1・2）。本土壌の性格は、その形態や出土遺物より土壌墓と考えられ、その時期は出土した須恵器より、10世紀以降のものと思われる。

第40号土壌出土遺物観察表

1	高台付坏	A、口縁部径12.2、高台部径6.5、器高5.3。B、ロクロ成形。高台部貼り付け。C、内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、酸化腐蝕成。F、内外一橙褐色。G、ロクロ回転-右回り。H、底面直上。I、完形。
2	須恵器高台付坏	A、口縁部径12.3、高台部径8.0、器高4.3。B、ロクロ成形。高台部貼り付け。C、内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、内外一淡褐色。G、ロクロ回転-右回り。H、底面直上。I、完形。

第41号土壌（第82図）

本土壌は、調査区中央の南側に位置し、東側に第207号住居跡・西側に第198号住居跡が近接している。遺構の遺存状態は、あまり良くない。平面形は、南東壁がやや張っているが、比較的整然とした長方形に近い形態を呈している。規模は北西-南東方向2.56・北東-南西方向1mを測る。深さは4cmあり、底面は凹凸が顕著である。長軸方位は、N-50°-Wをとる。土壌の中央やや北西寄りに規模48cm×36cm・深さ7cmのピットを伴っている。覆土は、ロームブロックを含む黒褐色土で、覆土中より和泉式土器の小破片が数片出土している。本土壌の時期は、不明である。

第42号土壌（第82図、図版27-2）

本土壌は、調査区中央の北側に位置し、重複する第215・216号住居跡を切っている。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、各コーナー部が丸みを帯び東西各壁がやや張っているが、比較的整然として長方形に近い形態を呈している。規模は、南北方向1.4m・東西方向2.22mを測る。深さは13cmあり、底面は凹凸がなく平坦である。長軸方位は、N-85°-Wをとる。本土壌の覆土は、以下の3層に分層できる。

第1層：灰色土層（白色粒子・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

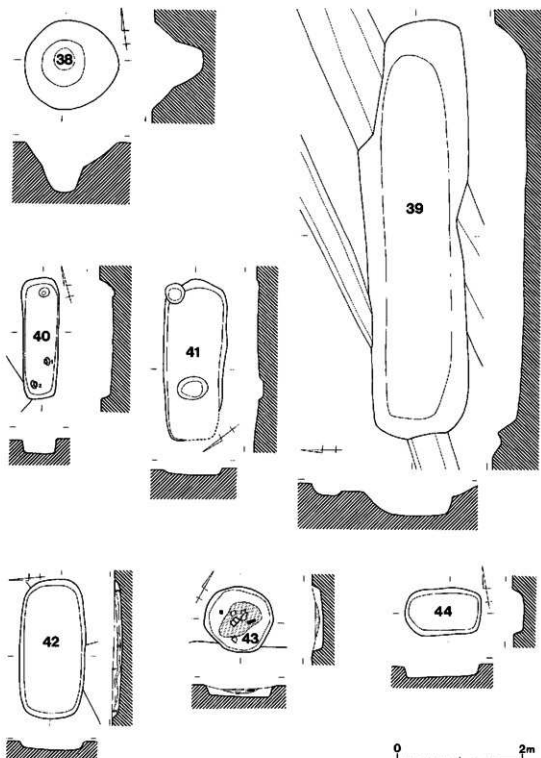
第2層：暗黄褐色土層（粘土化したロームブロックを均一含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗灰色土層（白色粒子・マンガン塊・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

覆土中より和泉式土器の破片が少量出土しているが、本土壌の時期は、明らかにできなかった。

第43号土壌（第82図）

本土壌は、調査区中央の南側に位置し、重複する第194号住居跡を切っている。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、不整形を呈し、規模は1.04m×1.10mを測る。深さは18cmあ



第82圖 土 坑 (1)

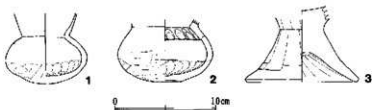
り、底面は平坦である。覆土上面の中央には多量の焼土があり、焼土中より炭化材と和泉式・鬼高式土器の破片が数片出土している。本土壤の性格は不明であるが、時期は覆土の状態や出土遺物から、鬼高期の所産と考えられる。

第44号土壌 (第82図)

本土壤は、調査区中央のやや東寄りに位置し、周辺には第7～10号井戸跡が近接している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、やや不整の長方形を呈し、規模は南北方向73cm・東西方向1.20mを測る。深さは20cmあり、底面は凹凸がなく平坦である。長軸方向は、N-80°-Wをとる。覆土は、浅間山系A軽石を多量に含む淡灰色土である。本土壤の時期は、覆土の状態より江戸時代後半の所産と考えられる。

第45号土壌 (第84図)

本土壤は、調査区中央の南側に位置し、重複する第198号住居跡を切っている。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、西側壁が開くやや不整の長方形に近い形態を呈し、規模は南北方向1.80m・東西方向1.44m測る。深さは14cmあり、底面は平坦であるが、北東側に向かって低く傾斜している。長軸方向は、N-10°-Wをとる。覆土は、粘性に富む黒色土を主体とし、覆土中より口縁部を欠く小形丸底壺(1・2)や、台付鉢と推測される台部(3)が出土している。本土壤の性格は明らかにできなかったが、時期は、覆土の状態や出土遺物より、和泉期の所産と考えられる。



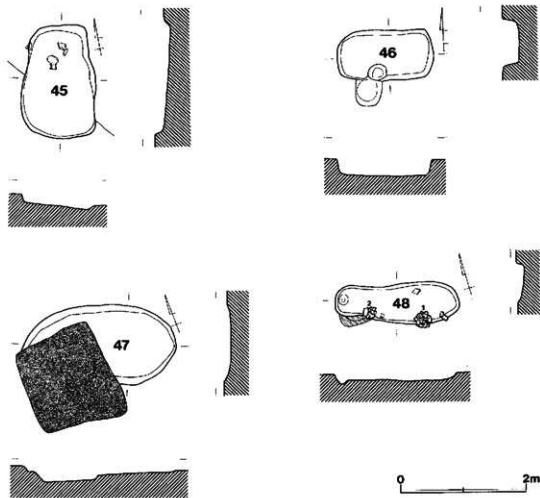
第83図 第45号土壌出土遺物

第45号土壌出土遺物観察表

1	小形丸底壺	A. 残存高7.0, B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面上半ナデ、下半ケズリ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 不良。F. 外-橙褐色、内-淡褐色、肉-暗褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。I. 3/4。
2	小形丸底壺	A. 残存高6.2, B. 輪積み。C. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D. 片岩粒。E. 不良。F. 内外-暗橙褐色、肉-黒色。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。I. 胴部のみ。
3	台付鉢	A. 残存高7.6, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 内外-橙褐色。H. 覆土中。I. 台部2/3。

第46号土壌 (第84図)

本土壤は、調査区中央の北側に位置している。南側壁の一部をビットによって切られているが、



第84図 土 坑 (2)

遺存状態は比較的良好である。平面形は、各コーナー部がやや丸みを帯びる長方形を呈している。規模は、南北方向80cm・東西方向1.52mを測り、確認面からの深さは、25cmある。底部は、凹凸がなく平坦である。長軸方位は、 $N-88^{\circ}-W$ をとり、ほぼ東西方向を向いている。覆土は、粘質な暗灰色土である。出土遺物がなく、本土壤の性格や時期は明らかにできなかった。

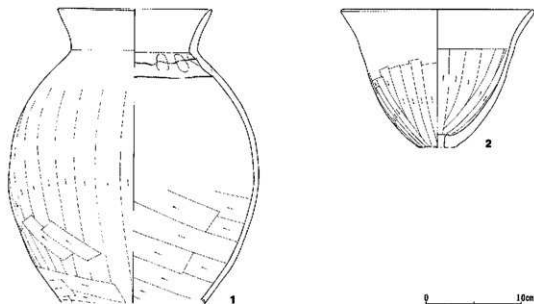
第47号土坑 (第84図)

本土壤は、調査区中央の北側に位置している。土坑の西側を擾乱に切られており、遺存状態はあまり良くない。平面形は、やや不整の楕円形に近い形態を呈している。規模は、北西～南東方向2.46m・北東～南西方向1.26mを測り、確認面からの深さは、6cmある。底面は、凹凸がなく平坦であるが、やや皿状になっている。長軸方向は、 $N-68^{\circ}-W$ をとる。出土遺物がなく、本土壤の

性格や時期は明らかにできなかった。

第48号土壙（第84図）

本土壙は、調査区中央の西側に位置し、重複する第196号住居跡を切っている。遺存状態は比較的良好であるが、住居跡の覆土中に存在したため、住居床面からの切り込み部分しか確認することができなかった。平面形は、コーナー部の丸みが強い不整の長方形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向69cm・東西方向1.96mを測り、住居床面からの深さは12cmある。西端に深さ6cmの小ピットを伴っている。底面は、凹凸があまりなく平坦である。長軸方位は、N-73°-Wをとる。覆土は、ロームブロックを微量含む黒褐色土を主体としている。出土遺物は、南側壁際の底面より、甕（1）と単孔の小形瓶（2）が出土している。本土壙の性格は不明であるが、時期は出土遺物より鬼高期と考えられる。



第85図 第48号土壙出土遺物

第48号土壙出土遺物観察表

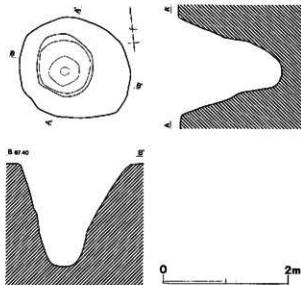
1	甕	A. 口縁部径16.2、残存高31.2。B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面上半ナデ、下半ケズリ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一茶褐色。G. 外面に黒斑あり。H. 底面直上。I. 1/2。
2	小形瓶	A. 口縁部径（20.4）、底部径4.0、器高14.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部内外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石、赤色粒。E. 良好。F. 内外一暗橙褐色。G. 外面に黒斑あり。底部穿孔は単孔で、焼成前穿孔。H. 底面直上。I. 1/4。

3. 井戸跡

井戸跡は、調査区内より全部で7基検出されている。調査区の北側に3基（第4～6号井戸跡）、中央部のやや東側に4基（第7～10号井戸跡）あり、前者はそれぞれ離れて位置しているが、後者は比較的密集し、第8号井戸跡と第10号井戸跡は一部重複している。検出されたすべての井戸跡は、石組みの痕跡が見られないことから、木枠かもしくは素掘りによるものと思われる。時期は、ほとんどの井戸跡が中世の所産と考えられるものであるが、最も北側の第4号井戸跡は、古墳時代の所産と考えられる。第4号井戸跡は、おそらく調査区中央の和泉期の集落と関係するものと思われる。他の井戸跡は、ほぼ同時期と思われる調査区中央やや北側に位置する中世の屋敷跡の可能性が高いピット群に付随するものか、あるいはそれと関係が深いものであろう。

第4号井戸跡（第86図、図版28-1）

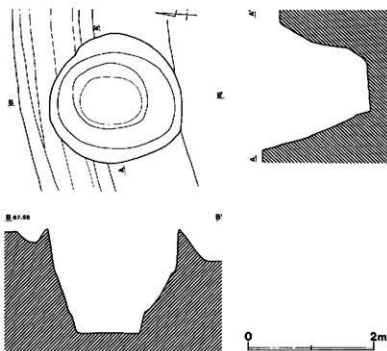
本井戸跡は、調査区北側のほぼ真中に位置し、近くには第38号土壌がある。平面形は、東西方向がやや長い不整形円形を呈し、規模は南北方向1.60m・東西方向76mを測る。深さは1.63mあり、底面はやや丸底を呈している。壁は、中位に段を有し、それを境にして下半部は垂直に近くなっている。覆土は、第38号土壌と類似した粘質の暗灰色土が主体であるが、底面に近い部分はローム粒子と砂を多く含んでいる。ほぼ単一土層であり、比較的短期間に埋没したものと考えられる。出土遺物は、非常に少なく、覆土中より和泉式土器の小破片が少量出土しただけである。本井戸跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から、古墳時代の和泉期の可能性が高いと考えられる。



第86図 第4号井戸跡

第5号井戸跡（第87図、図版28-2）

本井戸跡は、調査区北側の東寄りに位置し、重複する奈良・平安時代の第2号溝群を切っている。平面形は、やや不整形の円形を呈し、規模は南北方向2.09m・東西方向2.06mを測る。深さは1.66mあり、底面は平坦である。壁は、比較的急で、上位と下位に2箇所段をもっている。覆土は、非常に複雑な様相を呈しており、灰色粘質土層・砂礫層・砂層が互層になっていた。出土遺物は、古墳時

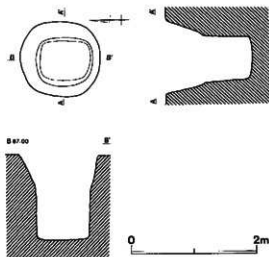


第87図 第5号井戸跡

代～平安時代の土器片が少量出土しているが、すべて混入したものであり、本井戸跡に伴うものではない。本井戸跡の時期は、C-2号溝跡群との切り合い関係や覆土の状態より、中世の可能性が高いと考えられる。

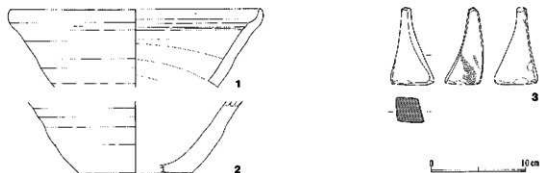
第6号井戸跡（第88図、図版29-1）

本井戸跡は、調査区の北側寄りに位置し、重複するC-2号溝跡群を切っている。平面形は、上半部は不整形円形を呈しているが、中段以下は各壁がやや丸みを帯びる長方形をしている。規模は、南北方向1.27m・東西方向1.19mを測り、他の井戸跡に比べて小規模である。深さはC-2号溝跡群の底面より1.37mあるが、確認面からは1.90mを測る。底面は凹凸がなく、比較的平坦である。本井戸跡は、その下半の形態より、木枠が組まれていた可能性が考えられる。覆土は、上半部が砂礫層と粘土層の互層で、下半部が灰色粘土層であった。出土遺物は、比較的少



第88図 第6号井戸跡

ないが、瓦質の在地产片口鉢の破片（1・2）や、砥石（3）が出土している。本井戸跡の時期は、C-2号溝跡群との切り合い関係や出土遺物より、中世の所産と考えられる。



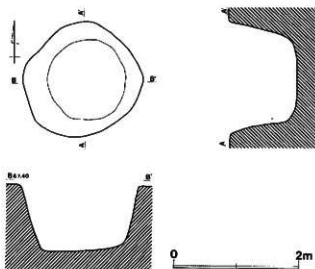
第89図 第6号井戸跡出土遺物

第6号井戸跡出土遺物観察表

1	片口鉢	A. 口縁部径(26.3)。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面とも回転ナデ。D. 白色粒。E. 不良。F. 内外一暗灰色、肉一茶褐色。G. ロクロ回転一左回り。H. 覆土中。I. 1/5。
2	片口鉢	A. 底部径(12.0)。B. 粘土組織み上げ。底部外面回転糸切り。C. 内外面ナデ。D. 白色粒。E. 良好。F. 内外一暗灰色、肉一淡褐色。H. 覆土中。I. 1/3。
3	砥石	A. 全長8.2、最大幅4.5。C. 凝灰岩。G. 全面に擦痕あり。H. 覆土中。I. 完形。

第7号井戸跡（第90図、図版29-2）

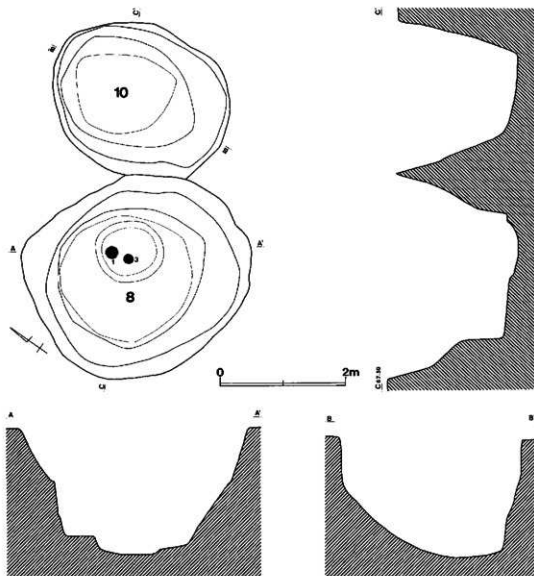
本井戸跡は、調査区中央のやや東側に位置し、南側には第8～10号井戸跡が近接している。平面形は、不整形円形を呈し、規模は南北方向1.83m・東西方向1.90mを測る。確認面からの深さは1.06mで、比較的浅い方である。底面は丸く、ほぼ平坦である。覆土は、上半部が砂礫層と灰茶褐色粘質土層の互層で、下半部は厚い砂礫層であった。出土遺物は、非常に少なく、覆土中より土器片が少量出土しただけである。時期は、覆土の状態から中世の可能性が高いと考えられる。



第90図 第7号井戸跡

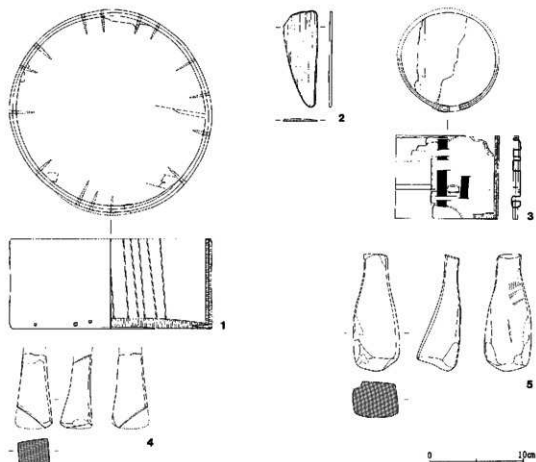
第8号井戸跡（第91図、図版29-2）

本井戸跡は、調査区中央のやや東側に位置している。本井戸跡の北東側で隣接する第10号井戸跡と一部重複しているが、重複部分に擾乱を受けているため、相互の新旧関係は不明である。平面形は、不整形を呈している。規模は南北方向3.04m・東西方向3.42mを測り、C地点で検出された井戸跡の中では最も規模の大きいものである。深さは最深部で2.02mあり、底面は比較的平坦であるが、東側に規模98cm×105cm・深さ14cmの土壇状の落ち込みを伴っている。壁は、比較的急であるが、中位に段を有している。覆土は、上半部が砂礫層と暗茶褐色粘質土層の互層で、下部は緑灰色



第91図 第8・10号井戸跡

粘質土層であった。出土遺物は、比較的少ないが、井戸底面の土塊状の落ち込み内より、桶（1）とひしゃく（3）の曲物が、覆土中より砥石（4・5）が、それぞれ出土している。また、このほか覆土中からは、桃の炭化種子5個と桜の小枝片多数が検出されている。本井戸跡の時期は、覆土の状態や出土遺物より、中世の所産と考えられる。



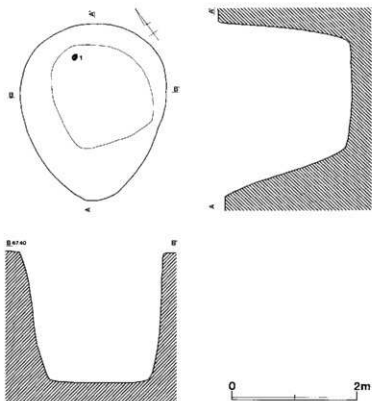
第92図 第8号井戸跡出土遺物

第8号井戸跡出土遺物観察表

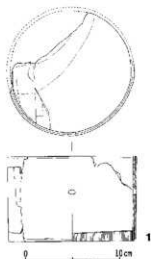
1	曲物 (桶)	A. 口縁部径21.4、器高9.5、底板に側板を二重に巻き、側板の端が三重に重なる部分で桜の皮により綴じている。底部側縁には補強のため木釘が打ち込まれている。G. 底板は正目板。側板内面に線刻あり。H. 底面直上。I. 側板の一部を欠損。
2	木製楔	A. 全長10.2、最大幅3.6、厚さ0.3。G. 曲物（1）の側板のしめを強くするため側板の間に差し込んであったもの。I. 完形。
3	曲物 (ひしゃく)	A. 口縁部径（10.9）、器高8.8。B. 底板に側板を二重に巻き、側板の端の上下端を丸く切り取り、桜の皮により綴じている。G. 側板の皮綴じ部分には柄を通す長方形の穿孔がある。H. 底面直上。I. 1/2。
4	砥石	A. 残存長7.9、最大幅3.7。G. 全面に擦痕あり。両端部欠損。H. 覆土中。I. 2/3。
5	砥石	A. 全長12.4、最大幅4.9。G. 表裏面と左右側面に擦痕と一部剥落あり。H. 覆土中。I. 完形。

第9号井戸跡 (第93図、図版29-2)

本井戸跡は、調査区中央のやや東側に位置し、周辺には第7・8・10号井戸跡が近接している。平面形は、北東～南西方向がやや長い楕円形ぎみの不整形円形を呈している。規模は、北東～南西方向2.80m・北西～南東方向2.31mを測り、深さは2.07mある。底面は、不整形の円形を呈し、ほぼ平坦である。壁は、各壁とも直線的で垂直ぎみに立ち上がるが、南西側壁は他に比べて若干緩やかな傾斜になっている。覆土は、第7号井戸跡と類似しているが、下半部に厚い砂層は見られず、暗灰色粘質土が主体であった。出土遺物は、比較的少量で、図示できたものは底面よりやや浮いた覆土中より出土したひしゃくの曲物(1)だけである。また、このほか覆土中からは、桃の炭化種子が2個検出されている。本井戸跡の時期は、覆土の状態や出土遺物より、中世の可能性が高いと考えられる。



第93図 第9号井戸跡



第94図 第9号井戸跡
出土遺物

第9号井戸跡出土遺物観察表

1	曲物 (ひしゃく)	A. 口縁部径13.6、器高9.0。B. 底板に側板を二重に巻いている。G. 底板は正目板。側板中央に柄を通す楕円径の穿孔あり。H. 覆土中。I. 1/2。
---	--------------	--

第10号住井戸跡 (第91図、図版29-2)

本井戸跡は、調査区中央のやや東側に位置し、隣接する第8号井戸跡と一部重複しているが、相互の新旧関係は不明である。平面形は、南北方向が長い楕円形に近い形態を呈し、規模は南北方向2.93m・東西方向2.38mを測る。深さは1.88mあり、底面は比較的平坦である。壁は、北側が急であるのに対し、南側はややなだらかである。覆土は、他の井戸と同様に上半部が砂礫を多く含み、下半部が砂を含む暗灰褐色粘質土であった。出土遺物は、比較的少なく、覆土中より土器片が少量出土しただけである。本井戸跡の時期は、覆土の状態より中世の可能性が高いと考えられる。

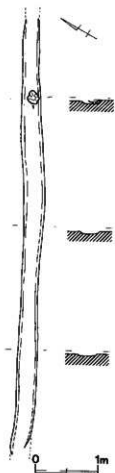
4. 溝 跡

C-1号溝跡 (第95図、図版30-1・2)

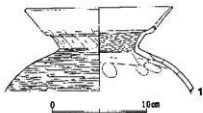
本溝跡、調査区北側の北西端に位置し、南西から北東方向に向かって流路をとっている。調査区内では、溝の一部を検出しただけであるが、その延長上の調査区北側の北壁と西壁で本溝の断面が確認でき、その位置から本溝跡はほぼ直線的な流路をとっていたことが推測できる。

本溝跡は、幅が27cm～32cmと比較的均一で整然とした形態を呈している。深さは調査区断面で10cm～15cmあり、底面は平坦である。また、調査区断面の溝底面のレベルを比較すると、北側の方が若干低いことから、本溝跡は北東方向へ向かって流れていたと考えられる。覆土は、粘性に富み、しまりのない黒色の単一層で白色粒子とローム粒子を微量含んでいる。砂粒や小石等の混入はなく、頻りに水が流れていたような痕跡は見られない。出土遺物は、非常に少なく、図示できたものは北東側の溝底面より出土した壺の上半部(1)だけで、他は小破片が数点出土している。溝跡の時期は、その出土土器から調査区南側の溝跡とほぼ同じ時期と考えられるが、その埋没は他の時期の遺物を含まず、また覆土が単一土層であることから、比較的短期間に埋没したものと思われる。

本溝跡は、調査区内では比較的直線的な流路をとっており、その西側の延長には、関越自動車道建設に先立って調査されたB地点がある。そこでは時期不明のB-2・3号溝跡が検出されているが、本溝跡とは形態や規模を異にしており、おそらく



第95図 C-1号溝跡



第96図 C-1号溝跡出土遺物

直接的には関係しないものと思われる。

C-1号溝跡出土遺物観察表

I	壺	A. 残存高7.3。B. 粘土細積み上げ。C. 頸部外面ケズリの後ナデ、内面ハケの後ナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデの後上半ケズリ。D. 片岩粒、角閃石。E. 良好。F. 外一淡橙褐色、内一淡褐色。H. 底面直上。I. 胴部上半のみ。
---	---	---

C-2号溝跡群 (第97・98図、図版31-1・2)

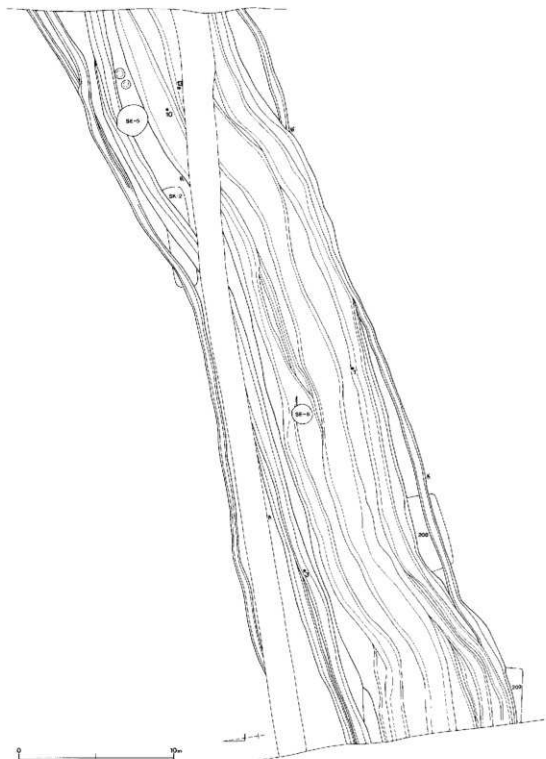
本溝跡群は、調査区中央の北寄りにあり、調査区をほぼ横断するように位置し、その西側で古墳時代の第200・201・202号住居跡を、北側で第39号土壇を切っている。また、溝の一部を現代の溝や中世以降の第5・第6号井戸跡に切られているが、遺構の遺存状態は良好である。

本溝跡群は、幅12.80m～15.85m、深さは確認面から最深部で72cmを測るが、これは複数の溝が同一方向にやや位置がずれて重複したり、同一溝の掘り返しによる累積の結果であり、単一時期の溝は、最大でも2～3mくらいの幅であったと思われる。このうち、特に中央部の溝は重複が著しく、最低7回以上の掘り返しが認められる。北端や南端の溝は中央の溝に比べ、掘り返しや重複は少なく、溝も小規模である。これらの溝跡は、木の流れていた形跡が顕著で、底面には砂利や小礫が堆積しており、その流れていた方向は、溝底面のレベルの比較から、西から東へ向かって流れていたと考えられる。溝の流路は、直線的ではなくやや蛇行した形態をとっており、各溝のほとんどがこれに平行して重複している。

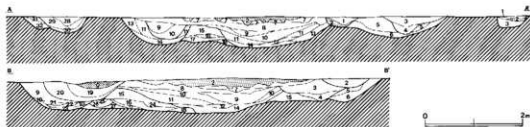
本溝跡群の時期は、土層観察や出土遺物により、奈良時代に掘削され、平安時代末の浅間山系B軽石降下時(天仁元年・1108年)にはほぼ完全に埋没していたことが明らかで、奈良～平安時代の比較的長きに渡って継続的に機能していたことがわかる。

本溝跡群は、掘削から埋没するまで同一の形態を維持していたわけではなく、奈良時代・平安時代前半・平安時代末のほぼ3期に渡り溝の形態や規模が変化したことが、土層断面の観察から窺うことができる。掘削当初の奈良時代の溝は、本溝跡群断面中央部の溝(第15～18層・第24～27層)で、遺存状態が非常に悪いため、その全容を知ることはできなかったが、最低3回以上の掘り返しが見られ、規模はその底面や土層の状態から推測すると、比較的大きな溝であったと思われる。平安時代前半には、第9～14層の幅約3m・深さ72cmの中央部の幹線水路と、第5～6層・第21～24層・第28～32層のやや規模の小さい南北両側の側溝とからなる形態になっている。最低2回以上の掘り返しが認められ、流路はほぼ前段階の溝と重なっているが、南北両方向に溝群の位置が広がっている。そして、平安時代末の埋没直前では、溝の構成は前段階と同じく幹線水路(3・4層)と側溝(1～3層)からなっているが、流路が溝跡群のやや南側に移り、さらに規模が小さく深さも浅い溝になり、流路も蛇行が弱くやや直線的になる。

出土遺物は、比較的少ないが、奈良・平安時代の環類が主体を占めている。このほか中央部の奈良時代の溝の覆土中より、古墳時代和泉期の土器が出土しているが、これらは本溝跡群が切っている同期の住居跡から混入したもので、いくつか住居跡の出土土器と接合している。



第97图 C-2号满迹群

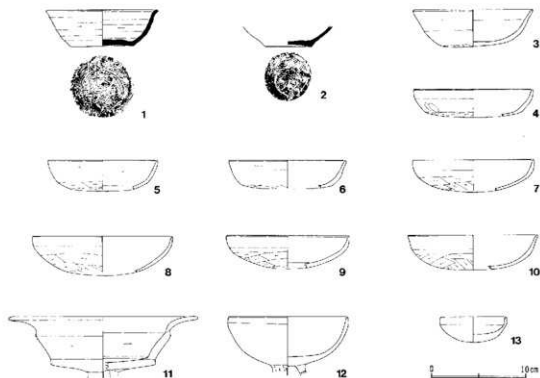


第98図 C-2号溝跡群断面図

C-2号溝跡群土層説明

- 第0層：暗灰色土層（A軽石を多量に含む。粘性・しまりともない。）
 第1層：暗灰色土層（B軽石・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第2層：暗灰色土層（B軽石を多量に含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗灰色土層（白色粒子・鉄斑・マンガン塊を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗灰色土層（鉄斑・マンガン塊を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗灰色土層（鉄斑を多量に、マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：灰色土層（鉄斑・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗茶褐色土層（鉄斑を多量に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：黒色土層（白色粒子・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：黒褐色土層（鉄斑を均一に、マンガン塊・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：暗灰色土層（白色粒子・鉄斑を均一に、マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：暗茶褐色土層（鉄斑を多量に、白色粒子・マンガン塊を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第12層：灰色土層（鉄斑・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第13層：暗褐色土層（鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第14層：暗黄褐色土層（鉄斑・小石・砂利を多量に含む。粘性・しまりともない。）
 第15層：暗茶褐色土層（鉄斑・マンガン塊を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第16層：灰色土層（鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第17層：暗灰色土層（鉄斑・砂利を多量に含む。粘性・しまりともない。）
 第18層：灰色土層（鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第19層：灰褐色土層（鉄斑を多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第20層：暗灰色土層（鉄斑を多量に、小石・砂利・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第21層：暗褐色土層（砂利を多量に含む。粘性しまりともない。）
 第22層：灰褐色土層（鉄斑を多量に、マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第23層：黄灰色土層（鉄斑・砂利を多量に含む。粘性・しまりともない。）
 第24層：黄灰色土層（鉄斑を多量に、マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第25層：暗茶褐色土層（鉄斑・砂利を均一に含む。粘性・しまりともない。）
 第26層：灰色土層（鉄斑・小石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第27層：黄灰褐色土層（鉄斑・小石・砂利を多量に含む。粘性・しまりともない。）
 第28層：黒褐色土層（鉄斑・白色粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
 第29層：暗灰色土層（鉄斑・白色粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第30層：灰色土層（鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第31層：暗灰色土層（白色粒子・鉄斑・マンガン塊を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第32層：暗灰色土層（マンガン塊を均一に、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

なお、本溝跡群の西側延長のB地点では、羽釜を伴う住居跡に切られているB-1号溝跡や時期不明のB-2・3号溝跡が検出されており、それらは本溝跡群の流路方向とほぼ一致している。B地点の溝の時期が不明であり、また報告書では同地点検出の大溝の支線と考えられていることから、疑問な点もあるが、おそらくそれらの溝は、本溝跡群の一部と同一のものではないかと思われる。



第99図 C-2号溝跡群出土遺物

C-2号溝跡群出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A, 口縁部径11.8~12.1, 底部径6.6, 器高3.9, B, ロクロ成形, C, 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り, D, 小石・白色粒・黑色粒, E, 良好, F, 内外一灰色, G, ロクロ回転-左回り, H, 雨側溝底面直上, I, 完形。
2	須恵器 坏	A, 底部径5.0, 残存高2.1, B, ロクロ成形, C, 内外面ナデ。底部外面回転糸切り, D, 白色粒・赤色粒, E, 良好, F, 内外一淡灰色, G, 器表面は摩滅している, H, 覆土中, I, 底部のみ。
3	坏	A, 後円部径12.3~12.6, 器高4.0, C, 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D, 片岩粒・角閃石, E, 良好, F, 内外肉一橙褐色, H, 覆土中, I, ほぼ完形。
4	坏	A, 口縁部径(12.6), C, 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面上半ナデ, 下半ケズリ, 内面ナデ, D, 白色粒, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 内外一橙褐色, H, 覆土中, I, 1/4。
5	坏	A, 口縁部径(11.8), C, 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面上半ナデ, 下半ケズリ, 内面ナデ, D, 白色粒・角閃石, E, 良好, F, 内外一淡茶褐色, H, 覆土中, I, 1/3。
6	坏	A, 口縁部径(12.4), C, 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面上半ナデ, 下半ケズリ, 内面ナデ, D, 白色粒, 角閃石, E, 良好, F, 外一淡茶褐色, 内一淡褐色, H, 覆土中, I, 1/4。

7	坏	A, 口縁部径(12.8)。B, C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ、内面ナデ。D, 白色粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一淡橙褐色。H, 覆土中。I, 1/4。
8	坏	A, 口縁部径(14.8)。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ、内面ナデ。D, 白色粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一淡褐色。H, 覆土中。I, 1/4。
9	坏	A, 口縁部径(13.0)。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半未調整、下半ケズリ、内面ナデ。D, 白色粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一橙茶褐色。H, 覆土中。I, 1/4。
10	坏	A, 口縁部径(13.8)。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ、内面ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 覆土中。I, 1/4。
11	坏	A, 口縁部径(20.0)。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ。D, 片岩粒、白色粒、角閃石、赤色粒。E, 不良。F, 内外一淡橙褐色。H, 覆土中。I, 1/4。
12	高坏	A, 口縁部径12.6。B, 粘土組織み上げ。C, 口縁部内外面不明。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一明橙褐色。H, 覆土中。I, 坏部のみ。
13	坏	A, 口縁部径6.8、器高2.7。B, 椀状の底部に口縁部貼り付け。C, 内外面ナデ。D, 角閃石、白色粒。E, 良好。F, 内外一淡褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土中。I, 完形。

5. 河 道 跡

河道跡(第100図、図版32-1)

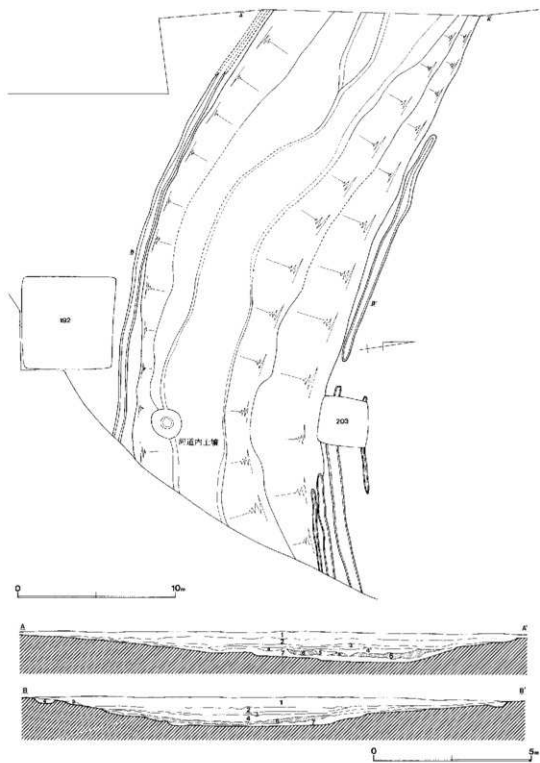
河道跡は、調査区の南側に位置する。流路は、調査区内ではほぼ北西から南東方向に向かってはいるが、調査区東端で東から北東方向に弓状に向きを変えるようである。河道跡の西側は、C地点に隣接するE地点(調査担当:鈴木徳雄、小宮山克己)でその西側が検出されている。

規模は、確認面で幅17.1m・中央部の傾斜が急になる部分で幅11.7mを測る。確認面からの深さは95cmあり、調査区内では一定した深さを保っており、底面のレベル差は見られない。河道跡の断面は皿状のように見えるが、全体的に壁は直線的で底面は平坦である。

河道跡の南北両側には、河道に並走する人工的な側溝が見られる。規模は、幅60cm・深さ20cmあり、比較的小規模で均一な形態である。底面はやや凹凸があり、断面は皿状を呈している。北側側溝の東端には、側溝が4本見られるが、これらは同時に存在したものではない。土層観察によれば、4本のうち、規模の小さい南側の2本が古く、北側の2本が新しいと考えられるが、おそらく南から北の溝に向かって新しくなっていったものと思われる。

河道跡土層説明

- 第1層:暗灰色土層(白色粒子・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層:暗灰褐色土層(鉄斑を多量に、白色粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層:暗灰色土層(白色粒子・鉄斑を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗茶灰色土層(鉄斑を多量に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層:暗茶褐色土層(第4層を基本に、小礫を多量含む。粘性・しまりとない。)
- 第5層:明褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第6層:黒色土層(炭化粒子を多量に、焼土粒子・炭化材を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第7層:黒灰色土層(鉄斑を均一に、マンガン塊・炭化粒子・小礫を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)



第100圖 河道跡

覆土は、7層に分層できる。これらはいずれもほぼ水平方向に堆積しており、部分的に小規模な掘り返しの形跡が認められるものの、徐々に埋没していったようである。覆土中には、砂利や小礫が部分的に見られ、また最下層の第7層下部にも砂利が見られることから、ある程度の流水があったようであるが、第7層上面には厚さ10cm～20cmの黒色泥炭層（第6層）が堆積しており、まもなく水の滞水状態が続くような状況になったものと考えられる。この黒色泥炭層中からは、大量の土器が出土し、部分的に多量の焼土と炭化材が見られた。

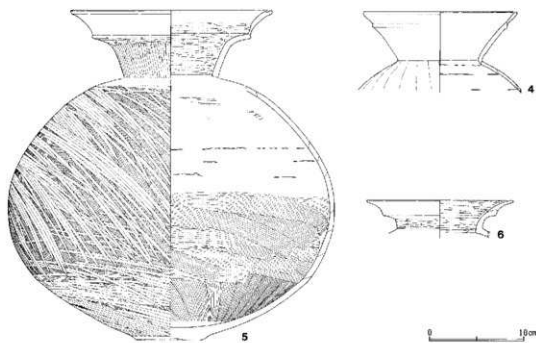
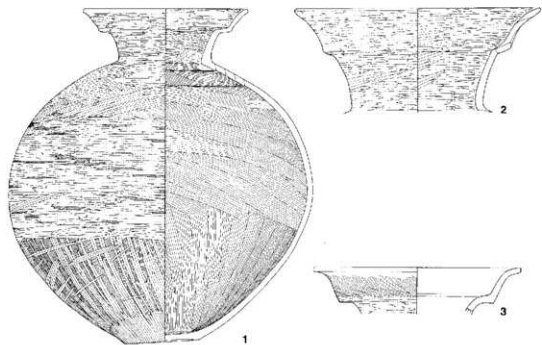
出土遺物は、土器・石製品・鉄製品が出土している。特に土器は膨大な量で、深箱のコンテナにして30箱以上にも及ぶ。遺物の出土状態は、黒色泥炭層下の第7層が比較的少ないほかは、ほぼ覆土全体から出土している。特に第6層の黒色泥炭層が最も多く、河道跡から出土した全遺物の3分の2を占めている。この黒色泥炭層を境にして出土状態に差異が見られることから、遺物の取り上げは、第1～5層のものを覆土上層、第6層・7層のものを覆土下層として分離した。

土器は、全出土遺物の大半を占める。河道跡のほぼ全域から出土しているが、覆土上層と下層では、その出土状況がやや異なっている。覆土上層出土のものは、土器の形状を留めているものではなく、ほとんどが接合しない小破片ばかりで、器表面が風化して荒れているものが多く見られる。時期は和泉期を主体とし、他の時期のものは第1層中に奈良・平安時代（前半）の土器片が数片見られるだけである。覆土下層出土のものは、そのほとんどが黒色泥炭層から出土している。器形のわかるものが比較的多いが、完形品は意外と少ない。出土状態は、個々にまとまった状態ではなく、多くの破片になって散乱したような状態であり、かなり離れた地点で出土した破片同士が接合する例も多く見られる。時期は、五領期後半から和泉期前半のものであるが、量的には五領期後半のものが多いようである。

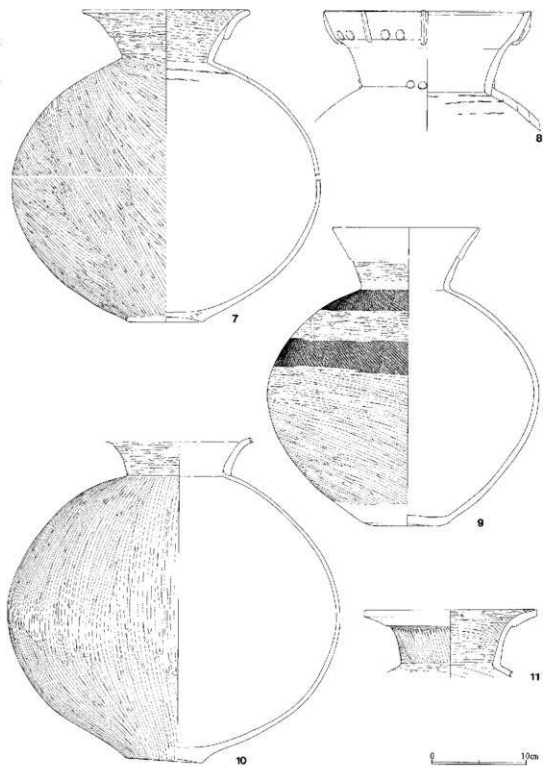
石製品は、石製模造品20・勾玉1・砥石1が出土している。いずれも覆土上層からの出土であるが、このうち石製模造品と勾玉は、すべて南東側の河道跡内土壌の周辺に集中している。石製模造品は、剣形品16（第111図1～16）・有孔円盤3（第112図19～21）・不明1（17）で、剣形品は3タイプのもが見られ、有孔円盤はすべて1孔を有するものである。勾玉（第111図18）は破損品で、裏側半分が剥離している。砥石（第112図25）は、河道跡の中央部付近から出土している。非常に形の整った四角い柱状の形態のもので、上端に比較的大きな穿孔を有する。

鉄製品は3点（第112図22～24）あるが、器種の判明するものは、22の刀子だけである。いずれも覆土上層から出土している。

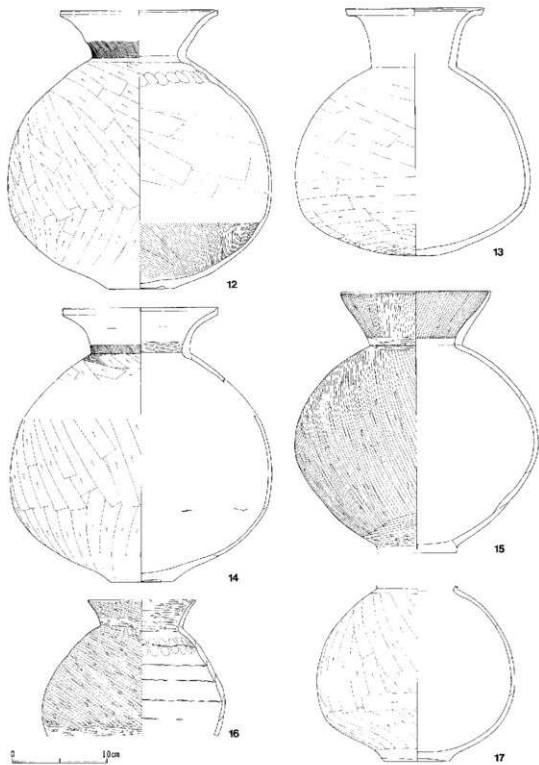
本河道跡は、覆土下層の黒色泥炭層出土遺物や河道跡内土壌の覆土下層出土遺物の時期から、本遺跡に集落が形成された五領期後半～末には、自然堤防の北端部から湧き出る表流水を集めた河道として機能していたようで、C地点のような集落の近くでは小規模で部分的な河道の掘り返しも見られ、日常的・恒常的ではないにしろ、ある程度の人為的な管理がなされていたことが窺える。またこの河道は、その後には覆土下層の黒色泥炭層の堆積に見られるように、水の滞水状態が長く続いたことが窺えるが、これは調査区外の河道西側の下流を堰き止めて、いわゆる灌漑施設の溜井として利用していたためかもしれない。そして、覆土観察や覆土上層出土遺物の時期から、和泉期の間には若干の窪地程度にまで埋没したものと考えられる。



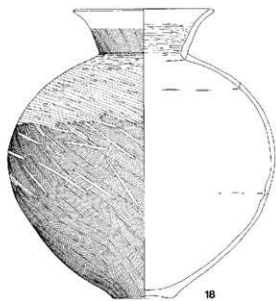
第101図 河道跡出土遺物（1）



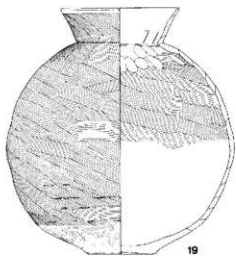
第102図 河道跡出土遺物（2）



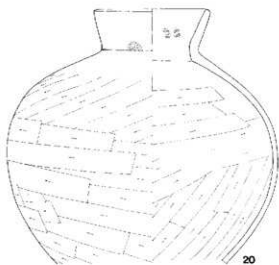
第103図 河道跡出土遺物（3）



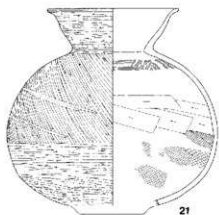
18



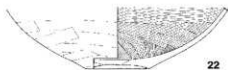
19



20



21



22



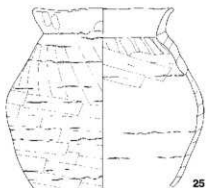
23

0 15cm

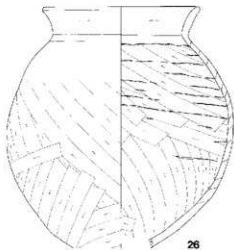
第104図 河道跡出土遺物(4)



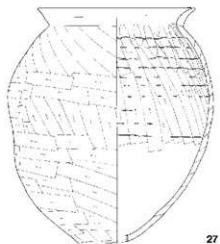
24



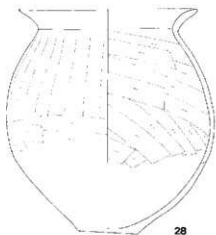
25



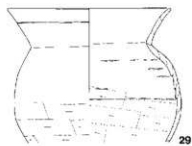
26



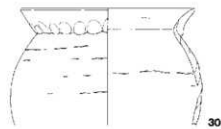
27



28

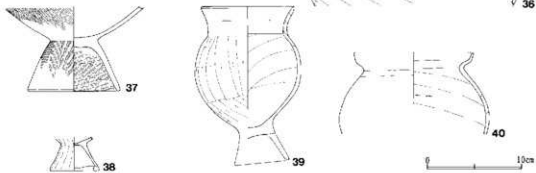
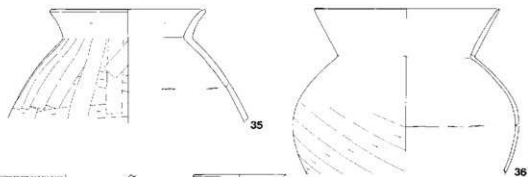
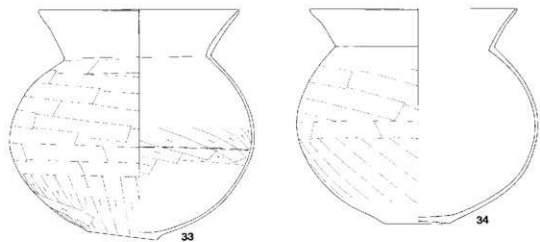
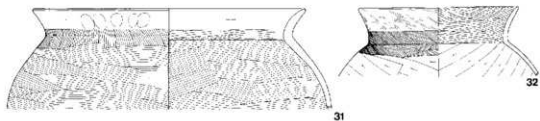


29

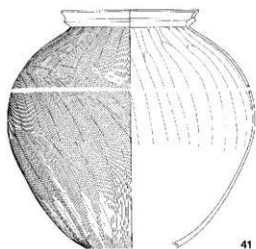


30

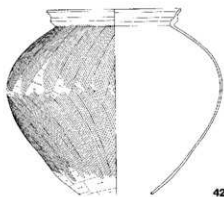
第105图 河道跡出土遺物 (5)



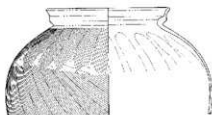
第106図 河道跡出土遺物（6）



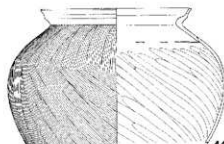
41



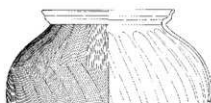
42



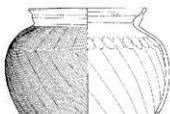
43



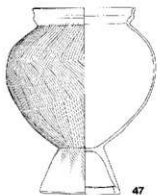
44



45



46



47



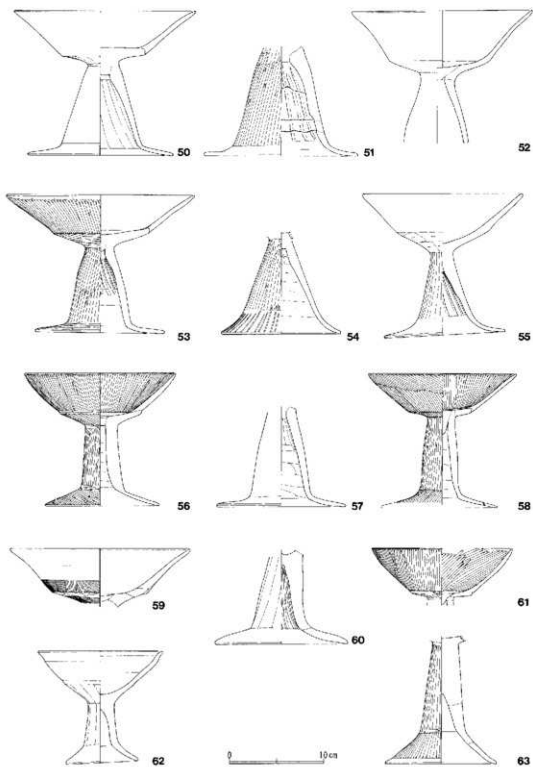
48



49



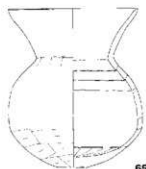
第107图 河道跡出土遺物 (7)



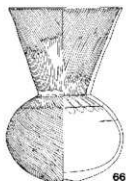
第108图 河道跡出土遺物 (8)



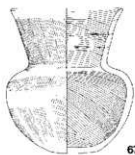
64



65



66



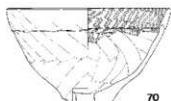
67



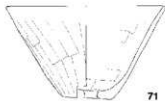
68



69



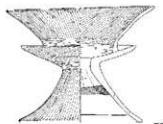
70



71



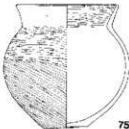
72



73



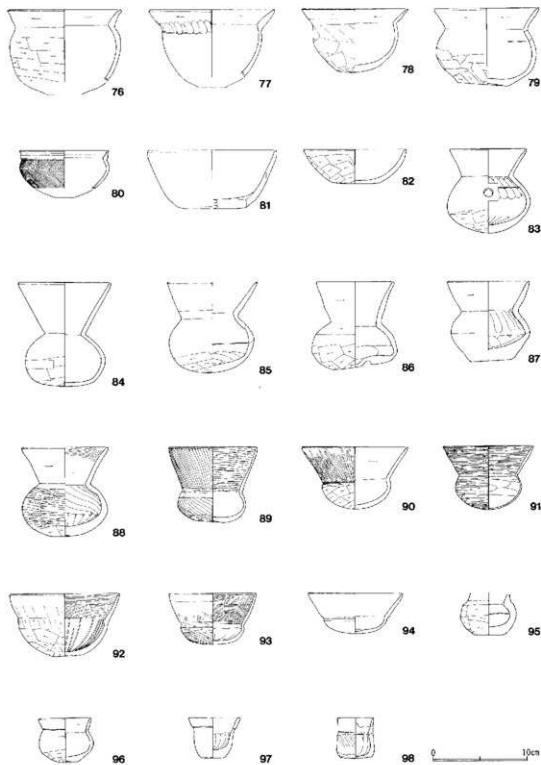
74



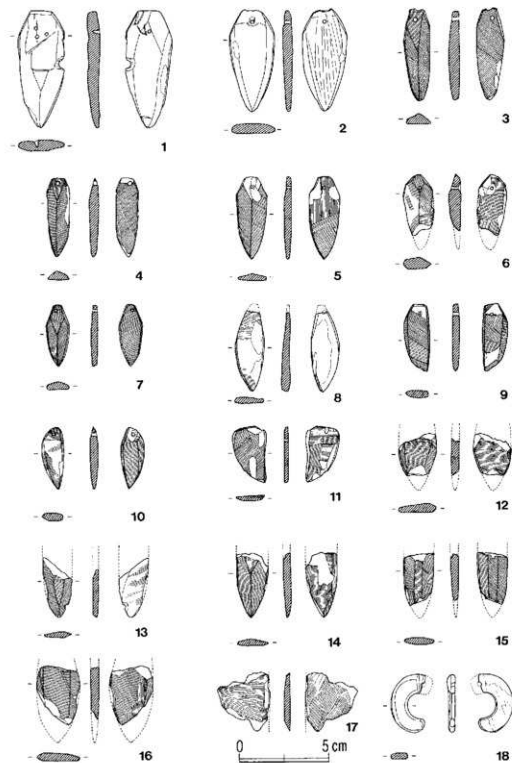
75

0 10cm

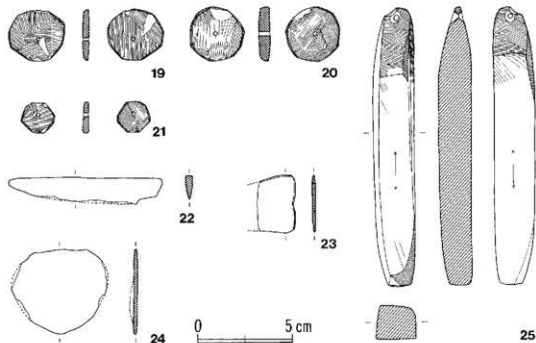
第109图 河道跡出土遺物(9)



第110图 河道跡出土遺物 (10)



第111圖 河道跡出土石・鉄製品 (1)



第112図 河道跡出土土・鉄製品(2)

河道跡出土遺物観察表

1	壺	A, 口縁部径17.4, 底部径7.8, 器高35.5。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ハケの後ミガキ。胴部外面ハケの後ミガキ、内面ハケ。D, 白色粒、角閃石。E, 良好。F, 外一茶褐色、内一淡褐色。H, 覆土下層。I, 1/2。
2	壺	A, 口縁部径25.8。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ミガキ。D, 角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一淡茶褐色。H, 覆土下層。I, 口縁部のみ。
3	壺	A, 口縁部径(21.8)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部外面ハケ・内面ナデ。頸部外面ミガキ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗橙褐色。H, 覆土下層。I, 1/2。
4	壺	A, 口縁部径16.2。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、白色粒。E, 良好。F, 内外一暗茶褐色。H, 覆土下層。I, 3/4。
5	壺	A, 口縁部径(21.2), 底部径7.3, 推定高(35.0)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ナデ。頸部内外面ミガキ。胴部外面ハケの後ミガキ、内面ハケの後上半ナデ。D, 白色粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一淡茶褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土下層。I, 3/4。
6	壺	A, 口縁部径(15.4)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部外面ヨコナデ、内面ミガキ。頸部外面ミガキ。D, 片岩粒、赤色粒。E, 良好。F, 内外一茶褐色。H, 覆土下層。I, 1/2。
7	壺	A, 口縁部径17.6, 底部径(7.6), 推定高(33.0)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ミガキ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、白色粒。E, 良好。F, 外一淡橙褐色、内一淡黄褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土下層。I, 2/3。
8	壺	口縁部径(21.8)。B, 粘土紐積み上げ。C, 内外面ナデ。D, 角閃石、赤色粒。E, 不良。F, 内外一淡褐色。G, 口縁部と頸部外面には棒状浮文と円形浮文が施文されている。H, 覆土上層。I, 1/3。

9	壺	A、底部径9.0、残存高28.6。B、粘土組織み上げ。C、外面ミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、外一淡茶褐色、内一淡灰褐色。G、外面に黒斑あり。外面の縄文はR.L。H、覆土下層。I、3/4。
10	壺	A、底部径7.9、残存高34.4。B、粘土組織み上げ。C、外面ミガキ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石。E、良好。F、内外一黄橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、4/5。
11	壺	A、口縁部径18.2。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ヨコナデ、内面ミガキ。頸部外面ハケの後ミガキ、内面ミガキ。胴部外面ミガキ、内面ケズリ。D、片岩粒、角閃石、白色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。H、覆土下層。I、口縁部のみ。
12	壺	A、口縁部径16.6、底部径7.2、推定高(29.5)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ハケの後上半ナデ、内面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ハケの後上半径ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。G、胴部上半と下半は接合する個所がなく、器形は図上復元。H、覆土下層。I、2/3。
13	壺	A、口縁部径(14.6)、底部径5.5、器高26.2。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ、胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、2/3。
14	壺	A、口縁部径16.4、底部径6.6、推定高(29.0)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。H、覆土下層。I、1/2。
15	壺	A、口縁部径(15.8)、残存高27.2。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ハケの後ミガキ、内面ミガキ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一黄橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、1/2。
16	壺	A、口縁部(11.4)。B、輪積み。C、口縁部内外面ミガキ、胴部外面ミガキ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土下層。I、胴部上半のみ。
17	壺	A、底部径6.8、残存高18.6。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石。E、良好。F、内外一茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、4/5。
18	壺	A、口縁部14.8、底部径6.6、器高(30.7)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ミガキの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後ミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一暗橙褐色、内一淡褐色。G、胴部上半と下半は接合する個所がなく、器形は図上復元。H、覆土下層。I、1/2。
19	壺	A、口縁部径12.4、底部径7.3、器高(26.0)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ハケ、内面ナデ。胴部外面ハケ、内面ハケの後下半ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一暗橙褐色、内一黒灰色。G、胴部上半と下半は接合する個所がなく、器形は図上復元。外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、1/2。
20	壺	A、口縁部径12.2、残存径26.9。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ハケの後ナデ。胴部内外面ケズリの後ナデ。D、片岩粒、角閃石、白色粒。E、不良。F、内外一淡褐色、内一黒灰色。G、外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、3/4。
21	壺	A、口縁部径(13.8)、残存高20.8。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ミガキ、内面ハケの後ナデと一部ケズリ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一黄橙褐色、内一暗灰色。H、覆土下層。I、3/4。
22	壺	A、底部径6.6。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ナデ、内面ハケ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。底部穿孔は焼成後。H、覆土層。I、底部のみ。
23	壺	A、底部径8.4。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後一部ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土下層。I、底部のみ。
24	甕	A、口縁部径(17.4)。B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D、片岩粒。E、良好。F、内外一淡茶褐色。G、口唇部にキザミあり。H、覆土下層。I、1/5。

25	霽	A, 口縁部径14.8~16.2, 残存高18.9, B, 輪積み。C, 口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土下層。I, 3/4。
26	霽	A, 口縁部径16.6, 残存高25.5, B, 粘土紐巻き上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ケズリ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 外一褐色、内一淡褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土下層。I, 2/3。
27	霽	A, 口縁部径16.6, 器高30.0, B, 輪積み。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデの後ケズリ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土下層。I, 4/5。
28	霽	A, 口縁部径18.8, 底部径6.5, 器高23.8, B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ナデ、胴部内外面ケズリの後ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗褐色。G, 外面に煤の付着あり。H, 覆土下層。I, 3/4。
29	霽	A, 口縁部径 (17.4)。B, 輪積み。C, 口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデの後下半ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 不良。F, 内外一暗茶褐色。H, 覆土下層。I, 1/2。
30	霽	A, 口縁部径18.4, B, 粘土紐巻き上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗茶褐色。H, 覆土下層。I, 3/4。
31	霽	A, 口縁部径 (28.8)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ナデ、胴部内外面ハケ。D, 白色粒。E, 良好。F, 内外一褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土下層。I, 1/2。
32	霽	A, 口縁部径 (16.8)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後ケズリ、内面ケズリ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一茶褐色。H, 覆土下層。I, 1/3。
33	霽	A, 口縁部径21.2, 底部径7.5, 器高24.3, B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ナデ、胴部内外面ケズリの後ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 外一淡褐色、内一灰褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土下層。I, 3/4。
34	霽	A, 口縁部径 (21.8), 底部径6.8, 器高22.7, B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 外一淡褐色、内一淡褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土下層。I, 3/4。
35	霽	A, 口縁部径16.4, B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一淡褐色。H, 覆土下層。I, 2/3。
36	霽	A, 口縁部径 (19.4), 残存高17.5, B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 外一淡褐色、内一淡褐色。H, 覆土下層。I, 1/4。
37	台付霽	A, 残存高9.0, B, 粘土紐積み上げ。C, 外面ハケの後ナデ。胴部内面ナデ。台部内面ハケの後ナデ。D, 片岩粒。E, 良好。F, 内外一暗茶褐色。H, 覆土下層。I, 胴部下半のみ。
38	台付霽	A, 残存高3.6, B, 粘土紐積み上げ。C, 内外面ナデ。D, 角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一淡褐色。H, 覆土下層。I, 1/2。
39	台付霽	A, 口縁部径 (9.8), 残存高14.5, B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、白色粒。E, 良好。F, 内外一暗褐色。G, 外面は二次焼成を受けている。H, 覆土下層。I, 1, 1/2。
40	霽	A, 口縁部径12.6, B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ケズリの後ナデ。D, 白色粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗茶褐色。H, 覆土下層。I, 3/4。
41	霽	A, 口縁部径14.5, B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面上半指ナデ、下半ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一暗褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土下層。I, 1/3。

42	糞	A、口縁部径14.1、残存高19.7。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一上半淡褐色、下半黒褐色。G、胴部下外面は二次焼成を受けている。H、覆土下層。I、2/3。
43	糞	A、口縁部径12.9。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、不良。F、内外一淡褐色、内一黒褐色。H、覆土下層。I、1/2。
44	糞	A、口縁部径15.8。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。H、覆土下層。I、1/2。
45	糞	A、口縁部径14.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面指ナデ。D、白色粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗茶褐色。H、覆土下層。I、1/2。
46	糞	A、口縁部径12.4。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一淡茶褐色、内一暗褐色。H、覆土中。I、3/4。
47	台付糞	A、口縁部径10.8、器高19.8。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。胴部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。G、外面は二次焼成を受けている。H、覆土下層。I、2/3。
48	台付糞	A、残存高5.9。B、粘土組織み上げ。C、外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土下層。I、1/2。
49	台付糞	A、残存高7.6。B、粘土組織み上げ。C、外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一淡褐色。H、覆土下層。I、1/2。
50	高 環	A、口縁部径19.0、器高15.3。B、粘土積み上げ。C、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。G、環部外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、2/3。
51	高 環	A、残存高11.5。B、輪積み。C、外面ケズリの後、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D、白色粒、角閃石。E、良好。F、内外一淡褐色。H、覆土下層。I、脚部のみ。
52	高 環	A、口縁部径19.0、残存高14.0。B、粘土組織み上げ。C、内外面ナデ。D、白色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土下層。I、脚部下半欠失。
53	高 環	A、口縁部径19.8、器高14.6。B、粘土組織み上げ。C、外面ミガキ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一暗橙褐色、内一淡褐色。H、覆土下層。I、4/5。
54	高 環	A、残存高10.7。B、粘土組織み上げ。C、外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリの後ナデ。脚端部外面ヨコナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、脚端部外面に暗文あり。H、覆土下層。I、脚部のみ。
55	高 環	A、口縁部径(16.9)、器高15.3。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ、環部外面ケズリ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡橙褐色。H、覆土下層。I、2/3。
56	高 環	A、口縁部径16.0、器高14.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、3/4。
57	高 環	A、残存高10.6。B、粘土組織み上げ。C、内外面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土上層。I、脚部のみ。
58	高 環	A、口縁部径(15.6)、残存高13.9。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ケズリ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土下層。I、1/2。
59	高 環	A、口縁部径(19.0) B、粘土組織み上げ。C、口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土下層。I、1/2。

60	高 环	A, 残存高9.9, B, 粘土組織み上げ, C, 外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, D, 片岩粒, 角閃石, 白色粒, E, 良好, F, 内外一橙褐色, H, 覆土下層, I, 脚部のみ。
61	高 环	A, 口縁部径 (14.8), B, 粘土組織み上げ, C, 口縁部内外面ミガキ, 環部外面ケズリ, D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 内外一暗橙褐色, H, 覆土下層, I, 1/2。
62	高 环	A, 口縁部径 (13.2), 器高12.0, B, 粘土組織み上げ, C, 内外面ナデ, D, 白色粒, 角閃石, E, 良好, F, 内外一橙褐色, H, 覆土上層, I, 1/2。
63	高 环	A, 残存高13.5, B, 粘土組織み上げ, C, 外面ミガキ, 内面ナデ, D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 内外一淡橙褐色, H, 覆土下層, I, 1/2。
64	高 环	A, 口縁部径15.4, 器高18.6, B, 粘土組織み上げ, C, 口縁部内外面ナデ, 胴部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, D, 白色粒, 角閃石, E, 良好, F, 内外一暗橙褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 覆土下層, I, 4/5。
65	壺	A, 口縁部径13.6, 推定高 (16.8), B, 輪積み, C, 口縁部外面ナデ, 胴部外面ハケの後上半ナデ, 内面ナデ, D, 白色粒, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 外一暗茶褐色, 内一黒褐色, H, 覆土下層, I, 2/3。
66	壺	A, 口縁部径 (12.0), 器高18.4, B, 輪積み, C, 外面ケズリの後ミガキ, 口縁部内面ミガキ, 胴部内面ナデ, D, 片岩粒, 角閃石, E, 不良, F, 内外一橙褐色, 内一淡灰褐色, H, 覆土下層, I, 3/4。
67	壺	A, 口縁部径 (11.8), 器高15.3, B, 粘土組織み上げ, C, 外面ハケの後ナデ, 内面ハケ, D, 白色粒, 角閃石, E, 良好, F, 外一暗茶褐色, 内一黒褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 覆土下層, I, 2/3。
68	壺	A, 残存高11.3, B, 粘土組織み上げ, C, 外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, D, 白色粒, 角閃石, E, 良好, F, 内外一淡褐色, H, 覆土下層, I, 2/3。
69	壺	A, 底部径5.4, 残存高10.4, B, 粘土組織み上げ, C, 口縁部外面ナデ, 内面ハケ, 胴部外面ハケの後ナデ, 内面ナデ, D, 白色粒, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 内外一暗橙褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 覆土下層, I, 胴部のみ。
70	瓶	A, 口縁部径17.5~18.5, 底部径5.2, 器高9.9, B, 粘土組織み上げ, C, 外面ケズリの後ナデ, 内面ハケの後寛ナデ, D, 白色粒, E, 良好, F, 内外一明茶褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 覆土下層, I, ほぼ完形。
71	瓶	A, 口縁部径16.8, 底部径5.1, 器高9.9, B, 粘土組織み上げ, C, 外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 内外一橙褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 覆土下層, I, 2/3。
72	瓶	A, 口縁部径 (12.0), 底部径3.0, 器高8.5, B, 粘土組織み上げ, C, 外面ナデ, 内面寛ナデの後下半指ナデ, D, 白色粒, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 内外一暗橙褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 覆土下層, I, 1/3。
73	器 台	A, 口縁部径15.6, 器高12.3, B, 粘土組織み上げ, C, 口縁部内外面・脚部外面ミガキ, 脚部内面ハケの後上半ケズリ, 下半ナデ, D, 片岩粒, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 内外一明橙褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 覆土下層, I, ほぼ完形。
74	器 台	A, 残存高2.6, B, 粘土組織み上げ, C, 外面ハケの後ナデ, 内面ナデ, D, 白色粒, 黒色粒, E, 良好, F, 内外一乳白色, G, 口縁部内外面と脚部外面は赤彩, 口縁部に凹孔あり, 胎土は在地のものと異なる, H, 覆土下層, I, 3/4。
75	甕	A, 口縁部径 (10.8), 底部径4.5, 器高13.1, B, 粘土組織み上げ, C, 口縁部外面ヨコナデ, 内面ミガキ, 胴部外面ミガキ, 内面ナデ, D, 白色粒, 角閃石, 黒色粒, 赤色粒, E, 良好, F, 内外一淡褐色, G, 外面に黒斑あり, H, 覆土下層, I, 1/2。
76	鉢	A, 口縁部径12.0, B, 粘土組織み上げ, C, 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, D, 白色粒, 角閃石, 赤色粒, E, 良好, F, 内外一暗橙褐色, H, 覆土下層, I, 2/3。

77	鉢	A、口縁部13.2、B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D、白色粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、3/4。
78	鉢	A、口縁部径11.2、器高6.8。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、3/4。
79	鉢	A、口縁部径11.0、底部径5.2、器高8.3。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、白色粒、角閃石。E、良好。F、内外一淡褐色。H、覆土下層。I、2/3。
80	鉢	A、口縁部径(9.4)、残存高4.0。B、不明。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。内一黒灰色。H、覆土下層。I、1/2。
81	坏	A、口縁部径(11.0)、底部径(7.2)、器高6.2。B、粘土組織み上げ。C、内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石、白色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一暗橙褐色。H、覆土上層。I、1/2。
82	坏	A、口縁部径10.8、底部径4.8、器高3.6。B、不明。C、外面ケズリ、内面ナデ。D、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一茶褐色、内一暗橙褐色。G、外面に煤の付着あり。H、覆土下層。I、3/4。
83	甌	A、口縁部径8.2、器高8.9。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土上層。I、完形。
84	小形丸底壺	A、口縁部径9.8、器高11.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一橙褐色。H、覆土下層。I、4/5。
85	小形丸底壺	A、口縁部径9.4、器高9.6。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、片岩粒、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、2/3。
86	小形丸底壺	A、口縁部径(8.2)、器高9.3。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、不良。F、内外一暗茶褐色。H、覆土下層。I、2/3。
87	小形丸底壺	A、口縁部径(8.6)、底部径4.1、器高8.5。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半ナデ、下半指ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、3/4。
88	小形丸底壺	A、口縁部径9.2、器高9.4。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面指ナデ。D、細砂粒。E、良好。F、内外一淡茶褐色。H、覆土下層。I、ほぼ完形。
89	小形丸底壺	A、口縁部径9.4、器高8.0。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ミガキ、胴部外面ミガキ、内面ナデ。D、白色粒、黒色粒、赤色粒。E、良好。F、内外一茶褐色。H、覆土下層。I、3/4。
90	小形丸底壺	A、口縁部径11.2、器高6.5。B、不明。C、口縁部外面ハケの後ミガキ、内面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗茶褐色。H、覆土下層。I、3/4。
91	小形丸底壺	A、口縁部径(9.6)、器高5.9。B、不明。C、外面ミガキ。口縁部内面ミガキ。胴部内面上半指ナデ、下半ナデ。D、細砂粒。E、良好。F、内外一淡褐色。肉一白褐色。H、覆土下層。I、4/5。
92	小形丸底壺	A、口縁部径11.6、底部径2.9、器高6.7。B、不明。C、口縁部外面ケズリの後ナデ、内面ハケの後ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗橙褐色。G、外面に黒斑あり。内面に放射状暗文あり。H、覆土下層。I、2/3。
93	小形丸底壺	A、口縁部径(9.2)、器高5.4。B、不明。C、口縁部外面ハケの後ナデ、内面ハケ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面指ナデ。D、片岩粒、角閃石、赤色粒。E、不良。F、内外一橙褐色、肉一暗灰色。H、覆土下層。I、1/2。
94	小形丸底壺	A、口縁部径(10.1)、器高4.3。B、不明。C、内外面ナデ。D、角閃石、赤色粒。E、良好。F、外一明橙褐色、内一淡褐色。H、覆土下層。I、1/3。

95	ミニチュア	A、底径22、残存高43、B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一暗褐色。H、覆土下層。I、胴部のみ。
96	ミニチュア	A、底径5.6、器高4.7。B、粘土組織み上げ。C、口縁部内外面ココナデ、胴部外面ナデの後下平ケズリ、内面ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一明褐色。G、外面に黒斑あり。H、覆土下層。I、2/3。
97	ミニチュア	A、口縁部径(5.4)、底部径2.5、器高4.4。B、粘土組織み上げ。C、内外面ナデ。D、片岩粒、角閃石。E、良好。F、内外一暗茶褐色。H、覆土上層。I、1/2。
98	ミニチュア	A、口縁部径(3.8)、底部径3.3、器高4.3。B、粘土組織み上げ。C、外面ナデ、内面指ナデ。D、白色粒、角閃石、赤色粒。E、良好。F、内外一淡褐色、肉一黒褐色。H、覆土上層。I、2/3。

河道跡出土石・鉄製品観察表

1	石製模造品 (剣形)	A、全長6.5、最大幅2.6、厚さ0.6、重量18g。C、表裏面とも研磨。D、滑石。G、作りは比較的雑である。穿孔痕は表面に3箇所、裏面に1箇所あるがいずれも貫通していない。側面に剥落あり。H、覆土上層。I、完形。
2	石製模造品 (剣形)	A、全長5.7、最大幅2.5、厚さ0.5、重量11g。C、表裏面とも研磨。D、滑石。G、穿孔は表面からの片面穿孔。表裏面に一部剥落あり。H、覆土上層。I、完形。
3	石製模造品 (剣形)	A、全長5.1、最大幅1.5、厚さ0.6、重量9g。C、表裏面とも一定方向の丁寧な研磨。D、滑石。G、穿孔は表面からの片面穿孔。裏面に一部剥落あり。H、覆土上層。I、完形。
4	石製模造品 (剣形)	A、全長4.4、最大幅1.3、厚さ0.5、重量5g。C、表裏面とも一定方向の丁寧な研磨。D、滑石。G、穿孔は片面穿孔。表裏面に一部剥落あり。H、覆土上層。I、完形。
5	石製模造品 (剣形)	A、全長4.6、最大幅1.7、厚さ0.4、重量5g。C、表裏面とも一定方向の丁寧な研磨。D、滑石。G、穿孔は表面からの片面穿孔。表裏面の穿孔周辺に一部剥落あり。H、覆土上層。I、完形。
6	石製模造品 (剣形)	A、残存長3.4、最大幅1.6、厚さ0.7、重量8g。C、表裏面とも丁寧な研磨。D、滑石。G、穿孔は片面穿孔。先端部欠損。裏面は剥落が著しい。H、覆土上層。I、3/4。
7	石製模造品 (剣形)	A、全長3.4、最大幅1.3、厚さ0.4、重量3g。C、表裏面とも丁寧な研磨。D、滑石。G、穿孔は表面からの片面穿孔。H、覆土上層。I、完形。
8	石製模造品 (剣形)	A、残存長4.4、最大幅1.6、厚さ0.5、重量4g。C、表裏面ともほとんど研磨は施されていない。D、滑石。G、上端に穿孔痕あり。H、覆土上層。I、上端部欠損。
9	石製模造品 (剣形)	A、全長3.7、最大幅1.4、厚さ0.4、重量6g。C、表裏面とも丁寧な研磨。D、滑石。G、穿孔は表裏面からの片面穿孔。H、覆土上層。I、完形。
10	石製模造品 (剣形)	A、全長3.5、最大幅1.2、厚さ0.45、重量4g。C、表裏面とも丁寧な研磨。D、滑石。G、穿孔は表面からの片面穿孔。表面に一部剥落あり。H、覆土上層。I、完形。
11	石製模造品 (剣形)	A、全長3.1、最大幅1.9、厚さ0.25、重量3g。C、表裏面とも丁寧な不定方向の研磨。D、滑石。G、穿孔は表面からの片面穿孔。表裏面に一部剥落あり。H、覆土上層。I、完形。
12	石製模造品 (剣形)	A、残存長2.3、最大幅2.1、厚さ0.5、重量7g。C、表裏面とも一定方向の丁寧な研磨。D、滑石。G、両端部欠損。H、覆土上層。I、1/3。
13	石製模造品 (剣形)	A、残存長3.3、最大幅1.6、厚さ0.3、重量3g。C、表裏面とも一定方向の研磨。D、滑石。G、上端部欠損。裏面に一部剥落あり。H、覆土上層。I、1/2。
14	石製模造品 (剣形)	A、残存長3.6、最大幅1.8、厚さ0.4、重量3g。C、表裏面とも一定方向の丁寧な研磨。D、滑石。G、裏面に一部剥落あり。H、覆土上層。I、1/2。
15	石製模造品 (剣形)	A、残存長3.0、最大幅1.7、厚さ0.45、重量5g。C、表裏面とも丁寧な研磨。D、滑石。G、両端部欠損。H、覆土上層。I、1/2。

16	石製模造品 (剣形)	A. 残存長3.3、最大幅2.4、厚さ0.45、重量8g。C. 表裏面とも丁寧な研磨。D. 滑石。G. 両端部欠損。側面に剥落あり。H. 覆土上層。I. 1/2。
17	石製模造品 (未製品)	A. 残存長3.25、残存幅2.9、厚さ0.35、重量4g。C. 表裏面とも不特定方向の研磨。D. 滑石。G. 側面部が一部残っているが、形態は不明。H. 覆土上層。I. 不明。
18	勾玉	A. 全長3.2、最大幅0.95、厚さ0.45、重量3g。C. 表面は丁寧な研磨。D. 滑石。G. 上端部は欠損し、裏面は剥離している。上端に穿孔痕あり、やや斜めに穿孔されている。H. 覆土上層。I. 4/5。
19	石製模造品 (有孔円盤)	A. 幅2.7~3.0、最大幅0.35、重量8g。C. 表裏面とも不特定方向の丁寧な研磨。D. 滑石。G. 表裏面とも一部剥落あり。穿孔は1孔で表面から片面穿孔。H. 覆土上層。I. 完形。
20	石製模造品 (有孔円盤)	A. 幅2.7~2.9、厚さ0.6、重量11g。C. 表裏面とも不特定方向の丁寧な研磨。D. 滑石。G. 表裏面とも一部剥落あり。穿孔は1孔で表面からの片面穿孔。H. 覆土上層。I. 完形。
21	石製模造品 (有孔円盤)	A. 幅1.5~1.7、厚さ0.3、重量2g。C. 表裏面とも丁寧な研磨。D. 滑石。G. 表面に一部剥落あり。穿孔は1孔で片面穿孔。H. 覆土上層。I. 完形。
22	鉄器 (刀子)	A. 残存長8.1、幅1.4、厚さ0.4。G. 刃部は一部剥落している。H. 覆土上層。I. 2/3。 23
23	鉄器 (不明)	A. 残存長2.0、幅3.1、厚さ0.15。G. 薄い板状のものであるが形態は不明。H. 覆土上層。I. 不明。
24	鉄器 (不明)	A. 幅4.5~5.0、厚さ0.2。B. 薄い板状で円形に近い形態を呈す。H. 覆土上層。I. ほぼ完形。
25	砥石	A. 全長14.7、最大幅2.15、厚さ1.7、重量128g。C. 上下端部と側面の一部は丁寧な研磨。D. 緑泥片岩。G. 穿孔は両面穿孔。表裏側面の平坦には上下方向の溝痕あり。H. 覆土上層。I. 完形。

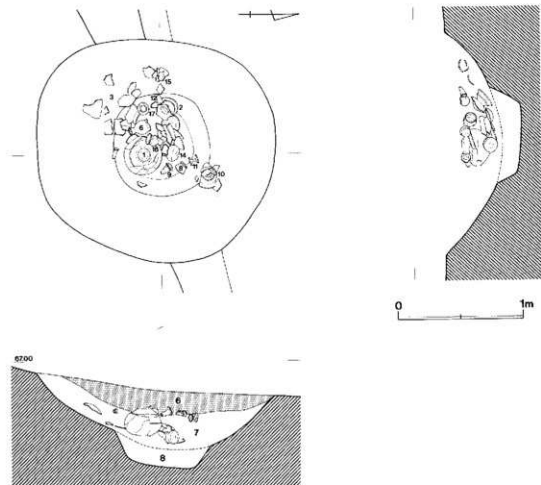
河道跡内土壌 (第113図、図版32-2)

本土壌は、河道跡南東側のちょうど河道が北東方向に流路の向きを変える地点の南側に位置している。

平面形は、比較的整った円形を呈し、規模は南北方向1.90m・東西方向1.77mを測る。深さは、河道底面より60cmあり、断面は皿状を呈している。底面は平坦で、南東側がやや高くなっている。土壌中央には、南北方向76cm・東西方向82cm・深さ17cmの不整形円形を呈する比較的しっかりした土壌状の落ち込みが見られる。この土壌下半の不整形円形を呈する落ち込みと皿状を呈する土壌上半とは、覆土や出土遺物の様相がやや異なることから、本土壌の上半と下半の形態差は、掘り返しによるものと考えられる。

覆土は、3層に分かれるが、上半と下半ではやや異なり、3層とも明瞭な不連続層をなしている。覆土上半は河道跡下層(第6・7層)と同一の覆土が堆積しており、下半は鉄珉とローム粒子を均一に含む暗灰色土(第8層)の単一層である。土層観察から推測すると、土壌中央の不整形円形を呈する落ち込みは、掘削後比較的短期間に埋没し、あまり時間を経ずして上半を皿状に掘り返したものである。

出土遺物は、比較的多く、すべて土器である。これらは、完形に近いものが多く、壺・甕・高坏・甌・杯・小形丸底壺など、この時期に見られる器種のほとんどが出土しているが、第6・7層の上層出土土器と第8層の下層出土土器では、その時期や出土状態に差異が見られる。

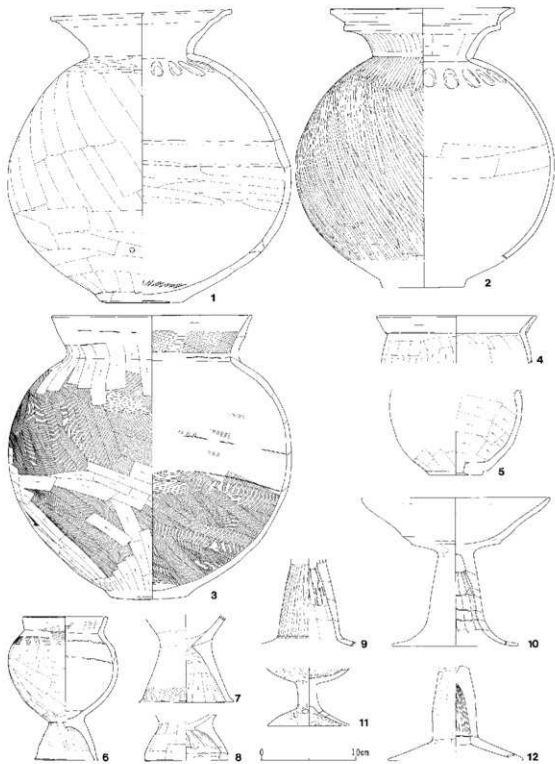


第113図 河道跡内土壌

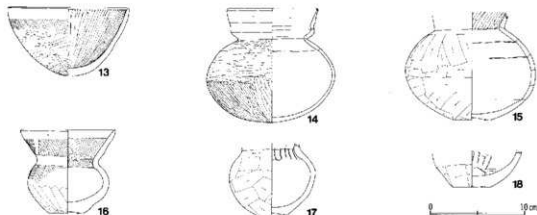
覆土上層出土土器（第114・115図）は、土壌中央部に集中し、比較的土器の形状を留めて個体毎にまとまった状態で出土している。時期は、和泉期初頭のもので、胴部下半に穿孔を有する壺（1）や小形台付甕（6）・小形高坏（11）など、祭祀的色彩の強い土器が多くある。また他の地域にその系譜を求めることができる土器（11・14）も見られる。

覆土下層出土土器（第116図）は、土器の形状を留めているものではなく、比較的大きな破片となって何重にも折り重なった状態で出土している。時期は、覆土上層出土土器より古い様相を呈し、五領期終末のものと考えられる。覆土上層出土土器と同じく、底部を欠く大形の壺（19）や特異な形態を有する丸底の甕（27）・ミニチュア的な小形丸底壺（24）など、あまり一般的には見られないものがある。

本土壌の掘削時期は、覆土下層出土遺物より五領期終末と考えられ、和泉期初頭に新しく掘り返された後、あまり時間を経ずして河道跡覆土第6層の黒色泥炭層の堆積により、ほぼ完全に埋没したものと推測される。



第114图 河道跡内土城覆土上層出土遺物(1)

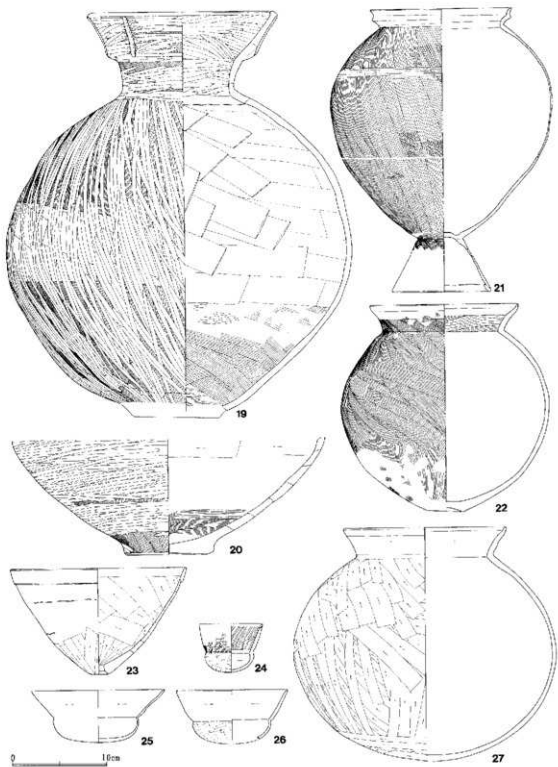


第115図 河道跡内土壌覆土層出土遺物(2)

本土壌は土層や出土遺物との比較から、河道が機能していた時期に掘削された可能性が高く、その位置からもおそらく河道と密接な関係を持つ土壌であることは明らかである。おそらく、出土遺物の内容から、河道の木利にかかわる祭祀場かあるいは祭祀に使用した器物の埋納場所と考えられる。同一地点での掘り返しや、土壌が埋没した後もその周辺の覆土層より多くの石製模造品が出土していることから、その場所もある程度決まっていたことが推測されよう。

河道跡内土壌覆土層出土遺物観察表

1	壺	A, 口縁部径(19.2)、底部径7.8、器高30.6。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 外面に黒斑あり。胴部下半に径0.6cmの穿孔(焼成後)あり。H, 覆土層。I, ほぼ完形。
2	壺	A, 口縁部径19.4、残存高26.6。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ナデ、内面匏ナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 外一淡橙褐色、内一橙褐色。H, 覆土層。I, 底部欠失。
3	甕	A, 口縁部径21.2、底部径8.1、器高30.0。B, 粘土紐巻き上げ。C, 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後一部ケズリ、内面ハケの後上半ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 覆土層。I, ほぼ完形。
4	鉢	A, 口縁部径(17.0)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後一部ナデ、内面匏ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 口縁部外面に糊の圧痕あり。H, 覆土層。I, 1/4。
5	瓶	A, 底部径5.8、残存高9.0。B, 粘土紐巻き上げ。C, 外面ケズリの後ナデ・内面ケズリ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一暗茶褐色。G, 底部穿孔は焼成後。H, 覆土層。I, 1/2。
6	台付甕	A, 口縁部径9.0、器高15.2。B, 粘土紐巻き上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後ケズリ、下半一部ナデ、内面ナデ。台部外面ナデ、内面指ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 外一橙褐色、内一淡茶褐色。H, 覆土層。I, ほぼ完形。
7	台付甕	A, 残存高9.3。B, 粘土紐積み上げ。C, 外面ハケの後ナデ、内面ケズリ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 外一橙褐色、内一淡茶褐色。H, 覆土層。I, 1/4。
8	台付甕	A, 残存高4.8。B, 粘土紐積み上げ。C, 外面匏ナデ、内面指ナデ。D, 片岩粒、黒色粒。E, 不良。F, 内外一暗茶褐色、内一淡褐色。H, 覆土層。I, 1/2。



第116图 河道跡内土填覆土下層出土遺物

9	高 环	A, 残存高9.3, B, 粘土組織き上げ。C, 脚部外面ケズリの後ミガキ、内面匏ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 覆土上層。I, 2/3。
10	高 环	A, 口縁部径(20.0)、残存高15.2。B, 粘土組織き上げ。C, 口縁部内外面ナデ。環部外面匏ナデ。脚部内外面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。H, 覆土上層。I, 1/2。
11	高 环	A, 残存高6.1。B, 不明。C, 内外面ミガキ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 不良。F, 内外一茶褐色、肉一暗灰色。G, 脚部穿孔(燒成前)は3孔。H, 覆土上層。I, 口縁部欠失。
12	高 环	A, 残存高9.7。B, 粘土組織き上げ。C, 内外面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一淡橙褐色。H, 覆土上層。I, 脚部のみ。
13	壺	A, 口縁部径(12.8)、器高7.2。B, 輪積み。C, 外面ハケの後ミガキ、内面ミガキ。D, 片岩粒、黒色粒。E, 良好。F, 内外一暗茶褐色、肉一淡褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土上層。I, 1/3。
14	壺	A, 口縁部径9.6、器高12.0。B, 粘土組織き上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 外一橙褐色、内一灰褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土上層。I, 完形。
15	壺	A, 底部径4.0、残存高11.4。B, 輪積み。C, 口縁部外面ヨコナデ、内面ミガキ。脚部外面ケズリの後一部ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、E, 良好。F, 外一橙褐色、内一淡褐色。H, 覆土上層。I, 脚部のみ。
16	小形丸底壺	A, 口縁部径10.0、底部径3.5、器高8.9。B, 粘土組織き上げ。C, 口縁部内外面ハケの後口唇部ヨコナデ。脚部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土上層。I, 完形。
17	小形丸底壺	A, 底部径3.2、残存高7.6。B, 粘土組織き上げ。C, 外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土上層。I, 口縁部欠失。
18	小形丸底壺	A, 底部径4.0。B, 粘土組織き上げ。C, 外面ケズリの後ナデ、内面匏ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 不良。F, 内外一暗茶褐色、肉一暗褐色。H, 覆土上層。I, 底部のみ。

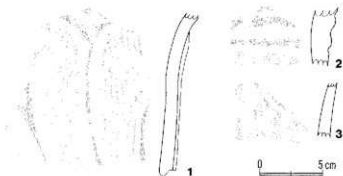
河道路内土壙覆土下層出土遺物観察表

19	壺	A, 口縁部径20.0、残存高42.2。B, 粘土組織き上げ。C, 口縁部内外面ハケの後ミガキ。脚部外面ハケと一部ケズリの後ミガキ、内面ハケの後匏ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一橙褐色。G, 外面に黒斑あり。口縁部外面の棒状浮文は一本一組で等間隔に6本位施文されている。H, 覆土下層。I, 3/4。
20	壺	A, 底部径9.4。B, 粘土組織き上げ。C, 外面ハケの後ミガキ、内面ハケの後匏ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 不良。F, 内外一橙褐色、肉一淡褐色。H, 覆土下層。I, 1/3。
21	台付甕	A, 口縁部径15.0、推定高(30.0)。B, 粘土組織き上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。脚部外面ハケ、内面ナデ。台部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、黒色粒。E, 良好。F, 外一茶褐色、内一淡褐色。H, 覆土下層。I, 1/2。
22	甕	A, 口縁部径15.6、底部径4.0、器高22.0。B, 粘土組織き上げ。C, 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。脚部外面ハケ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一淡褐色。G, 脚部外面下半は斑点状剥落が著しい。H, 覆土下層。I, ほぼ完形。
23	瓶	A, 口縁部径(18.6)、底部径(2.0)、器高11.2。B, 粘土組織き上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。脚部外面ナデの後、下半ケズリ、内面匏ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一淡茶褐色、肉一黒茶褐色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土下層。I, 1/4。
24	小形丸底壺	A, 残存高5.0。B, 粘土組織き上げ。C, 口縁部外面ハケの後ナデ、内面ハケ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 角閃石、赤色粒。E, 不良。F, 外一淡橙褐色、内一淡褐色、肉一乳白色。G, 外面に黒斑あり。H, 覆土下層。I, 口縁部欠失。
25	小形丸底壺	A, 口縁部径14.0、器高5.5。B, 不明。C, 口縁部内外面ハケの後ナデ。脚部内外面ナデ。D, 片岩粒、角閃石、赤色粒。E, 良好。F, 内外一淡褐色。H, 覆土下層。I, 3/4。

26	小形丸底甕	A, 口縁部径(11.9)、残存高5.3, B, 不明, C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 内外一明茶褐色。H, 覆土下層。I, 1/6。
27	甕	A, 口縁部径17.2、器高24.3, B, 粘土組織み上げ, C, 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面外面ケズリ、内面ナデ。D, 片岩粒、角閃石。E, 良好。F, 外一淡茶褐色, 内一黒灰色。G, 外面に黒斑と煤の付着あり。H, 覆土下層。I, ほぼ完形。

6. 縄文土器

C地点の調査では、井戸跡と倒木痕の覆土中より縄文土器の破片が少量出土している。1は表採、2は第7号井戸跡より、3は倒木痕(SX-3)より出土したもので、時期はそれぞれ1が中期末、2が中期、3が後期前半に位置づけられる。



第117図 C地点出土縄文土器



参 考 文 献

- 赤熊 浩一 (1988)「将監塚・古井戸Ⅱ —歴史時代編Ⅱ—」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第71集
- 浅野 一郎 (1999)「大久保山Ⅴ」 早稲田大学本庄校地文化財調査報告5
- 荒川 正夫他 (1980)「宥勝寺北裏遺跡」 宥勝寺北裏遺跡調査会
- (1980)「大久保山Ⅰ」 早稲田大学本庄校地文化財調査報告1
- (1993)「大久保山Ⅱ」 早稲田大学本庄校地文化財調査報告2
- (1995)「大久保山Ⅲ」 早稲田大学本庄校地文化財調査報告3
- 荒川 正夫 (1998)「大久保山Ⅳ」 早稲田大学本庄校地文化財調査報告6
- (1999)「大久保山Ⅵ」 早稲田大学本庄校地文化財調査報告7
- (2000)「大久保山Ⅶ」 早稲田大学本庄校地文化財調査報告8
- (2001)「大久保山Ⅹ」 早稲田大学本庄校地文化財調査報告10
- 石塚 和則 (1986)「将監塚 —縄文時代—」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第63集
- 磯崎 一 (1995)「今井川越田遺跡」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第177集
- 井上 尚明 (1986)「将監塚・古井戸Ⅰ —古墳・歴史時代編Ⅰ—」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第64集
- 岩瀬 譲 (1998)「地神ノ塔頭」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第193集
- 岩田 明弘 (1998)「今井条里遺跡」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第192集
- 大熊 季広 (2002)「物見塚古墳の墳形および墳丘規模確認調査」『児玉郡市文化財担当者会報』第2号
- 大熊季広・桜井和哉 (2000)「共和小学校校庭遺跡 —C地点の調査—」 児玉町遺跡調査会報告書第8集
- 太田 博之 (1994)「本庄86号遺跡発掘調査報告書」 本庄市遺跡調査会報告第3集
- (2003)「宥勝寺裏壇輪窓跡・宥勝寺北裏」 本庄市埋蔵文化財調査報告第26集
- (2005)「四方田(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ次調査)・久下東(Ⅱ次調査)」 本庄市埋蔵文化財調査報告第31集
- 太田博之・佐藤好司 (1991)「本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅴ —公卿塚古墳—」 本庄市埋蔵文化財調査報告書第19集
- 小澤 正人 (1996)「大久保山Ⅳ」 早稲田大学本庄校地文化財調査報告4
- 柿沼幹夫・小久保徹 (1978)「東谷・前山2号墳・古川端」 埼玉県発掘遺跡調査報告書第16集
- (1979)「下田・諏訪」 埼玉県遺跡発掘調査報告書第21集
- 河西 学 (1981)「重鋳物分析」『倉林後遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第3集
- 惣河内昭彦 (1989)「共和小学校校庭遺跡」 児玉町文化財調査報告書第10集
- (1990)「根田遺跡」 児玉町文化財調査報告書第12集
- (1990)「雷電下遺跡 —B・C地点— (図版編)」 児玉町文化財調査報告書第13集

- (1993)『川越田遺跡Ⅱ』 児玉町遺跡調査会報告書第5集
- (1995)『南共和・新宮遺跡』 児玉町遺跡調査会報告書第6・7集
- (1995)『飯玉東Ⅱ・高縄田・榑越・梅沢Ⅱ・東牧西分・鶴蒔・毛無し屋敷・石橋』
児玉町文化財調査報告書第17集
- (1996)『辻堂遺跡Ⅰ』 児玉町文化財調査報告書第19集
- (1996)『辻堂Ⅱ・南街道・宮田遺跡』 児玉町文化財調査報告書第20集
- (1997)『城の内・日延・東田・浅見境北遺跡』 児玉町文化財調査報告書第23集
- (1998)『向田A・向田B・壹丁田遺跡』 児玉町文化財調査報告書第27集
- (1999)『日延Ⅱ・児玉条里遺跡』 児玉町文化財調査報告書第31集
- (1999)『雷電下Ⅲ・南ノ前遺跡』 児玉町文化財調査報告書第32集
- (2001)『女池遺跡(B・D地点の調査)』 児玉町文化財調査報告書第35集
- (2001)『礮山古墳の第2次墳形確認調査』『児玉都市文化財担当者会報』第1号
- (2004)『女池遺跡Ⅱ(A地点の調査)』 児玉町遺跡調査会報告書第16集
- 駒宮 史朗 (1977)『御林下遺跡』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第13集
- 駒宮史朗・宮崎朝雄他(1978)『中堀・耕安地・久城前』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第15集
- 駒宮史朗・増田逸朗他(1979)『雷電下・飯玉東』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第22集
- 昆 彭生 (2001)『大久保山区』 早稲田大学本庄校地文化財調査報告9
- 埼玉 県 (1982)『埼玉県史』 資料編2
- 佐藤 好司 (1989)『諏訪遺跡(B地点)・久城前(B地点)発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告第15集
- 菅谷浩之・駒宮史朗(1973)『生野山古墳群発掘調査概報』『第6回遺跡発掘調査報告会発表要旨』
埼玉考古学会・埼玉県遺跡調査会・埼玉県教育委員会
- 菅谷浩之・笹森健一(1976)『宮下・榑之口遺跡発掘調査概報』 埼玉県児玉郡美里村教育委員会
- 菅谷 浩之 (1984)『北武蔵における古式古墳の成立』 児玉町史史料調査報告書古代第一集
- 菅谷 浩之他(1969)『本庄市塚合古墳調査報告書』 本庄市文化財調査報告書第8集
- (1978)『日の森遺跡発掘調査概報』 埼玉県児玉郡美里村教育委員会
- 鈴木 純 (1978)『いぶき一塚本山古墳群分布調査報告一』第10号 埼玉県立本庄高等学校
考古学部
- 鈴木徳雄・西口正純(1980)『深町・城の内遺跡』 深町遺跡調査会
- 鈴木 徳雄他(1983)『阿知越遺跡Ⅰ』 児玉町文化財調査報告書第3集
- (1984)『阿知越遺跡Ⅱ』 児玉町文化財調査報告書第4集
- (1988)『中畑遺跡・塚本山古墳群』 児玉町遺跡調査会報告書第3・4集
- (1989)『真下境東遺跡』 児玉町文化財調査報告書第9集
- (1991)『辻ノ内・中下田・塚合・児玉条里遺跡』 児玉町文化財調査報告書第15集
- (1997)『蔭塚塚東・平塚・藤塚遺跡』 児玉町文化財調査報告書第26集
- (2002)『塚本山古墳群(第3次調査)』 児玉町遺跡調査会報告書第12集

- 瀧瀬 芳之 (1997)『今井川越田遺跡Ⅲ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第191集
- 田口 一郎他 (1975)『いぶき—児玉郡及び周辺地域における前方後円墳の研究—』8・9合併号
埼玉県立本庄高等学校考古学部
- 徳山 寿樹他 (1994)『平塚・左口・児玉条里遺跡』 児玉町文化財調査報告書第16集
- (1995)『堀向・藤塚A・柿島・内手B・C・児玉条里遺跡』 児玉町文化財調査報告書第18集
- (1996)『東鹿沼・藤塚B1・児玉条里遺跡』 児玉町文化財調査報告書第21集
- (1996)『藤塚遺跡—B2地点の調査—』 児玉町文化財調査報告書第22集
- (1997)『金佐奈遺跡—A1地点の調査—』 児玉町文化財調査報告書第24集
- (1997)『金佐奈C・児玉条里遺跡上田地区』 児玉町文化財調査報告書第25集
- (1998)『金佐奈遺跡I—B地点の調査—』 児玉町文化財調査報告書第30集
- 徳山寿樹・大熊季広 (1998)『金佐奈遺跡—A2地点の調査—』 児玉町文化財調査報告書第29集
- (1999)『金佐奈遺跡Ⅱ—B地点の調査—』 児玉町文化財調査報告書第33集
- 利根川章彦 (1998)『御林下遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第223集
- (1998)『西富田・四方田条里遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第224集
- 富田和夫・赤熊浩一 (1985)『立野南・八幡太神南・熊野太神南・今井遺跡群・一丁田・川越田・梅沢』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第46集
- 長谷川 勇他 (1984)『本庄遺跡群発掘調査報告書—夏目遺跡・三笠山・三笠山7号墳—』本庄市埋蔵文化財調査報告書第6集
- (1985)『夏目遺跡発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第5集2分冊
- (1986)『本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ—社具路遺跡Ⅱ・三笠山1号～6号墳—』本庄市埋蔵文化財調査報告書第8集
- (1987)『社具路遺跡発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第5集3分冊
- (1994)『将監塚遺跡B地点発掘調査報告書』 本庄市遺跡調査会報告第4集
- 長谷川典明 (1981)『神流川流域用水の研究—九郷用水・阿保領用水を中心として—』
- 長谷川典明他 (1989)『九郷用水関係資料集』 児玉町史料調査報告第12集
- 伴瀬 宗一 (1996)『今井川越田遺跡Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第178集
- 細田 勝他 (1984)『向田・権現塚・村後』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第38集
- 堀口 万吉 (1980)『埼玉県の地形と地質』『埼玉県市町村誌』第20巻 埼玉県教育委員会
- 本 庄 市 (1976)『本庄市史』資料編
- (1986)『本庄市史』通史編Ⅰ
- 増田 一裕 (1985)『本庄市遺跡発掘調査報告書Ⅱ—久下東遺跡・遺構編—』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第7集
- (1987)『南大通り線内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第9集第1分冊
- (1987)『東富田遺跡発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第10集

- (1987)「本庄住宅団地内遺跡群発掘調査報告書」本庄市埋蔵文化財調査報告第11集
- (1989)「南大通り線内遺跡発掘調査報告書Ⅱ」本庄市埋蔵文化財調査報告第9集
第2分冊
- (1989)「四方田・後張遺跡群発掘調査報告書」本庄市埋蔵文化財調査報告第14集
- (1990)「諏訪・久城前・久城往来北遺跡発掘調査報告書」本庄市埋蔵文化財調査報告第17集
- (1990)「山根遺跡群発掘調査報告書」本庄市埋蔵文化財調査報告第18集
- (1991)「南大通り線内遺跡発掘調査報告書Ⅲ」本庄市埋蔵文化財調査報告第9集
第3分冊
- (1992)「女堀川条里今井地区前田甲遺跡発掘調査報告書—遺構編—」本庄市埋蔵文化財調査報告第20集第1分冊
- (1992)「今井諏訪遺跡群発掘調査報告書」本庄市埋蔵文化財調査報告第21集
- (1995)「前田甲遺跡発掘調査報告書—遺物編—」本庄市埋蔵文化財調査報告第20集第2分冊
- (1996)「社具路遺跡第9地点発掘調査報告書」本庄市遺跡調査会報告第5集
- 増田逸朗・小久保 徹 (1977)「塚本山古墳群」埼玉県遺跡発掘調査報告書第10集
- 増田逸朗・立石盛詞他 (1982)「後張Ⅰ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第15集
(1983)「後張Ⅱ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第26集
- 増田逸朗・坂本和俊他 (1986)「埼玉県古式古墳調査報告書」埼玉県史編さん室
- 松本 完・町田奈緒子 (2002)「久下前遺跡第3地点発掘調査報告書」本庄市埋蔵文化財調査報告第25集
(2002)「大久保山遺跡浅見山Ⅰ地区(第2次)・北堀前山古墳群(第2・3次)発掘調査報告書」本庄市遺跡調査会報告第6集
(2004)「東本庄」本庄市埋蔵文化財調査報告第29集
- 松本 完 (2004)「九反田(Ⅲ次調査)・観音塚(Ⅲ次調査)」本庄市埋蔵文化財調査報告第28集
- 丸山 修 (1991)「往来北遺跡発掘調査報告書」上里町教育委員会
- 美里 町 (1986)「美里町史」通史編
- 宮井 栄一 (1989)「古井戸—縄文時代—」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第75集
- 柳田 敏司 (1964)「埼玉県児玉町生野山将軍塚古墳発掘調査概報」『上代文化』第34輯
- 和久 裕昭 (2004)「今井原屋敷遺跡—第2地点—」本庄市遺跡調査会報告第9集



写真図版



倭張遺跡C地点調査区全景（南より）



後邪道跡C地点調査区全景（北より）



1. C地点遠景



2. C地点調査区全景 (南より)



1. 第192号住居跡



2. 第192号住居跡遺物出土状態



1. 第192号住居跡黑色土層中遺物出土狀態 (1)



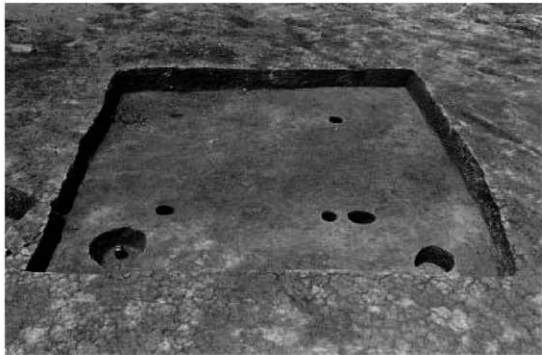
2. 第192号住居跡黑色土層中遺物出土狀態 (2)



1. 第192号住居跡南西コーナー部遺物出土状態



2. 第192号住居跡南東コーナー部遺物出土状態



1. 第193号住居跡



2. 第193号住居跡遺物出土状態



1. 第194号住居跡



2. 第194号住居跡遺物出土状態



1. 第195号住居迹



2. 第195号住居迹遗物出土状态



1. 第196号住居跡



2. 第196号住居跡遺物出土状態



1. 第197号住居跡



2. 第196・197号住居跡



1. 第198号住居跡



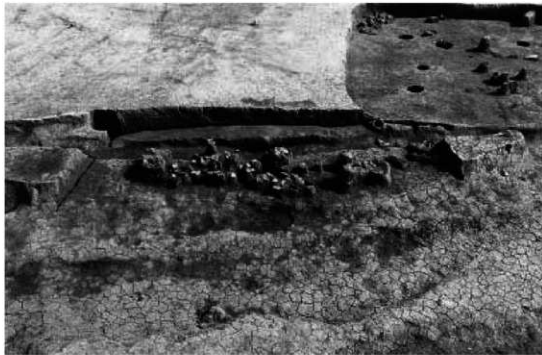
2. 第199号住居跡



1. 第198号住居迹遗物出土状态 (1)



2. 第198号住居迹遗物出土状态 (2)



1. 第200号住居跡



2. 第201号住居跡



1. 第203号住居跡



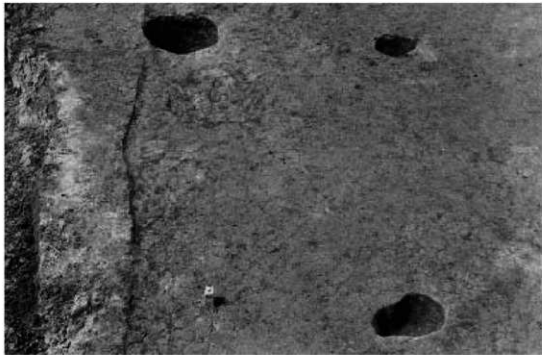
2. 第203号住居跡貯藏穴内遺物出土狀態



1. 第204号住居跡



2. 第204号住居跡貯藏穴内遺物出土状態



1. 第205号住居跡



2. 第206号住居跡 (1)



1. 第206号住居跡(2)



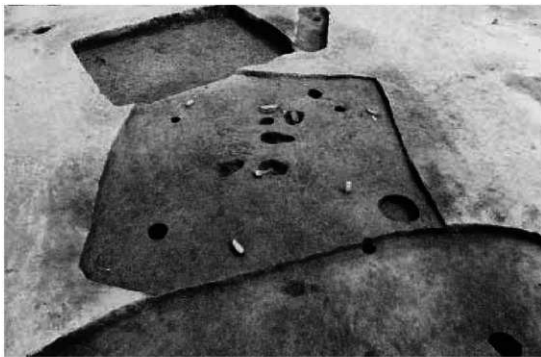
2. 第207号住居跡



1. 第208号住居跡



2. 第208号住居跡遺物出土状態



1. 第209号住居跡



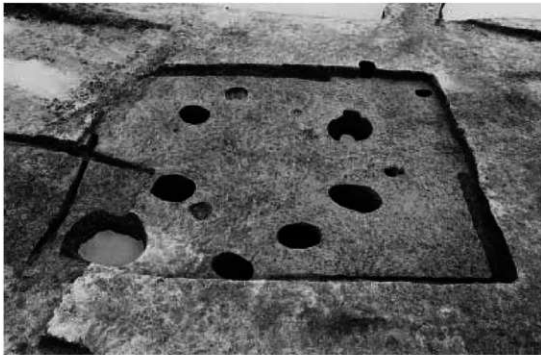
2. 第210号住居跡



1. 第211·212号住居跡



2. 第213号住居跡



1. 第214号住居跡



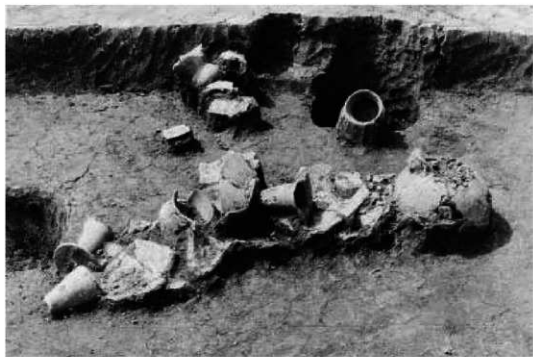
2. 第214号住居跡遺物出土状態



1. 第215号住居跡



2. 第216号住居跡



1. 第215号住居跡遺物出土狀態



2. 第215号住居跡貯藏穴上面遺物出土狀態



1. 第217号住居跡



2. 第217号住居跡遺物出土状態



1. 第38号土坑



2. 第39号土坑



1. 第40号土壤



2. 第42号土壤



1. 第4号井戸跡



2. 第5号井戸跡



1. 第6号井戸跡



2. 第7・8・9・10号井戸跡



1. C—1号沟迹



2. C—1号沟迹遗物出土状态



1. C-2号溝跡群 (西より)



2. C-2号溝跡群 (東より)



1. 河道跡（東より）



2. 河道跡内土壌



192-1



192-2



192-6



192-7



192-8



192-9



192-10



192-13



192-14



192-16



192-17



192-18

1. 第192号住居跡黑色土層出土土器



192-29



192-30



192-33



192-34



192-35



192-36



192-37



192-45



192-47



192-48



192-49



192-50



193—1



193—8



193—11



193—14



193—15



193—16



193—17



193—20



193—21



193—23



193—25



193—26

1. 第193号住居跡出土土器(1)



193—28



193—29



193—30



193—31



193—32



193—33



193—34



193—36



193—38



193—41



193—42



193—57

1. 第193号住居跡出土土器(2)



194-1



194-2



194-6



194-7



194-8



194-9



194-11



194-12



195-1



196-1



196-2



196-3



196—5



196—6



196—8



196—10



196—13



196—14



196—15



196—16



197—1



197—5



197—6



197—7



198—1



198—2



198—4



198—5



198—6



198—9



199—1



200—1



200—2



200—7



200—8



200—11

1. 第198·199·200号住居跡出土土器



201-2



201-4



201-5



201-7



203-1



203-2



203-3



203-4



203-8



203-13



203-14



203-15



203-16



203-17



203-18



203-19



203-20



203-21



204-1



204-2



204-3



204-4



204-5



204-6



204-7



204-8



204-9



204-11



204-12



204-13



204-14



204-15



204-16



204-17



204-19



206-1



206-2



206-3



206-5



206-6



206-7



206-9



206-10



206-11



206-15



206-16



207-1



207-4



207—5



207—8



207—13



207—14



208—1



208—11



208—12



208—16



208—26



208—24



208—25



210—1



210-2



210-3



210-4



210-5



210-6



210-7



210-9



210-10



211-1



213-1



213-10



214-1



214—2



214—3



214—4



214—10



214—13



214—14



214—15



215—1



215—2



215—3



215—11



215—13



215-14



215-15



215-16



215-18



215-19



215-20



215-21



215-22



215-25



215-26



215-29



215-30



216—5



216—6



217—1



217—2



217—4



217—5



217—6



217—7



SK·40—1



SK·40—2



SD·2—1



SD·2—3

1. 第216·217号住居跡·第40号土壇·C—2号溝跡群出土土器



1



2



9



10



13



15



16



18



20



21



25



26

1. 河道跡出土土器(1)



27



28



33



34



39



40



42



47



50



53



55



56

1. 河道跡出土土器(2)



58



62



64



66



67



70



71



73



75



77



78



79

1. 河道跡出土土器(3)



82



83



84



87



88



89



90



91



92



96



97



98

1. 河道跡出土土器(4)



1



2



3



6



10



16



14



19



21



22

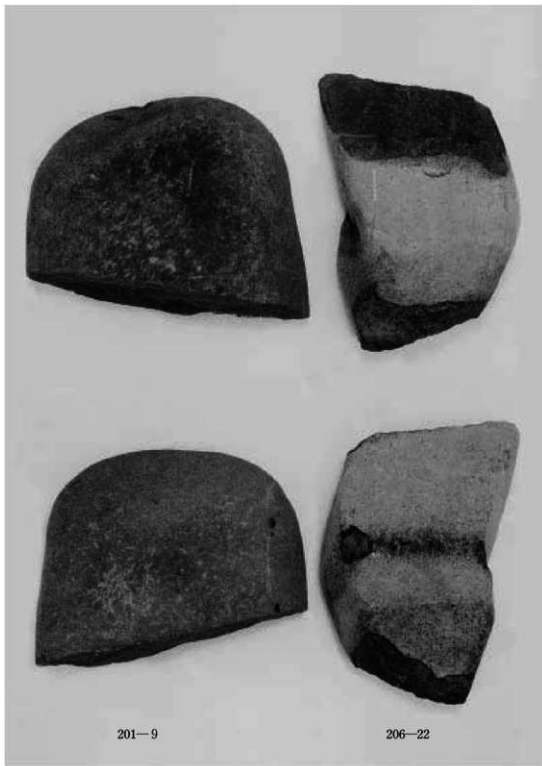


26

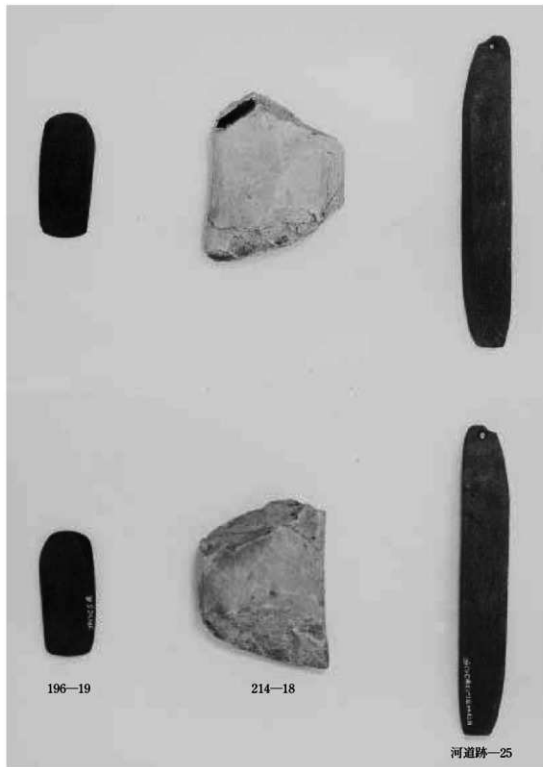


27

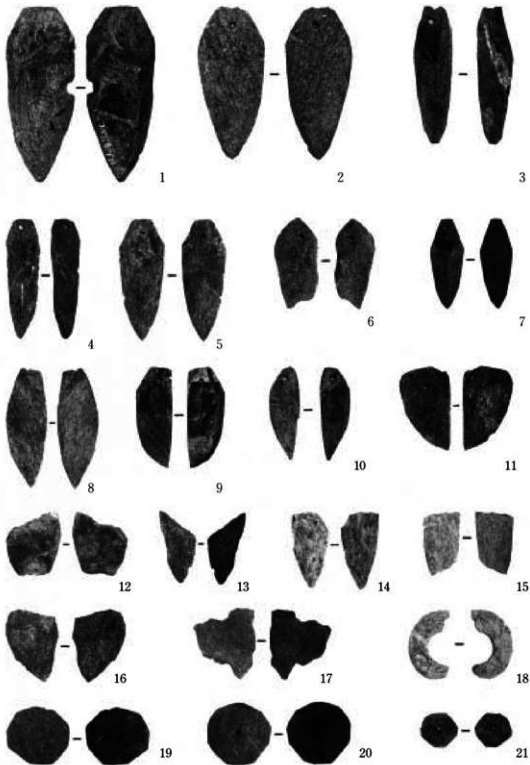
1. 河道迹内土坑出土土器



1. 砥石 (1)



1. 砥石(2)



1. 河道跡出土石製模造品



192—52



192—53



215—38



215—39



217—8

1. 住居跡出土石製模造品



192—51



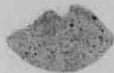
210—11



199—2



206—23



215—37

2. 土製・石製紡錘車



192—55



192—56



192—57



203—22



206—24



217—9



217—10



河道跡—22



河道跡—23



河道跡—24

1. 鉄製品



2. 後張遺跡C地点発掘調査風景

報告書抄録

フリガナ	ゴバリイセキⅢ (Cチテンノチョウサ)							
書名	後張遺跡Ⅲ (C地点の調査)	巻次	第20集					
シリーズ	児玉町遺跡調査会報告書							
編著者	恋河内昭彦							
編集機関	児玉町遺跡調査会							
所在地	〒367-0298 埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368番地 TEL 0495 (72) 1311							
発行日	2005 (平成17年) 12月1日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
後張遺跡 (C地点)	児玉郡児玉町 大字下浅見字 後張155番地外	113824	275	36°13'13"	139°9'52"	19850220 ↓ 19850731	3800	倉庫建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺跡		主な遺物		特記事項	
後張遺跡 (C地点)		縄文 (中・後期)			土器片			
	集落	古墳 (前・中・後期)	竪穴住居26、井戸1、 土壇6、溝1、河道		土器、土製品(紡錘車)、 石製品(砥石、紡錘車、 模造品)、鉄製品 (鐵、刀子、その他)			
	集落	奈良・平安	土壇1、溝1		土師器、須恵器			
	屋敷	中世	井戸6		在地産片口鉢、石製品 (砥石)、木製品(曲物)			

児玉町遺跡調査会組織

会 長	雄岡 茂 (児玉町教育委員会 教育長)
理 事	清水 守雄 (児玉町文化財保護審議 委員長)
〃	桜井 豊 (児玉町文化財保護審議 副委員長)
〃	間正 明彦 (児玉町文化財保護審議 委 員)
〃	富丘 文雄 (〃)
〃	福島 敏朗 (〃)
〃	立花 勲 (児玉町役場 総務課長)
〃	山中今朝男 (〃 総合政策課長)
〃	岩上 高男 (〃 農林商工課長)
〃	鈴木幸比古 (〃 土木課長)
〃	福島 秀雄 (〃 都市計画課長)
〃	笠原 義晴 (児玉町教育委員会 社会教育課長)
幹 事	倉林 益 (〃 社会教育課長補佐)
〃	鈴木 徳雄 (〃 社会教育課長補佐)
〃	恋河内昭彦 (〃 文化財係係長)
〃	徳山 寿樹 (〃 文化財係主任)
〃	大熊 季広 (〃 文化財係主事)
〃	松澤 浩一 (〃 文化財係主事)

児玉町遺跡調査会報告書 第20集

後 張 遺 跡 Ⅲ

(C地点の調査)

平成17年 11月30日 印刷

平成17年 12月 1日 発行

発行者 児玉町遺跡調査会

埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368番地

印刷所 たつみ印刷株式会社

埼玉県深谷市東大沼356番地